

農林水産業に関連する文化的景観の保護 に関する調査研究（報告）

平成15年6月12日

農林水産業に関連する文化的景観の
保存・整備・活用に関する検討委員会

文化庁文化財部記念物課

農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究（報告）

《 目 次 》

はじめに	1
------------	---

1. 調査研究の背景と目的	2
---------------------	---

(1) 背景	2
ア. 日本における「文化的景観」をめぐる学術研究の進展	3
イ. 「文化的景観」をめぐる国際的動向	3
(ア) 世界遺産条約における「文化的景観」の捉え方	3
世界遺産条約における文化的景観	
フィリピン・コルディレラの棚田の登録	
増加する「文化的景観」の登録事例とその課題	
(イ) その他の国際的な制度等に見る「文化的景観」の保護	7
ウ. 「文化的景観」の保護に対する国内的要請の高まり	10
(ア) 国の審議会等の報告	11
文化振興マスタープラン（基本計画）	
文化審議会文化財分科会による報告等	
(イ) 中山間地域をはじめとする農地の保全と振興に関する事業の進展	12
(ウ) 古都保存法に見る環境保全の考え方	13
(エ) 景観条例等に見る「文化的景観」の保護	13
エ. 「文化的景観」の名勝指定	16
(ア) 姨捨（田毎の月）	16
(イ) 白米の千枚田	19
(2) 目的と方法	20

2. 調査研究の経緯と結果	20
---------------------	----

(1) 「文化的景観」の定義	21
(2) 1次調査及び2次調査	21
(3) 分類	21
(4) 重要地域の選択	22
ア. 選択の基準	22
イ. 選択の視点	22

ウ. 選択の結果	24
(ア) 水田景観 (Ⅰ－１)	24
事例	
特質及び課題	
(イ) 畑地景観 (Ⅰ－２)	24
事例	
特質及び課題	
(ウ) 草地景観 (Ⅰ－３)	25
事例	
特質及び課題	
(エ) 森林景観 (Ⅰ－４)	25
事例	
特質及び課題	
(オ) 漁場景観・漁港景観・海浜景観 (Ⅰ－５)	25
事例	
特質及び課題	
(カ) 河川景観・池沼景観・湖沼景観・水路景観 (Ⅰ－６)	28
事例	
特質及び課題	
(キ) 集落に関連する景観 (Ⅰ－７)	28
事例	
特質及び課題	
(ク) 古来より信仰及び行楽の対象となってきた景観 (Ⅱ－１)	28
事例	
特質及び課題	
(ケ) 古来より芸術の題材及び創造の背景となってきた景観 (Ⅱ－２)	29
事例	
特質及び課題	
(コ) 独特の気象によって現れる景観 (Ⅱ－３)	29
事例	
特質及び課題	
(サ) 伝統的産業及び生活を示す文化財の周辺に展開する景観 (Ⅲ)	29
事例	
特質及び課題	
(シ) Ⅰ～Ⅲの複合景観 (Ⅳ)	29
事例	
特質及び課題	
(５) 詳細調査の試験的实施	30

3. 現行の保護制度における重要地域の捉え方…………… 3 1

(１) 記念物の指定	31
(２) 記念物と「文化的景観」	31

ア. 史跡	31
定義	
歴史上又は学術上の価値を構成する諸要素	
構成要素及び景観	
周辺環境	
史跡と「文化的景観」	
史跡の視点からの重要地域の評価	
イ. 名勝	35
定義	
芸術上又は観賞上の価値を構成する諸要素	
構成要素及び景観	
周辺環境	
名勝と「文化的景観」	
名勝の視点からの重要地域の評価	
ウ. 天然記念物	40
定義	
学術上の価値を構成する諸要素	
構成要素及び景観	
周辺環境	
天然記念物と「文化的景観」	
天然記念物の視点からの重要地域の評価	

4. 「文化的景観」の保護の在り方 4 5

(1) 特質	45
ア. 伝統的産業及び生活を基盤とする成り立ち	45
イ. 豊かな地域性	45
ウ. 一定の周期に基づく変化	45
エ. 多様な構成要素とそれらの有機的な関係	45
オ. 景観構造における多様性	46
カ. 多様な生物種とその生息地の維持	46
キ. 2種類の「文化的景観」	46
(2) 保護の考え方	46
ア. 農林水産業と伝統文化との適切な調和	46
イ. 地域の住民をはじめ関係者間の合意形成の必要性	46
ウ. 時間による適切な変容を視野に入れた保護の在り方	47
エ. 有形・無形の構成要素とそれらの有機的な関係に注目した保護の在り方	47
オ. 景観構造の多様性に注目した保護の在り方	47
カ. 多様な生物種とその生息地の維持に果たす役割に注目した保護の在り方	48
キ. 「文化的景観」の総括的な保護の在り方	48

(3) 保護の制度	49
ア. 選択した地域の保護	49
(ア) 重要地域	49
(イ) 2次調査の対象とした地域	49
イ. 重要地域の保護	49
(ア) 現行の記念物の指定制度における保護の推進	50
(イ) 新たな保護制度の検討	50
(ウ) 周辺環境の保護	51
ウ. 2次調査の対象とした地域の保護	53
(4) 保存管理及び整備活用の考え方	54
ア. 保存管理計画及び整備活用計画の策定	54
イ. 「文化的景観」の価値を日々の生活の中で認識する取組	54
ウ. 地域振興・地域おこしの核としての整備活用	55
エ. 保護の主体	56
オ. 人材の育成	56
カ. 施策の役割分担	57

5. 今後の課題..... 57

(1) 複合景観における周辺地域をも含めた一体的保護の必要性	57
(2) 保護の施策を講ずべき地域の一覧表の充実と記念物以外の観点からの 検討の必要性	58
(3) 鉱工業及び都市の産業に関連する文化的景観の調査研究の必要性 ...	59
(4) 情報共有化のための施策の必要性	59

まとめ..... 60

資料1 農林水産業に関連する文化的景観の保存・整備・活用に関する検討委員会 61

(委員名簿)
(開催実績)
(委員会における検討の概要)

資料2 2次調査の対象とした地域及び重要地域の一覧表 73

農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究（報告）

平成15年6月12日

農林水産業に関連する文化的景観の
保存・整備・活用に関する検討委員会

はじめに

近年、各地の農山村地域において、人が生活を通じて自然と関わり合う中で形成されてきた棚田・里山といった景観の保護に対する要請が大きな高まりを見せている。身近な自然地域として最も馴染みの深い棚田・里山は環境の保全及び災害の防止に大きく貢献するばかりでなく、今やふるさとを代表する風景の代名詞ともなり、観光の在り方が多様化する傾向にある中、都市と農村との様々な交流の場として新たな役割が期待されている。

特に棚田については、農林水産省がその保全に向けて新たな施策を始めたのに呼応して、いわゆる千枚田と呼ばれる棚田が所在する市町村の首長が中心となって「全国棚田（千枚田）連絡協議会」を組織し、棚田の保全による地域の活性化を掲げ毎年「棚田サミット」を開催するようになった。このような棚田は「棚田百選」にも選定されて広く知られるようになり、多くの人々が美しい風景を求めて各地の棚田を訪れるようになった。また、整備された棚田では、地方公共団体が主体となって都市住民が地域住民の協力の下に棚田を借り受けて耕作体験を行ういわゆる「オーナー制度」が開始され、都市と農村との交流の場として棚田が積極的に活用されるようになった。

一方、世界遺産の分野においても「フィリピン・コルディレラの棚田」が世界遺産一覧表に登録されたのを契機として、稲作などの「農林水産業に関連する文化的景観」（以下、「文化的景観」という。）が注目されるようになった。その後、ヨーロッパ諸国におけるワイン生産に関連する葡萄畑等の「文化的景観」が相次いで世界遺産一覧表に登録され、今やこの分野は世界的に最も脚光を浴びていると言ってよい。

世界遺産における近年の動向とも呼応して、わが国においては、今日の社会構造や国民の意識の変化を受け、有形・無形を問わず、歴史的な価値を有する文化的な所産を広く文化遺産として捉え、新たな保存・活用の対象に加えていく考え方が強くなっているが、「文化的景観」はその重要な要素の一つである。

このような情勢を踏まえ、平成11年5月10日に長野県更埴市に所在する千枚田が「姨捨（田毎の月）」として名勝に指定され、続いて平成13年1月

29日に石川県輪島市に所在する千枚田が「白米の千枚田」として名勝に指定された。これらの名勝に指定された棚田においては、生態系の維持及び地滑り地帯における防災など棚田が果たす多様な機能にも十分注目しつつ、とりわけ文化遺産としての棚田が持つ高い文化的価値を後世に確実に伝えるために、各種の取組が積極的に進められようとしている。

棚田に限ることなく、様々な「文化的景観」はその地域の歴史及び風土との関連の中で成立したものであり、それらの望ましい保存のためには周辺地域の環境を含めて面的に把握した上で保護の施策を講じることが重要である。このような「文化的景観」の周辺地域の環境についても、多くは農林水産業の景観を成す地域であることから、両者の一体的な保護の施策が求められる。

以上に述べた「文化的景観」を取り巻く国内外の状況の変化を受け、文化財の分野の中でも特に名勝を含む記念物の観点から、日本における「文化的景観」の保存・整備・活用に関する諸課題について調査研究を行うことを目的として、文化庁は平成12年10月に「農林水産業に関連する文化的景観の保存・整備・活用に関する検討委員会」（以下、「検討委員会」という。）を設置した。本検討委員会は、藤本 強委員長（國學院大学教授）（平成13年までは故・石井 進氏（鶴見大学教授））を含む計14名の委員により構成され、このたび、計5回にわたる審議の結果を踏まえ本調査研究の報告をとりまとめた（資料1）。

報告のとりまとめに当たっては、第1に調査研究の背景として「文化的景観」が注目されるようになった国内的及び国際的な経緯について整理を行い、これを受けて本調査研究の目的を明示した。第2に調査研究の経緯についてまとめ、「文化的景観」の定義、分類を示すとともに、重要地域を選択する場合の基準及び選択の結果等について示した。第3に現行の記念物の保護制度と重要地域との関係について整理を行い、第4に「文化的景観」の特質に基づき新たな保護制度に関する展望と整備・活用に関する基本的な考え方を示した。さらに、第5に「文化的景観」の保護に関する今後の課題についてまとめた。

1. 調査研究の背景と目的

本節においては、調査研究の背景として国内外における「文化的景観」を取り巻く情勢及び動向について概観し、それを踏まえた本調査研究の目的について記述することとする。

（1）背景

本調査研究の背景として、まず最初に、「文化的景観」に関する学術研究が日本においてどのように進展してきたのかについてまとめ、これと並行してユネスコの世界遺産条約等を中心に進んだ「文化的景観」に関する国際的な動向についてまとめることとする。さらに、国内における文化財及び文化遺産の保護の観点と農林水産業の振興の観点から、「文化的景観」の保護に関する動向についてまとめることとする。

ア. 日本における「文化的景観」をめぐる学術研究の進展

日本における「文化的景観」をめぐる学術研究は、第2次世界大戦前において大都市とその周辺における田園風景が徐々に失われていくのを危惧する声が高まり、「郷土風景に関する座談会」が開かれるなど一定の進展を見せたが、特に戦後においては、農業土木学、歴史学、地理学等の多分野において大きく進展した。農業土木学の分野においては、歴史的な意義を有する農業土木施設及び農地等に関する研究が先駆的に進められたほか、歴史学、歴史地理学の分野においては、現有農地の畦畔その他の地形等から条里制及び荘園関連の遺跡等を判読し、当時の景観を具体的に考証する復元的研究が行われた。また、地域における空間の成り立ちと産業構造の在り方を問う地誌学及び地理学の分野においても、広く農林水産業及び農山漁村生活を含む「文化的景観」の地域が重要な研究対象とされてきた。このような学術研究の成果を受け、「文化的景観」を構成する広い地域のうち、ごく一部が歴史上又は学術上価値の高い遺跡として史跡に指定された。

一方、自然科学の分野においても、自然環境の破壊のみならず都市近郊における開発の進展により農地の減少が進む中、人間の営為との関わりの中で多様な生物種が生息する農林水産業の地域が生態系の維持に重要な役割を果たしていることが明らかとなり、これに伴って「文化的景観」の地域に対する注目度が飛躍的に高まった。特に、農林水産業を通じて繰り返し行われる人間の土地への関与が生態系に一定程度の攪乱をもたらし、その結果、多様な生物種とその生息地が適度に維持されること、水田及び用水路等の水面が生物の通過路として極めて重要な役割を果たしていること、などが明らかとなってきた。そのような地域に生息、繁殖、渡来又は自生する学術上価値の高い動植物が天然記念物に指定された。

最近では、このような生態系の維持を基本とし、都市及び農村計画学の視点から農山漁村地域を含む「文化的景観」の地域について望ましい将来像の提案を目的とする調査研究をはじめ、土木工学及び生態工学の視点から多様な生物の生息環境を創造するのに最も適した技術的手法に関する調査研究なども行われるようになってきている。

また、平成13年度には、棚田に関わる各分野の研究者及び行政関係者のみならず、広く農業従事者、保護のための運動を継続している市民団体、棚田の耕作に関わる個人等の参加を得て棚田学会が結成された。棚田学会は、学術的な側面のみならず、保護の制度及び市民運動など、様々な観点から棚田に関する知見と情報を広く交換し合う場として今後の展開に期待が寄せられている。

イ. 「文化的景観」をめぐる国際的動向

(ア) 世界遺産条約における「文化的景観」の捉え方

世界遺産条約における文化的景観 昭和47年の第17回ユネスコ総会において、世界遺産条約（世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約）が採択された。この条約は、顕著な普遍的価値を有する文化遺産と自然遺産の双方を世界遺産一覧表に登録し、同一の枠組みの下に一

表 1-1 世界遺産条約における各領域別の文化的景観

<p>① 第1領域「意匠された景観」 人間の設計意図の下に創造された景観で、庭園や公園など。 登録例：シントラの文化的景観 [ポルトガル、平成7年] アランフェスの文化的景観 [スペイン、平成13年]</p>
<p>② 第2領域「有機的に進化する景観」 (i) 継続する景観と (ii) 遺跡の周囲に残る化石景観に区分される。 前者は農林水産業などの産業と関連する景観で、後者は遺跡などの記念物と一体となって重要な要素を成す景観。 登録例：(i) フィリピン・コルディレラの棚田 [フィリピン、平成7年] サンテミリオン地域 [フランス、平成11年] (ii) ワット・プーと附属するチャンパサックの古代集落の文化的景観 [ラオス、平成11年]</p>
<p>③ 第3領域「関連する景観」 信仰や宗教、文学、芸術活動などと直接関連する景観。 登録例：トンガリロ国立公園 [ニュージーランド、平成5年] ウルル＝カタ・ジュター国立公園 [オーストラリア、平成6年] ペルデュ山 [フランス・スペイン、平成9年、平成11年]</p>

体的に保護することを目的とする点において極めて独創的かつ画期的な制度であった。しかし、実際に世界遺産一覧表に登録された文化遺産の多くは、主として人類が築き上げた壮麗な記念的建造物であったのに対し、自然遺産は人間による管理から最も遠隔の位置にあるいわゆる原生の自然地域を対象としていた。そのため、顕著な普遍的価値の総体である世界遺産一覧表が、人間の創造性に基づく作品としての文化遺産と原生的な自然遺産との両極に偏る傾向を示し、その中間にある多様な自然的地域の顕著な普遍的価値が必ずしも十分に一覧表に反映されていないのではないかと指摘されてきた。こうして、人間が自然に対して働きかけ、自然との間に築き上げてきた物理的、精神的な関係を多様に示す文化的景観が、従来の文化遺産と自然遺産との狭間を埋める新たな概念として注目され始めた。

平成4年の第16回世界遺産委員会において、人間の営為と自然との結合の所産である文化的景観の考え方を正式に導入することが決定され、「世界遺産条約履行のための作業指針」(以下、「作業指針」という。)が改訂されるとともに、文化的景観の遺産を世界遺産一覧表に登録するために新たな規定が追加された。作業指針においては、表1-1に示すとおり、文化的景観の地域が有する自然の程度や自然に対する人間の行為の影響の程度により、文化的景観を第1から第3の領域に区分する。本調査研究の対象とする「文化的景観」は、主として世界遺産における第2領域の文化的景観に該当する。

世界遺産の分野において文化的景観が注目されてきた背景には、遺産を一義的に文化遺産又は自然遺産のどちらかに類別するのではなく、人間が生活を通じて関わり合ってきたあらゆる人文的・自然的要素の総体としての景観も遺産の概念に取り込むべきであるとの姿勢が明瞭に見て取れる。

フィリピン・コルディレラの棚田の登録 先にも述べたように、第2領域に属する文化的景観として最初に世界遺産一覧表に登録されたのは、「フィリピン・コルディレラの棚田」〔フィリピン・平成7年登録〕である〈図1-1、1-2〉。この棚田は、アジアの稲作文化が中国大陆からフィリピン・ルソン島北部のコルディレラ山岳地帯の高地に伝播したことを示す重要な物証であるとともに、一説には2,000年という長年月にわたり山岳の厳しい自然に抗して人間が築き上げてきた壮大な文化的景観である。棚田の担い手であるコルディレラ地方のイフガオ族を中心とする少数先住民族は、16～17世紀にフィリピンに渡ったスペインの修道士によるキリスト教の布教活動及びその後のアメリカの植民者の征服に頑強に抵抗したため、今日に至るまで生活様式の全般にわたり独特の文化的伝統を伝えている。彼らの生産及び生活の中心的な場所が棚田であり、彼らの文化的象徴として、フィリピン政府はコルディレラの棚田の世界遺産登録を積極的に進めたのである。

しかし、現状における棚田の保全にはいくつかの課題がある。まず第1に、過酷な労働を嫌う若年層が都市へと流出し、棚田における労働力が著しく不足しつつあることが挙げられる。もっとも、棚田は扶養能力が限定されているため人口の増加には対応できず、若年層の都市流出はかえって棚田への潜在的負荷を緩和しているとの見方もある。第2の課題は、現代的な材料及び工法の導入が棚田の体系及び景観を微妙に脅かしつつあることである。棚田は多岐にわたる要素が複雑に組み合わさって、一つの体系を構成している文化的景観であることから、石垣及び水路等にコンクリート製品が用いられることにより柔軟な給排水体系が持つ微妙な均衡状態が崩れ、降雨及び微弱な地震にさえも予想外の影響を受けることが懸念されている。第3の課題は、観光客の増加に伴って各自作農家の所得が漸増していることが影響し、各農家の屋根が茅葺きからトタン葺き等に変化するなど文化的景観への影響が徐々に出始めていることである。

以上のような理由により、「フィリピン・コルディレラの棚田」は平成13年に「危機にさらされている世界遺産の一覧表」^{註)}に登録され、現在、ユネスコの財政的・技術的支援の下にフィリピン政府は世界遺産登録地域の正確な地図の作成と管理計画の策定を行い、地域共同体への支援を開始したところである。

註) 危機にさらされている世界遺産の一覧表

紛争や開発、気候変動等の理由により保存が危ぶまれている世界遺産の地域については、世界遺産委員会が当該世界遺産の地域を「危機にさらされている世界遺産の一覧表」に登録し、財政・技術の両面から国際社会が積極的に支援していくことができることとされている。



図 1-1 フィリピン・コルディレラの棚田 [フィリピン]



図 1-2 フィリピン・コルディレラの棚田 [フィリピン]

増加する「文化的景観」の登録事例とその課題 「フィリピン・コルディレラの棚田」が世界遺産一覧表に登録されて以降、特に地中海に臨む急傾斜面に葡萄や柑橘類の畑地が雛壇状に展開する「ポルトヴェーネレ／チンクェ・テッレ及びその島嶼（パルマリア、ティエノ、ティネット）」[イタリア・平成9年登録]をはじめ、ボルドーワインの生産地である「サンテミリオン地域」[フランス・平成11年登録]〈図1-3〉、ポートワインの生産地である「アルト・ドウロ地域」[ポルトガル・平成13年登録]、東ヨーロッパにおける銘醸ワインの生産地である「トカイワイン地域の文化的景観」[ハンガリー・平成14年登録]〈図1-4〉など、ヨーロッパの主要ワイン生産地である葡萄畑の「文化的景観」が相次いで文化遺産として世界遺産一覧表に登録された。また、スカンディナ비아半島海岸域の砂州と独特の農業の形態を表す「エーランド島南部の農業景観」[スウェーデン・平成12年登録]、文化的景観として世界遺産に登録されたものではないが、オランダ低地の干拓地の土地利用の在り方を示す「ベエムスターの干拓地」[オランダ・平成11年登録]〈図1-5〉、同じくイタリアの中世からルネサンスにかけての都市フェラーラとその東方のロンバルディア平原を流れるポー川河口に干拓地の農牧草地帯及び湿地が展開する「フェラーラ・ルネサンス期の市街地とポー川三角州」[イタリア・平成7年登録、平成11年追加登録及び名称変更]〈図1-6〉などが登録されている。

さらには、「ロアール溪谷／シャロンヌからシュリ・スル・ロアールまでの区間」[フランス・平成13年登録]〈図1-7、1-8〉や「ライン川中上流域の溪谷」[ドイツ・平成14年登録]など、文化の母胎ともなった大河川を中軸として、その沿川に展開する農耕地等の「文化的景観」を含めた広大な地域を登録する事例も登場してきた。

このように、「文化的景観」として世界遺産一覧表に登録される事例が増加しつつあり、この分野は人間と自然との持続可能な共存を前提とする独特の土地利用形態を示す遺産として、現在最も注目されていると言っても過言ではない。

しかし、「フィリピン・コルディレラの棚田」が「危機にさらされている世界遺産の一覧表」に登録されたことにも端的に表れているように、地域社会が伝統的な農林漁法の下に「文化的景観」を維持し、将来にわたって確実に管理していくことに多大な困難を伴っており、この点においていずれの遺産地域も共通する大きな課題を抱えている。

(イ) その他の国際的な制度等に見る「文化的景観」の保護

顕著な普遍的価値を有する人類の遺産を保護の対象とする世界遺産条約のみならず、広く「文化的景観」の保護に関連する国際的な制度には、昭和43年以来ユネスコが推進している「人間と生物圏の保護計画（Man and Biosphere (MAB) Programme）」（以下、MAB という。）及び昭和46年にイランのラムサールにて採択された「湿地と水鳥の保全に関する国際条約」（以下、ラムサール条約という。）などがある。



図 1-3 サンテミリオン地域 [フランス]

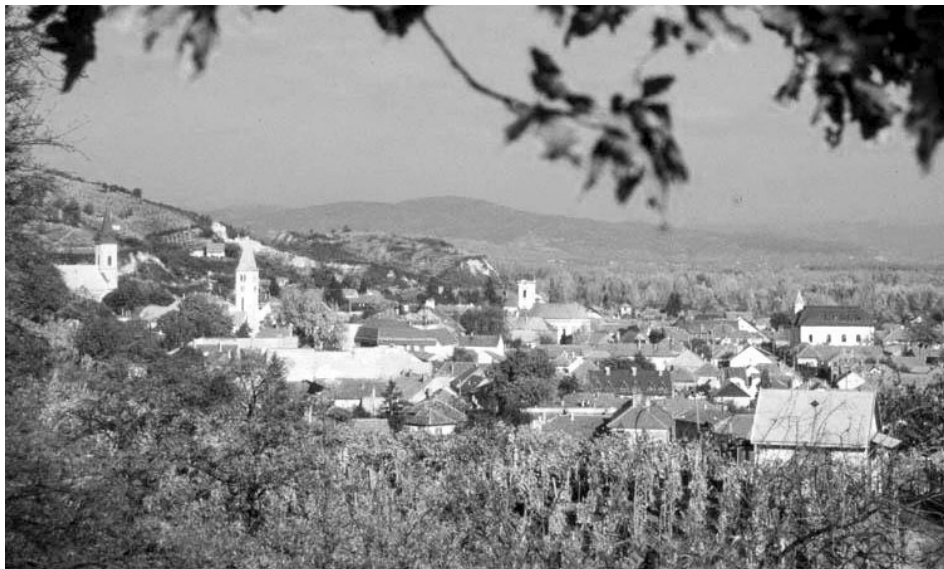


図 1-4 トカイワイン地域の文化的景観 [ハンガリー]



図 1-5 ベエムスターの干拓地 [オランダ]



図 1-6 フェラーラ・ルネサンス期の市街地とポー川三角州 [イタリア]



図 1-7 ロアール渓谷／シャロンヌからシュリ・スル・ロアールまでの区間 [フランス]



図 1-8 ロアール渓谷／シャロンヌからシュリ・スル・ロアールまでの区間 [フランス]

MAB においては、中核となる厳正自然保護地域の外周に緩衝地帯及び隣接地域などを同心円状に設定し、人間の関与の程度により自然的地域を適切に階層化して保護することを目的とすることから、緩衝地帯及び隣接地域が「文化的景観」の地域に該当する。日本における指定区域には「屋久島」〔鹿児島県〕及び「大台ヶ原・大峰山地域」〔奈良県・和歌山県〕があり、林業が営まれている「文化的景観」の地域が緩衝地帯に含まれている。

また、ラムサール条約においては、成因が自然的又は人工的な湿地を対象として水鳥とその生息環境を保護することを目的としており、日本の登録地域の中には「谷津干潟」〔千葉県〕をはじめ「片野鴨池」〔石川県〕、「琵琶湖」〔滋賀県〕（いずれも平成5年登録）などの漁業に関連する「文化的景観」の地域が含まれている。

上記の国際的な保護制度以外にも、現在なお合意形成の過程にある「ヨーロッパ景観条約」のように「文化的景観」の保護及び顕彰の制度を多国間の地域段階において定めようとしている事例があるほか、ヨーロッパ地域ではフランス及びドイツ、アジア地域では韓国などにおいて、各国の文化財及び文化遺産の保護制度の中に「文化的景観」の保護の制度を積極的に取り入れている事例なども見られ、こうした国々が増加する傾向にある。

ウ. 「文化的景観」の保護に対する国内的要請の高まり

冒頭においても述べたように、全国各地で棚田・里山の保全を目指す市民運動が活発に進められるなど、「文化的景観」の保護に対する要請は国内的にも大きな高まりを見せている（図1-9）。このような運動の盛り上がりは、世界遺産条約を中心として世界的に進みつつある「文化的景観」の保護に関する動向とも密接に関連し、日本国内において大きな進展を遂げた。

特に中山間地域において耕作放棄地が増加するのに伴い、耕作放棄の発生を防止し健全な農地及び国土を将来的に維持、発展させていくためには、



図 1-9 棚田の保護に向け、各地で進む「オーナー制度」等の取組の状況 稲淵の棚田〔奈良県明日香村〕

棚田をはじめとする「文化的景観」の地域が持つ国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観形成等の多面的な機能に十分注目すべきことが指摘されるようになった。

このような「文化的景観」の多面的な機能のうち、文化財及び文化遺産の観点から景観に内在する文化的価値を積極的に保護していくことの必要性については、文化庁が所管する審議会の下に置かれた委員会等の報告においても指摘されてきたところである。同時に、農山漁村地域において各種の事業を進めるに当たっては、文化の伝承、文化財及び文化遺産の保存・活用の視点から「文化的景観」の保全について十分配慮すべきであることについて言及されるようになってきた。

(ア) 国の審議会等の報告

文化振興マスタープラン（基本計画） 平成7年7月に文化庁長官の諮問機関である文化政策推進会議が行った提言「新しい文化立国を目指して」を踏まえ、文化庁は平成10年3月25日に「文化振興マスタープラン（基本計画）」を策定した。その中においては、伝統文化の継承・発展に関連して、文化財の保護対象の拡大と歴史的文化環境の保護の必要性を掲げ、歴史的・文化的景観の保存・活用を図るため、従来の保護体系を見直し、新たな保護体系について検討することが必要であるとしている。また、世界遺産におけるバッファ・ゾーン（緩衝地帯）の考え方に見られるような指定文化財とその周辺の環境あるいは関連する文化財との一体的な保護を行うために、文化財保護法の改正をも視野に入れた具体的な方策の検討が必要であると指摘している。

文化審議会文化財分科会による報告等 文部科学大臣の諮問機関である文化審議会文化財分科会企画調査会が平成13年11月16日にまとめた審議の報告「文化財の保存・活用の新たな展開－文化遺産を未来へ生かすために－」においては、今日の社会構造及び国民の意識の変化を受け、有形・無形を問わず、歴史的な価値を有する文化的な所産を文化財を含む広い意味での文化遺産として捉え、後世に伝え現在の生活に生かす観点から、保存・活用が必要とされる文化遺産の範囲が広がっているとしている。例えば、文化財の周辺環境の保護をはじめ、文化的景観の保護、文化財の総合的な把握に基づく保護などの事柄については、比較的新しい課題として対応の必要性が高まっていると指摘している。

特に、文化的景観の保護については、名勝等の既存の文化財の枠組みでは捉えきれない性質を持つものも多く存在することから、国において考え方を示しながら、地方公共団体を中心として国と連携を図りつつ保護を図るための法制上の措置を検討することの必要性について指摘している。また、文化的景観に関連することとして、一定の地域内に所在し相互に関連性を有する同一の類型の文化財で個々の文化財の価値が一定水準に達しないものや、文化財の類型の枠を超えて一定の関連性を持ちながら集まったものについては、総体として捉えることにより、新たな価値付けが可能となるものも多く存在することから、その総体を一括し

て把握し保護の対象とすることを検討する必要があると指摘している。

同時に、このような文化遺産の保存・活用に当たっては、その範囲、手法、主体に関するより幅広い取組が求められるとし、一部既に文化財保護法の適用範囲とされているものや、運用の工夫により対応しているものもあるが、それだけでは十分な対応が不可能な部分も想定されることから、文化財保護法の体系においてどこまで対応ができるか検討し、必要に応じて文化財保護法の所要の改正を検討することが必要であるとしている。さらに、今後、文化財保護法では捉えきれない広い範囲の文化遺産に関し、総合的な視野の下に保護の施策を講じていくためには、文化財保護法とは異なる新たな枠組みを設けることを視野に入れて検討することも必要であると指摘している。こうした文化遺産の保存・活用については、文化庁のみならず各省庁、地方公共団体、産業界、NPO、NGOなどの民間団体、さらには国民一人一人が積極的な役割を担うことが必要であり、保存・活用のための取組を促すため、文化庁が中心となって呼びかけを行うことが必要であると指摘している。

以上のような報告の主旨は、平成14年12月5日に文化審議会がまとめた「文化芸術の振興に関する基本的な方針」にも反映され、同年12月10日に閣議決定された。

(イ) 中山間地域をはじめとする農地の保全と振興に関する事業の進展

中山間地域とは山間地域及びその周辺の地域を指し、林野の占める割合が高く傾斜地の多い地域である。中山間地域においては地形等の制約により零細な農家が大半を占め、生産性の低い農業構造であることから、農業従事者の高齢化、後継者の不足、一つの集落における世帯数の減少などの問題が深刻化している。「文化的景観」の中でも棚田などをはじめとする多くの地域が中山間地域に含まれ、生産条件が不利であるために耕作放棄が進みつつある。先にも述べたように、中山間地域の農地を含むすべての農地は食料の安全保障等を含む生産の機能のみならず、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観形成など、広く都市に住む住民をも含め日本人の生活全般にとって重要な多面的機能を持っている。そのため、農林水産省は中山間地域をはじめ耕作不利地等における耕作放棄を防止し、総じて健全で良好な農地及び国土を維持、発展させ、望ましい景観を創出していくことを目的として、里地棚田保全整備事業及び田園空間整備事業など農地の整備等に関わる各種の支援事業を実施している。同時に、地方公共団体の申出に基づく「農村景観百選」や地方公共団体を実施する「美しい日本のむら景観コンテスト」等の事業についても支援を行い、「文化的景観」の顕彰にも助力している。

また、平成12年度に「中山間地域等直接支払制度」が導入され、要件に該当する農用地において、集落協定又は個別協定に基づき5年間以上の農業生産活動を行う農業者等に対して、交付金が交付されるようになった。

以上のように、中山間地域をはじめとする「文化的景観」が展開する

地域においては、農業生産及び農村振興の観点から農林水産省が各種の支援制度を実施しており、「文化的景観」の保護にも重要な役割を果たしている。

(ウ) 古都保存法に見る環境保全の考え方

昭和41年に制定された「古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法」（以下、古都保存法という。）は、「古都」と呼ばれる特定の地域を対象として、文化財と一体となった周辺環境の保全を目的とする法律である。

古都保存法では、「わが国往時の政治、文化の中心等として歴史上重要な地域を有する京都市、奈良市、鎌倉市及び政令で定めるその他の市町村」を「古都」と定義し、「わが国の歴史上意義を有する建造物、遺跡等が周囲の自然的環境と一体をなして古都における伝統と文化を具現し、及び形成している土地の状況」を「歴史的風土」と定義している（第2条第2項）。古都保存法の対象は「古都」において国が指定した有形文化財又は史跡等の周辺環境である「歴史的風土」に限定されてはいるものの、それらの多くは水田、畑地、里山などの地域から構成されていることから、古都保存法は実質的に「古都」における「文化的景観」の保護に極めて大きな効果を発揮しており〈図1-10〉、今後、広く「文化的景観」の保護の在り方を展望する場合に参考とすべき制度であると考えられる。

(エ) 景観条例等に見る「文化的景観」の保護

世界遺産の推薦・登録に当たっては、遺産地域の周辺に適切な広さの緩衝地帯を設けることが求められている。既に推薦・登録された日本の世界遺産においても、文化財保護法に基づき国が指定した建造物等の有形文化財及び史跡等の文化財の周辺に、自然公園法及び森林法等の文化



図 1-10 古都保存法の歴史的風土保存地区に含まれる稲淵の棚田 [奈良県明日香村]

財保護法以外の法律又は地方公共団体が定める景観条例等に基づいて適切な範囲の緩衝地帯が定められている。それぞれの遺産の緩衝地帯においては、水田や畑地、林業が営まれている森林、漁業の対象となる湖沼又は海洋など「文化的景観」の地域が含まれ、世界遺産一覧表に登録された顕著な普遍的価値を有する文化遺産の周辺地域の環境を構成する要素として、それらを保全するための適切な行為規制が図られている〈図1-11、1-12、1-13〉。

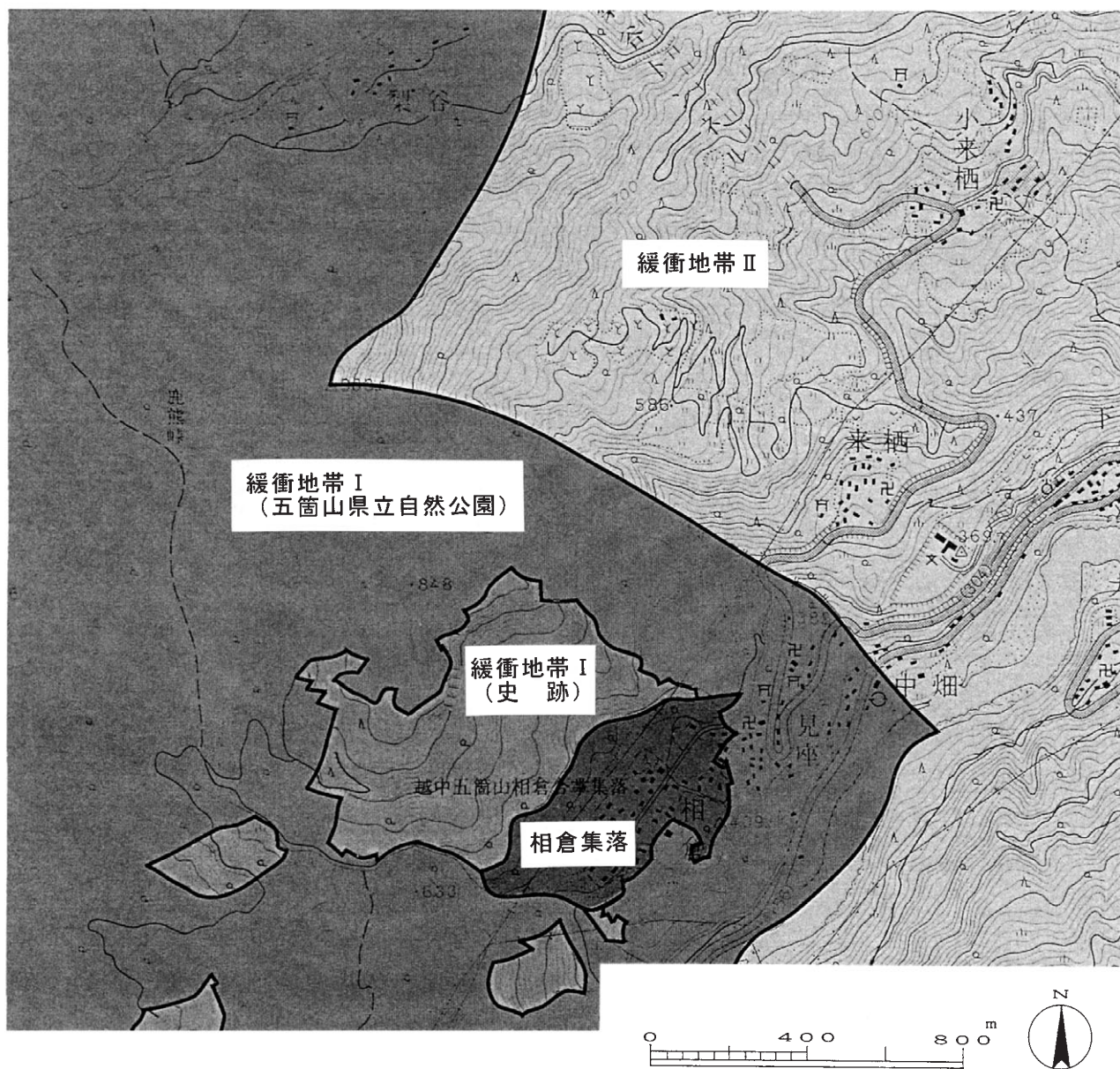
このように、世界遺産の推薦・登録に向け緩衝地帯を定めるのを契機として、「文化的景観」の地域を含む文化財の周辺地域の環境の保全に地



図 1-11 世界遺産「白川郷・五箇山の合掌造り集落」〔富山県平村相倉集落〕



図 1-12 世界遺産「白川郷・五箇山の合掌造り集落」〔富山県上平村菅沼集落〕







	相倉集落 平村相倉重要伝統的建造物群保存地区（文化財保護法）	18.0ha		緩衝地帯 I 五箇山県立自然公園 （富山県自然公園条例）	3,856ha
	緩衝地帯 I 史跡（文化財保護法）	42ha		緩衝地帯 II 平村自然環境と文化的景観の保存に関する条例による保護地区	9,406ha

図 1-13 世界遺産「白川郷・五箇山の合掌造り集落」の登録範囲と緩衝地帯 [富山県上平村菅沼集落]

方公共団体が積極的な役割を担うようになっており、今後、「文化的景観」の包括的な保護の在り方を検討するに当たっては、このことを十分視野に入れることが必要である。

エ. 「文化的景観」の名勝指定

以上のような国内的、国際的情勢を受け、「文化的景観」の中でも特に千枚田と呼ばれ、芸術上又は観賞上の高い価値を有する２つの棚田が名勝に指定された。この２つの棚田においては、景観が持つ文化的価値の保存・活用のために各種の新たな取組が進みつつある。これらの取組については、今後とも十分経過観察を行いつつ、適切に行財政上の支援を継続していく必要がある。

(ア) 姨捨（田毎の月）

長野県更埴市に所在する名勝姨捨（田毎の月）は、古く『古今和歌集』にも月見の名所として名を馳せた姨捨山の山麓の急傾斜地に江戸時代から明治時代にかけて開発の進んだ棚田地域で、約３０haにわたる棚田のうちの約３haが平成１１年５月１０日に名勝に指定された〈図1-14〉。

名勝姨捨（田毎の月）の指定地は、松尾芭蕉など著名な文人墨客が遺した姨捨に関する和歌又は俳句を刻む多数の歌碑又は句碑、「観月堂」などの歴史的建造物、捨てられた老女が泣く泣く岩と化したとされる棄老伝説にちなみ名付けられた「姨石」など、多くの文化的所産が遺る「長楽寺境内地区」〈図1-16〉、多数の小区画の水田から成り往時の姨捨の千枚田の面影を色濃く残す「四十八枚田地区」〈図1-17〉、遺棄されていた水田が「棚田緊急保全対策事業」により復旧され、望ましい棚田の姿が再現された「姪石地区」〈図1-18〉の計３ヶ所から成る。

名勝姨捨（田毎の月）の指定に伴い、各分野を代表する専門家、棚田の保存協力会である「名月会」、行政の関係部局等により構成される委員会が設置され、名勝姨捨（田毎の月）に関する学術的調査の成果に基づき、保存管理の基本方針及び指定地内における現状変更及び保存に影響を及ぼす行為に関する取扱基準、並びにより望ましい景観形成のための整備の方向性及び活用・運営に関する体制整備の試案等を含む保存管理計画が策定された。この計画においては、上記の３ヶ所の指定地を含む３０ha以上の周辺区域が、姨捨（田毎の月）の名勝指定地と一体の景観形成を目指すべき区域として「景観保全地域」に位置付けられた〈図1-14、1-15〉。さらに、更埴市は名勝指定を契機として「美しいまちづくり景観条例」を定め、保存管理計画に定めた「景観保全地域」を条例に基づく景観形成重点地域に指定することについて検討を進めているところである。

このように、名勝姨捨（田毎の月）においては、名勝に指定された区域とその周辺地域の環境を一体として捉え、「文化的景観」の包括的な保護の在り方が追求されようとしている。



図 1-16 名勝姨捨（田毎の月）の長楽寺境内地区 [長野県更埴市]



図 1-17 名勝姨捨（田毎の月）の四十八枚田地区 [長野県更埴市]

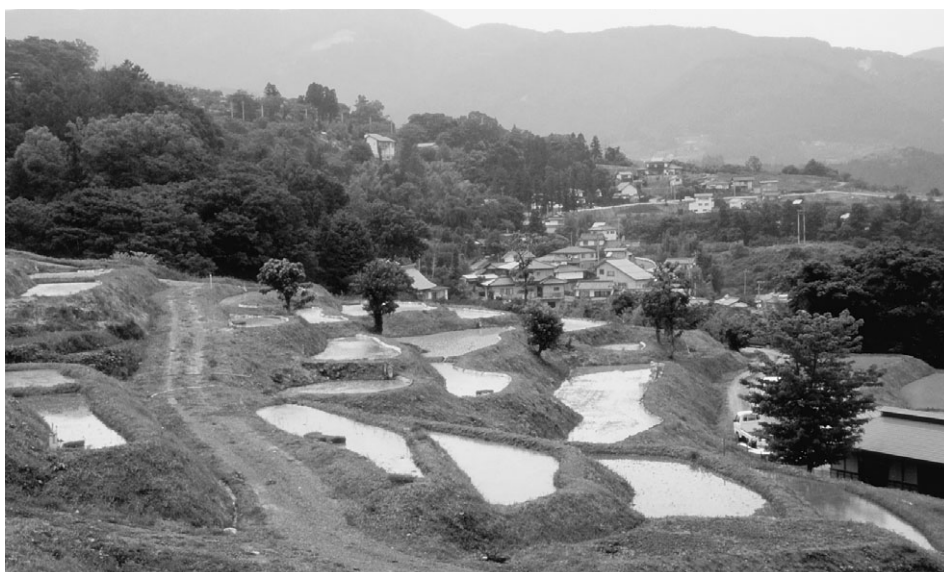


図 1-18 名勝姨捨（田毎の月）の姪石地区 [長野県更埴市]

(イ) ^{しろよね}白米の千枚田^{せんまいだ}

名勝姨捨（田毎の月）に引き続き、平成13年1月29日に名勝に指定された白米の千枚田〔石川県輪島市〕においても同様の試みが進みつつある。名勝白米の千枚田における指定地の面積は約1.8haで姨捨（田毎の月）に比較して狭いが、日本海に臨む急傾斜面に小区画の水田が重畳する文字どおりの千枚田で、棚田と地形との関係から極めて観賞性の高い「文化的景観」を形成している〈図1-19、1-20〉。白米の千枚田においては、自作農による耕作が行われており、行政による「オーナー制度」等の都市住民との交流事業は実施されていない。現在、名勝姨捨（田毎の月）における実績を踏まえ、名勝としての保存管理計画の策定及び周辺地域の環境保全を視野に入れた整備活用計画の策定に向け、地域住民と行政との間において調整が進められているところである。



図 1-19 名勝白米の千枚田 〔石川県輪島市〕



図 1-20 名勝白米の千枚田 〔石川県輪島市〕

(2) 目的と方法

以上のように、棚田や里山などをはじめとする「文化的景観」の保護に対する要望は、国内外を問わずかつてないほどに高まっており、これに適切に応えることが行政上の重要な課題となりつつある。

「文化的景観」の地域は、農林水産物の生産地域であるとともに、我々の身近にある自然の生態系を適切に維持し、地滑り地帯において災害等の発生を防止するなど、極めて多様な機能を有する地域でもある。さらに「文化的景観」は、農山漁村地域における伝統的産業及び生活などの営みの中で形成され、その地域の歴史及び文化と密接に関わる固有の風土的特色を表す文化遺産でもある。したがって、「文化的景観」の適切な保護のためには、それらが有する多様な機能にも十分配慮しつつ、とりわけ文化的価値の在り方とその保護の方法について調査研究を実施することが是非とも必要である。

本調査研究においては、特に文化財の一分野である記念物を出発点とし、日本における「文化的景観」の保存・整備・活用に関する諸課題について総合的な検討を行い、今後、「文化的景観」の保護を確実に進める上での基本的な方向性について示すことを目的とする。

最初に「文化的景観」の定義を行い、これに合致するものを対象として全国各地における「文化的景観」の所在状況に関する1次調査を行う。次にその成果を踏まえ、「文化的景観」の独特の性質、構成要素、風景上の価値、景観維持の可能性などの観点から優秀なものを対象として2次調査を実施し、「文化的景観」の分類を行うとともに、個別の「文化的景観」について現状の把握を行う。さらに、その成果に基づき、保護の施策を講ずべき重要地域の選択を行う。重要地域の選択の過程では「文化的景観」に特有の性質を明らかにし、保護に当たっての基本的な考え方及び保護制度に関する展望を示すとともに、適切な保存管理及び整備活用の在り方について示すこととする。

2. 調査研究の経緯と結果

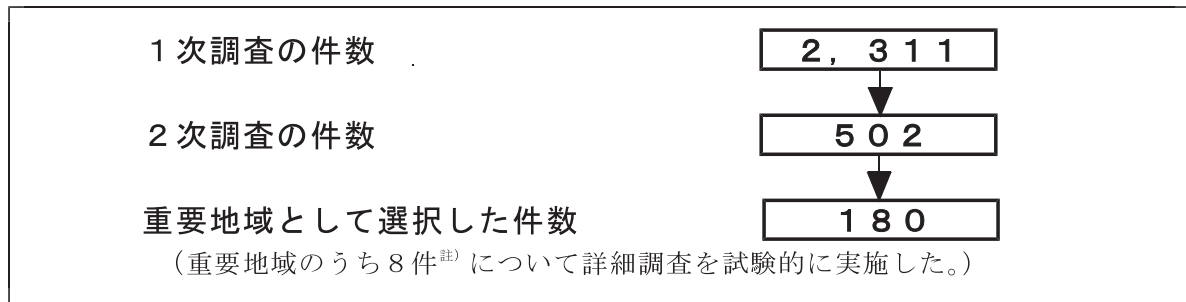
本調査研究においては、平成12年10月から平成15年3月に至る約2年半にわたって1次調査及び2次調査を実施し、重要地域を選択するとともに、詳細調査を試験的に実施した。

まず最初に、「文化的景観」の定義を定め、これに該当するものを対象として、全国的な所在状況を把握するために1次調査を実施した。1次調査の対象とした2,311件の中から502件を選択して2次調査を実施し、さらに180件の重要地域を選択した〈図2-1〉。

なお、2次調査の対象とした地域及び重要地域の一覧表は資料2に示すとおりである。

また、「文化的景観」の種別と地域的分布を考慮の上、重要地域の中から8地域を選んで詳細調査を試験的に実施した。

図 2-1 調査の流れと調査対象件数



註) ①富良野の農業景観（北海道富良野市・上富良野町・中富良野町）、②三富新田（埼玉県所沢市・三芳町）、
 ③大山千枚田（千葉県鴨川市）、④砺波の散村景観（富山県砺波市・小矢部市・福野町・福光町・床川町）、
 ⑤北山杉の林業景観（京都府京都市）、⑥牛窓湾の文化的景観（岡山県牛窓町）、
 ⑦柳川の水郷景観（福岡県柳川市・大木町・三橋町）、⑧阿蘇の草地景観（熊本県阿蘇町・西原村・久木野村）

（１）「文化的景観」の定義

1 次調査に当たり、「文化的景観」の定義を以下のように定めた。

農山漁村地域の自然、歴史、文化を背景として、伝統的産業及び生活と密接に関わり、その地域を代表する独特の土地利用の形態又は固有の風土を表す景観で価値が高いもの。

（２）1 次調査及び 2 次調査

「定義」に該当するものについて、全国的な所在状況の把握を目的として 1 次調査を実施し、2, 3 1 1 件の「文化的景観」の地域を確認した。

1 次調査において確認した「文化的景観」の地域の中から、次の 1～4 の条件のうち 2 つ以上を満たす 5 0 2 件を選択し、現状把握のために 2 次調査を実施した。

1. 農林水産業の景観又は農林水産業と深い関連性を有する景観で、独特の性質と構成要素が認められること（特に、一般的にはあまり知られていないもので、重要であると判断されるものについて十分考慮すること）。
2. 景観百選の類に選定又は出版物等において紹介され、一般的に風景上の価値が周知されていると判断できること。
3. 現在においてもなお農林水産業又はこれらに代わる営みが継続され、景観が維持されていること。
4. 近年の改変による大規模な影響を受けず、本質的な価値を伝えていると判断できること。

（３）分類

2 次調査の結果、「文化的景観」は以下の I～IV の分野への分類が可能であることが判明した。

- I. 土地利用に関するもの。
- II. 風土に関するもの。
- III. 伝統的産業及び生活を示す文化財と一体となり周辺に展開するもの。
- IV. I～IIIの複合景観。

(4) 重要地域の選択

ア. 選択の基準

2次調査の対象とした502件の「文化的景観」を形成している地域の中から、分類に示したI～IVの各分野に対応して、次に掲げる各基準に該当する180件の重要地域を選択した。

- I. 農山漁村地域に固有の伝統的産業及び生活と密接に関わり、独特の土地利用の典型的な形態を顕著に示すもの。
- II. 農山漁村地域の歴史及び文化と密接に関わり、固有の風土的特色を顕著に示すもの。
- III. 農林水産業の伝統的産業及び生活を示す単独又は一群の文化財の周辺に展開し、それらと不可分の一体的価値を構成するもの。
- IV. I～IIIが複合することにより、地域的特色を顕著に示すもの。

イ. 選択の視点

重要地域の選択に当たっては、アにおいて示した選択の基準以外に以下の4つの視点に留意した。

- 1. 「美しさ」及び「やすらぎ」など、その地域の原風景としての「文化的景観」が人間の感性に与える好ましい影響等についても考慮すること。
- 2. 絶滅危惧種などの貴重な生物及び多様な動植物の生息地ともなっている場合が多く、それらが自然の生態系において果たす役割についても考慮すること。
- 3. 特定の地域的特性を反映しつつ各地に共通して展開するもの及び社会的状況の変化に伴って消滅の危機に瀕しているものが多いことから、代表的なもの及び希少的価値のあるものに配慮すること。
- 4. 農山漁村地域に固有の伝統的産業及び生活と密接に関わるものであることから、地域住民及び地方公共団体が一丸となってそれらの保存・活用に積極的に取り組んでいるなど、景観の維持に将来的な展望が持てること。

また、1次調査及び2次調査の対象としたものの中には、朝市及び祭りなどの場となり、その場と一体の価値を形成する景観が含まれていたが、これらの景観の主たる構成要素はある一定の時間内に行われる習俗又は行事等の人間の行為であり、記念物の視点からの評価には馴染まないと考え

表 2-1 「文化的景観」の重要地域の分類

分類	種 別		例 示
Ⅰ	1	水田景観	<ul style="list-style-type: none"> ・独特の地形及び気候と関連するもの（棚田、谷津田、畦畔木等） ・地上及び地下に遺る遺跡と関連するもの（条里制と重複する水田景観等）
	2	畑地景観	<ul style="list-style-type: none"> ・独特の地形及び気候と関連するもの（段々畑、防風林を有する畑地等） ・地上及び地下に遺る遺跡と関連するもの（条里制、新田開発の地割等と重複する畑地景観等） ・特定の作物及び独特の耕作方法と関連するもの
	3	草地景観	<ul style="list-style-type: none"> ・管理により維持されてきたもの（採草地、放牧地等）
	4	森林景観	<ul style="list-style-type: none"> ・管理により維持されてきたもの（生産林、薪炭林、二次林、防風林、防砂林、防潮林等）
	5	漁場景観 漁港景観 海浜景観	<ul style="list-style-type: none"> ・独特の地形及び気候と関連するもの ・伝統的水産業と関連するもの（地曳網、潮垣、牡蠣及び海苔の養殖等）
	6	河川景観 池沼景観 湖沼景観 水路景観	<ul style="list-style-type: none"> ・独特の地形及び気候と関連し、管理により維持されてきたもの（ため池、掘割、葦原等） ・伝統的漁法と関連するもの（梁漁、白魚漁等） ・渡し、鶺鴒飼い等の場となっている河川景観又は水路景観を含む。
	7	集落に関連する景観	<ul style="list-style-type: none"> ・独特の生業、地形、気候と関連するもの（集落の防風林、集落を区画する石垣及び垣根等）
Ⅱ	1	古来より信仰及び行楽の対象となってきた景観	<ul style="list-style-type: none"> ・生業との関連で、信仰の対象となってきた山、森、池沼、滝等の景観 ・生業との関連で、行楽の場となってきた景観
	2	古来より芸術の題材及び創造の背景となってきた景観	<ul style="list-style-type: none"> ・古来より詩歌及び絵画等の芸術作品の題材若しくはそれらの創造の背景となった農林水産業の景観
	3	独特の気象によって現れる景観	<ul style="list-style-type: none"> ・雨、霧、雪、蜃気楼などによって現れ、農林水産業の季節を象徴する独特の景観
Ⅲ	伝統的産業及び生活を示す文化財の周辺の景観		<ul style="list-style-type: none"> ・農林水産業によって形成された工作物（堰、橋等）と一体となって展開する景観
Ⅳ	Ⅰ～Ⅲの複合景観		<ul style="list-style-type: none"> ・複数の異種の要素が、ある体系の下に有機的に機能している地域（水田と水源地、生産地と集落等） ・農業、林業、水産業の各景観が組み合わさった景観

られたため、重要地域の選択に当たり除外した。

ウ. 選択の結果

アに示した基準に基づき選択を行い、「文化的景観」の重要地域について、表2-1に示すように分類した。各種別及び都道府県別の所在状況については、表2-2に示すとおりである。

それぞれの種別ごとの「文化的景観」の事例並びに特質及び課題は、以下のように整理することが可能である。

(ア) 水田景観（Ⅰ－１）

事例 水田景観のうちの約70%を棚田が占める。それ以外には、条里制など歴史上の価値を有する地下遺構と関連するもの、「はさ木」等の農耕に関連する独特の施設を伴うもの、谷津田及び車田などのように立地する地形及び用いられる農法等により独特の構造を有するもの、近代の大規模な圃場整備に伴い平野部に出現した広大な面積を有するものなどがある。

特質及び課題 棚田については、「棚田百選」などによる宣伝効果もあり地域における保護の意識が高まってはいるが、それとは裏腹に耕作者の高齢化及び後継者不足など深刻な課題を抱えている。また、畦畔の維持管理に要する労力を軽減するために現代的な材料及び工法が多用されている事例も多く、「文化的景観」としての価値の継承に多大な影響を及ぼしているのみならず、石積等の伝統的技術の伝承においても大きな課題がある。

条里制など歴史上の価値を有する地下遺構と直接関連する水田景観については、地下遺構との関連性を視覚的に認識しにくくなっている場合が多く、地域住民がその価値を十分に理解していないために、積極的な活用対策が講じられないばかりか、圃場整備等により失われつつあっても全く認識されないなどの保存上の危険性を孕んでいる。

また、「はさ木」及び「畦畔木」等については、他の代替施設が登場することにより不要とされ、消滅の危機に瀕しているものも多い。

(イ) 畑地景観（Ⅰ－２）

事例 畑地景観には、急傾斜地に造成された段々畑と平地又は緩傾斜地に展開する畑地がある。段々畑においては、大正時代から昭和初期にかけて全国規模で流通した作物の生産を目的として、芋などの単一作物の大規模栽培が進んだが、第2次世界大戦後は日照を生かし果樹栽培が主流となった。平地又は緩傾斜面に展開する畑地には、芋又は穀類から蕎麦などに変化したものが多い。特に蕎麦畑については、視覚面において印象の強い比較的新しい時代の大規模なものが重要地域として選択されたが、今後は歴史的に古い形態を遺す小規模のもので重要なものについて追加していくことも必要である。

畑地景観の中には、防風林及び境界木などを伴うことにより景観的特性を有するもの、シカ及びイノシシによる食害等を防ぐために築かれた石積の「シシ垣」を伴うものなどもある。また、カルスト地形における

ドリーネ畑など独特の地形との関連を有する畑地景観も見られる。

特質及び課題 耕作者の高齢化、後継者不足等の課題は棚田と共通しているが、環境の保全の観点よりも生産の継続の観点から各種の取組が進められている点に違いがある。境界木の中には消滅の危機に瀕しているものもあるほか、「シシ垣」の多くは深い樹林に埋もれ認知されなくなっているものも多い。

(ウ) 草地景観 (I-3)

事例 放牧を目的とする牧草地、採草を目的とする草地、屋根葺材などの採取の場である茅場などから成る。

放牧地には、近世及び明治時代における軍馬の飼育及び改良に端を発する牧場のほか、近代以降の乳牛及び食肉用の家畜の飼育を目的とする酪農及び畜産の牧場、競馬のサラブレッド種の育成のための牧場などがある。

特質及び課題 各牧場の牧草地では、都会からの観光客を対象とする各種の取組が行われているほか、採草地における野焼きなども観光行事として運営され、その主体は農家から保存団体又は観光団体等に移行している。採草地では生活様式の変化により需要が減少していることも影響して管理が不備となり、樹林へと遷移しつつあるものも見受けられる。そのため、景観の保護、生態系の維持、観光などを目的として、保存団体又は観光団体が継続的に運営を行う事例が多くなってきている。

(エ) 森林景観 (I-4)

事例 林業が営まれている森林景観をはじめ、シイタケ等の森林を利用した特定の産物の生産に関する景観、防風林及び防砂林などの森林景観などがある。

特質及び課題 国内における木材価格が低迷し、林業経営の将来性に不安があることから、林業に従事する者が減少しており、森林景観の維持について根本的な課題を残している。

漆など樹液からの生產品と地域の伝統工芸品の生産との関係が深いものについては、需要が安定しているものもあり、森林景観を将来的に維持していく上で不安材料は比較的少ない。また、海岸における防風林及び防砂林などはマツであることが多く、マツクイムシによる被害を受けているものが多い。

(オ) 漁場景観・漁港景観・海浜景観 (I-5)

事例 漁業を実際に行う場合に形成される独特の漁場景観、漁港をも含めた漁村の景観、養魚、海苔生産などの養殖に関わる景観、海岸に位置する工作物を中心とする独特の景観などがある。

特質及び課題 漁業景観は潮の干満や魚類の習性など、自然の現象を生かした独特の漁法と深く関わるもので、海水の汚染をはじめとする自然環境の変化により景観の維持が困難となりつつあるものも見られる。

養殖景観の多くは江戸時代の藩政の一環として開始されたものが多く、現在もなお生産量及び生產品の質の向上に向けて、技術改良が進められ

表 2-2 2次調査の対象とした地域及び重要地域の各種別及び都道府県別の所在状況

2次調査の対象とした地域

都道府県番号		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
都道府県名		北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県
分類	種別																						
I	1			2	1	1			1	1	1	2	3		1	9	3	2	4	1	4	2	2
	2	4	2	1		1	2	3				2	3	1	1		1		5	1	2		4
	3	1		2			1										1				3		2
	4		3	1	1	3	1		2				1				1	1					
	5	2		2	1	1			1				2			1	1	2					
	6		7	1	1	1			1	2	4		2			2	1		1				2
	7		2	2		2	2	1		1	3	1	5	1				3		2	2	2	2
	小計	7	14	11	4	9	6	4	5	4	8	5	16	2	2	12	8	8	10	4	11	4	12
II	1	1																					
	2							1	1												1		
	3			1			1	1								1	1	1		1	1	2	
	4			2		1												1			1		
	小計	1	0	3	0	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	1	3	2	0
III							1						1							1			
IV		3	1	2	2	1	2	1	1	2	1	2		1		1	2	2		1	2	2	3
合計		11	15	16	6	11	10	7	7	6	9	7	17	3	2	14	11	12	10	7	16	8	15

重要地域

都道府県番号		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
都道府県名		北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県
分類	種別																						
I	1			1									2			5		1			1	1	1
	2	1	1				1	1				2	1	1			1		1	1			1
	3	1		1													1				2		2
	4		2			1																	
	5	1							1				1				1						
	6		2		1	1																	
	7			1			1			1	1		3					1		1	1		
	小計	3	5	3	1	2	2	1	1	1	1	2	7	1	0	5	3	2	1	2	4	1	4
II	1																						
	2							1															
	3			1				1															
	小計	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
III													1										
IV		3	1	2		1	2	1	1	2	1	2		1			2	2			2	2	3
合計		6	6	6	1	3	4	4	2	3	2	4	8	2	0	5	5	4	1	2	6	3	7

23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	合計
愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	
1	1	4	7	7	3	3	2	2	6	2	3	3	2	1	10	6	2	5	4	7	6	4	2	1	134
1	1	1	1	2	1		2	1	1		4	1	3	1	6			1	4	1	3		4		72
	1							1		2		1										1	1		17
			2			2	2									2		1	1	1	1	1			27
1	3	1	2		1					1	4	1	1	1	3	1			1				2	1	37
		1		1	2		1	4	2		1	2					2	2	1	3			1		48
		2	1		1	3	1	1	3	1			1		1	2		1		1	3	1	2	1	57
3	6	9	13	10	8	8	8	9	12	6	12	8	7	3	20	11	4	10	11	13	13	7	12	3	392
						1														1			1		4
						2																1			6
	1																								11
1			1				1				1					1		1					2	2	15
1	1	0	1	0	0	3	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	3	2	36
			1		1				1								2	1		1	2				12
	1	1	1	1	1	1		2	4	2	2	2		1	6	1	1	2		3	2		1		62
4	8	10	16	11	10	12	9	11	17	8	15	10	7	4	26	13	7	14	11	18	17	8	16	5	502

23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	合計
愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	
1	1	1	1	1		2	1		2	1	1			1	1	1	2	2		1	1	2			35
	1	1		1			1				2	1	3		3				2		2		3		32
										1		1										1			10
			1			1										1				1					7
	1				1						1												2	1	10
					1				1			1								1			1		9
															1	2									13
1	3	2	2	2	2	3	2	0	3	2	4	3	3	1	5	4	2	2	2	3	3	3	6	1	116
																							1		1
																									1
																									2
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4
			1		1												1	1		1	2				8
	1	1		1	1	1		1	4	2		2		1	5	1	1	2		3	2				52
1	4	3	3	3	4	4	2	1	7	4	4	5	3	2	10	5	4	5	2	7	7	3	7	1	180

注：右の合計件数は複数県にまたがる複合景観を1件として計上しているため、各県の合計の総計とは合致しない。

ている。養殖は湾内の閉鎖水系において営まれているものが多く、漁業景観以上に水質の悪化など自然環境の変化による影響を受けやすい。

(カ) 河川景観・池沼景観・湖沼景観・水路景観（Ⅰ－６）

事例 河川、池沼、水路などにおける独特の漁法を示す景観のほか、用水路、水門、堰、サイフォン施設などの水の調節施設並びに堤及び橋などの工作物から成る景観、ため池及び掘割など独特の地形における土地利用とも関連する水路の景観、ヨシ生産を目的とする葦原の景観などがある。

特質及び課題 漁法と関連するものは、地形と魚類の習性を生かした漁法の下に、河川、池沼、水路などと一体となって独特の景観を示すものである。漁業が立ちゆかなくなり、観光の対象として生き残っているものもあるほか、生活排水の流入及び土砂崩れ等による水質の汚濁、気候変動など様々な原因により漁獲量が低下し、消滅の危機に瀕しているものもある。

堰の改修や掘割の浚渫など、定期的な修理や管理の作業を行う様子が地域の風物詩として大切にされてきたものもあるが、過疎化や生活様式の変化などの理由により作業を行う人々が減少しつつある。

葦原景観については、ヨシの需要が減少しつつあることから、景観の維持に不安を残している。現在では景観保護の観点から野焼きを行い、観光の対象として活用されているものが多い。

(キ) 集落に関連する景観（Ⅰ－７）

事例 傾斜地、平地、山岳、海岸など立地する地形や気候との関係で、石垣、防風林、垣根などの施設を伴うことにより独特の景観を示すものがある。また、集落を中心として、その周辺の農耕地、林地、さらに外側に展開する自然の山野など、居住及び生産の各区域が地形との関係で一体となって構成されている点に重要な意義のあるものもある。

また、農山漁村集落の建築資材等の調達の間となった採石場の景観なども、この範疇に含まれる。

特質及び課題 過疎化が進み、住み手が減少しているものが多い。集落の区画を構成する石垣、防風林、垣根などの管理技術及び修理技術の伝承においても大きな課題を抱えている。しかし、事例は少ないものの、地方公共団体が集落の防風林等の管理及び修理について助成金を交付している事例がある。

(ク) 古来より信仰及び行楽の対象となってきた景観（Ⅱ－１）

事例 農林水産業との関連で信仰の対象となってきた山、森、池沼、滝等の景観及び行楽の間となってきた景観などである。

特質及び課題 人間が農林水産業及び農山漁村生活を通じ、精神的な側面において身の回りの自然と関わってきたことを示す景観であり、農耕及び漁労に関して信仰の対象となる山、森、海岸、あるいは生業の合間に行楽の間となる温泉地など、景観の種別は多彩である。

自然公園の指定地に含まれているもの及び現在では観光地として著名

となっているものが多いことから、保護状況は比較的安定している。

(ケ) 古来より芸術の題材及び創造の背景となってきた景観（Ⅱ－２）

事例 古来より詩歌及び絵画等の芸術作品の題材となるなど創造活動の背景となった農林水産業の景観で、特定の作家及び芸術家による作品の母胎となったものが多い。

特質及び課題 この種別の景観として分類したものの中には、水田、畑地、草地、森林など（ア）～（キ）に示した他の種別とも重複する可能性のあるものが見受けられる。

古来より信仰及び行楽の対象となってきた景観と同様に、自然公園の指定地に含まれているもの及び現在では観光地として著名となっているものが多いことから、保護状況は比較的安定している。

(コ) 独特の気象によって現れる景観（Ⅱ－３）

事例 雨、霧、雪など地形及び気候により発生する独特の気象現象が農林水産業の季節を象徴する景観を形成しているもので、「雪形」など独特の地形によって発生する気象現象及び蜃気楼などによって出現する景観などがある。

特質及び課題 特定の季節及び場所においてのみ、一時的に出現する景観である。出現する時期が気候変動等の影響により農林水産業の季節とは明確に一致しなくなりつつあること、農山漁村地域における生活様式及び農林水産業における季節の捉え方が変化したことなどに伴い、かつて持っていたこの種の景観の意味が次第に薄れつつある。

(サ) 伝統的産業及び生活を示す文化財の周辺に展開する景観（Ⅲ）

事例 堰、橋など農林水産業及び農山漁村生活とも深く関連して形成された工作物等を中心とし、その周辺に一体となって展開することに重要な意義のある景観である。

特質及び課題 景観の中心となる工作物等が文化財として保護されているものが多い反面、その周辺地域に展開する景観を一体として保護しようとの考え方は未だ不十分であるものが多い。

(シ) Ⅰ～Ⅲの複合景観（Ⅳ）

事例 （ア）～（サ）に属する複数の景観が、一つの体系の下に有機的につながり機能しているもの及び農林水産業の異種の景観が組み合わさったものなどである。特に前者については、水田と水源地及び両者を結ぶ水系や、居住域である集落と生産域である農耕地、海岸及び河川等の漁場などとの関係において重要な意義を有するもの、農林水産業の仕組みを軸として相互に深い関係を有するものなどが該当する。また、後者については、一つの河川等の水系につながる複数の異種の景観を広域にわたって対象とするもの及びある特定の主題の下に歴史及び文化を共有する複数の異種の景観から成るものなどが該当する。

これらの地域は、独特の土地利用等が見られるなどそれ自体で高い価値を有し、その地域の核ともなる複数の異種の「文化的景観」の地域と、それらの周辺又は相互の間にあつて、核を成す地域とも緊密な関係を有

する「文化的景観」の地域の2者から成り、両者が複合的に一体の景観を構成しているところに大きな特徴を持つ。

特質及び課題 「文化的景観」は多種多様な機能を有する諸要素の組合せとそれらの有機的な関係に重要な意義を有するものが多い。したがって、Ⅰ～Ⅲの複合景観にこそ「文化的景観」の総体としての価値を示す真髄があるといっても過言ではない。ただし、今回この分野に属するものとして重要地域に選択されたものは、独特の土地利用等が見られ、それ自体で高い価値を有する「文化的景観」の地域の集合としての性質が強く、今後、それらの総体としての価値を保護していくためには、個々の地域の周辺にあって緊密な関係を有する「文化的景観」の地域を視野に入れた広域にわたる面的保護の対策が大きな課題となる。

（５）詳細調査の試験的实施

選択した重要地域のそれぞれについて、最も適切な保護の方法を検討するためには、各地域の詳細調査を実施し、「文化的景観」の構成要素を明らかにするとともに、保護の施策を講ずべき区域の範囲と現状における課題等について明確に把握することが必要となる。そのため、「文化的景観」の種別と地域的分布を考慮の上、重要地域の中から選択した8地域を対象として詳細調査を試験的に実施し、その結果を以下のような項目に従ってまとめた。

項目の1～3において現状把握を行い、それに基づき4において価値と特質を把握し、5～7において現状の取組を踏まえ問題点及び将来的な課題等について整理を行う構造となっている。

特に3において「文化的景観」の景観構造を把握するに当たっては、景観が展開する範囲及びその空間の規模、景観を視覚的に捉える上で視点となる場所などの点に着目し、地域住民が「文化的景観」をどの範囲でどのように認識しているのかについて十分検討することが必要である。

1. 「文化的景観」の地域を取り巻く自然的、歴史的、社会的状況の把握
2. 農林水産業の仕組み（歴史、仕組みの変化、土地利用の変化）
3. 「文化的景観」の規模、形態、性質
（構成要素の抽出、景観構造の特質等の把握）
4. 「文化的景観」の価値と特質の把握
5. 保護に対する地域住民の取組
6. 保護に関する問題点
7. 将来的な課題

「文化的景観」の地域に対し保護の施策を講じる場合には、ここに示した項目に基づいて詳細調査の結果をまとめ、保護の対象とすべき範囲を明確に定めることが必要となる。さらに、保存管理の基本方針、各構成要素ごとの保存管理の手法、適切な保存管理のために必要とされる行為規制の在り方等を含む包括的な保存管理計画を策定することが不可欠である。

3. 現行の保護制度における重要地域の捉え方

本節においては、文化財保護法に基づく現行の保護制度のうち、特に記念物の観点から重要地域をどのように捉えるかについて検討を行うこととする。

(1) 記念物の指定

文化財保護法第2条は、5種類の文化財についてそれぞれの定義を示している（図3-1）。本報告で取り扱う記念物は、その第3番目に当たる。また、文化財保護法第69条に基づき、文部科学大臣は記念物のうち重要なものを史跡名勝天然記念物に、特に重要なものを特別史跡名勝天然記念物に指定できる。それらの指定及び指定の解除に当たっては、高度な専門的知識と経験などを要することから、文部科学大臣はあらかじめ文化審議会に諮問しなければならない（文化財保護法第84条）。

なお、指定対象を定める指定基準については、「特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準」（以下、「指定基準」という。）（昭和26年5月10日文化財保護委員会告示第2号、昭和30年5月25日文化財保護委員会告示第29号（第1次改正）、平成7年3月6日文部省告示第24号（第2次改正））において示されている（指定基準の抄録は図3-2に示す）。

(2) 記念物と「文化的景観」

現行の保護制度のうち記念物と「文化的景観」との関係は、それぞれ分野ごとに以下のように整理することができる。

ア. 史跡

定義 史跡は、文化財保護法第2条第1項第4号に定める「貝づか、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡で我が国にとって歴史上又は学術上価値の高いもの」のうち、同法第69条第1項に基づき文部科学大臣が重要なものとして指定したものである。指定基準には、「わが国の歴史の正しい理解のために欠くことができず、且つ、その遺跡の規模、遺構、出土遺物等において学術上価値あるもの」と定める（図3-1、3-2）。

歴史上又は学術上の価値を構成する諸要素 史跡は、文化財保護法第2条に定める文化財の定義に従えば歴史上又は学術上の高い価値を有する「遺跡」のうち重要なものであり、指定基準によれば主として「遺構」及び「出土遺物」により構成されるものである。さらに、指定基準には、学術上の価値を判断する基準として「遺構」及び「出土遺物」のほかに「遺跡の規模」を掲げることから、遺跡が地形とともに展開し一定の広がりを持つ空間自体を遺跡の構成要素として想定していることがうかがえる。したがって、史跡の歴史上又は学術上の価値を表す諸要素は、「遺構」及び「出土遺物」、「遺跡が地形とともに展開し一定の広がりを持つ空間」の3者から構成されることがわかる（図3-3）。

構成要素及び景観 「遺構」及び「出土遺物」は、ともに「遺跡」の土地に付着するものである。「遺構」の中には、古墳の墳丘、城跡の石垣及び堀などのように、地形と一体となって土地の形状に史跡としての価値を表

図 3-1 文化財保護法における文化財の体系図

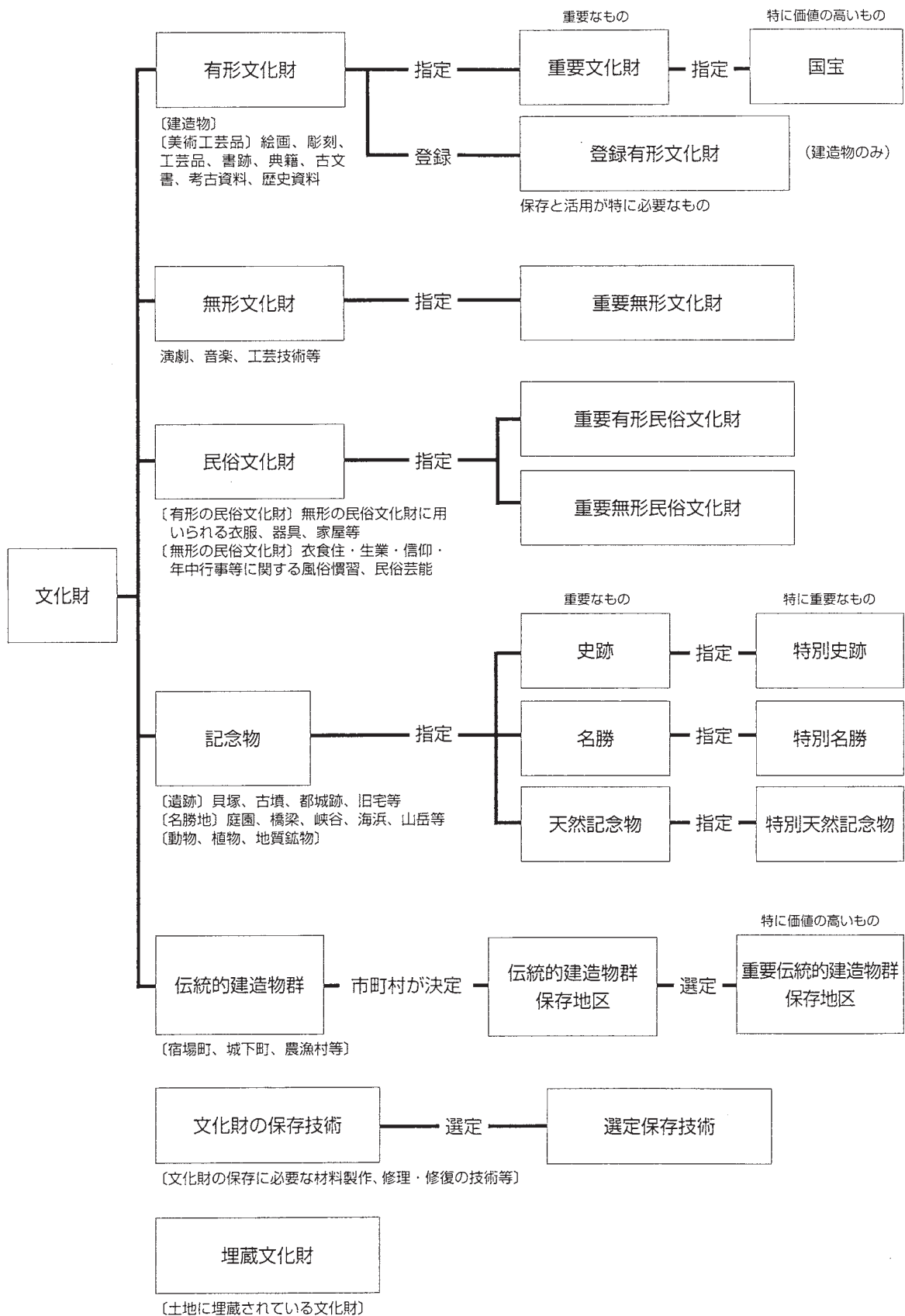


図 3-2 史跡名勝天然記念物と「文化的景観」

(1) 史跡

文化財保護法第2条及び第69条における定義

貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡で我が国にとって歴史上又は学術上価値の高いもの（文化財保護法第2条第1項第4号）のうち重要なもの

特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準における定義

（前略）わが国の歴史の正しい理解のために欠くことができず、且つ、その遺跡の規模、遺構、出土遺物等において学術上価値あるもの

史跡の観点から見た「文化的景観」

歴史上又は学術上の価値の高い地割若しくは土地利用の在り方等を示す遺跡が、現代の農耕地又は林地等と融合することにより、独特の「史跡の景観」を形成しているもの

次の3点に基づく総合的な評価が必要

1. 歴史的な地割又は土地利用の在り方等を良好に示す土地に埋蔵された遺跡
2. 一定程度の変容を受けてはいるが、1に関連して歴史的な地割又は土地利用の在り方を地上の地形又は地貌に顕著に表している遺跡
3. 1及び2と一体を成す現代の農耕地又は林地等

(2) 名勝

文化財保護法第2条及び第69条における定義

庭園、橋梁、峡谷、海浜、山岳その他の名勝地で我が国にとって芸術上又は観賞上価値の高いもの（文化財保護法第2条第1項第4号）のうち重要なもの

特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準における定義

（前略）わが国のすぐれた国土美として欠くことのできないものであって、その自然的なものにおいては、風致景観の優秀なもの、名所のあるいは学術的価値の高いもの、また人文的なものにおいては、芸術的あるいは学術的価値の高いもの

名勝の観点から見た「文化的景観」

古来より名所として親しまれ、芸術作品等によって広く知られてきた農林水産業の風致景観を成す地域で観賞上の価値が高いもの

(3) 天然記念物

文化財保護法第2条及び第69条における定義

動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む。）、植物（自生地を含む。）及び地質鉱物（特異な自然の現象の生じている土地を含む。）で我が国にとって学術上価値の高いもの（文化財保護法第2条第1項第4号）のうち重要なもの

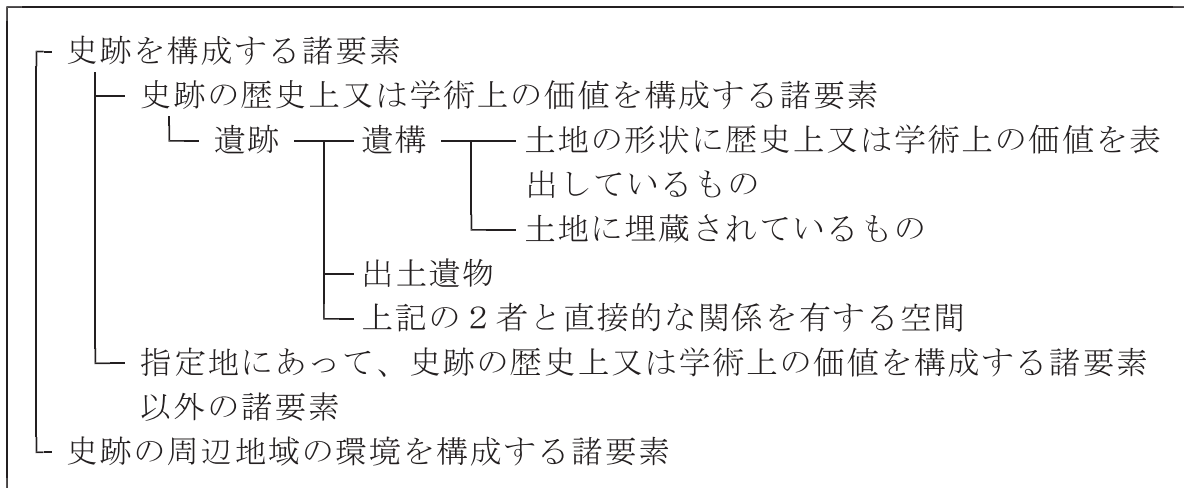
特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準における定義

（前略）動植物及び地質鉱物のうち学術上貴重で、わが国の自然を記念するもの

天然記念物の観点から見た「文化的景観」

学術上価値の高い動植物が生息、繁殖、渡来又は自生する土地並びに学術上価値の高い地質鉱物及び特異な自然の現象の生じている土地において農林水産業が営まれ、それらの生業及び産業の在り方が当該天然記念物の存続に物理的又は精神的に深い関係を有するもの

図 3-3 史跡とその周辺地域の環境を構成する諸要素



出しているものと、多くの貝塚及び都城跡のように土地に埋蔵されているものの2種類がある。この2者は土地を含む遺跡の空間を構成し、遺跡の外形を成す様々な地貌とともに「史跡の歴史的景観」を構成している。

また、史跡の指定地には、史跡の歴史上又は学術上の価値を表す諸要素以外にも、時間の経過とともに改変された地形をはじめ、後代に付加された建築物、工作物、農耕地、植樹、叢生した樹木などの諸要素が存在する。これらの諸要素は、史跡の歴史上又は学術上の価値を表す諸要素とともに、「史跡の景観」を形成している。

周辺環境 すべての史跡は、その周辺環境と一体となって存在する。したがって、指定地の周辺地域を構成する地形、集落、農耕地、樹木等の諸要素は史跡の歴史上又は学術上の価値とも深く関連しており、「周辺地域の景観」を構成する諸要素として捉えることが必要である。

史跡と「文化的景観」 以上のように、史跡の景観は、一般的に「遺構」及び「出土遺物」を含めた「遺跡」の空間が構成する史跡の歴史的景観と、後代に改変された地形又は付加された施設等が形成する地貌等の指定地の景観とが相互に融合して形成されたものとして捉えることが適切である。また、指定地内の景観とそれらの諸要素は、指定地の周辺地域における景観とそれらの諸要素とも密接に関連している。

特に史跡の観点から評価の対象となり得る「文化的景観」は、歴史上又は学術上の価値の高い地割若しくは土地利用の在り方等を示す遺跡が、現代の農耕地又は林地等と融合することにより、独特の「史跡の景観」を形成しているものである〈図3-2〉。その評価に当たっては、上記した「史跡の景観」を捉える上での一般的な視点を十分踏まえ、次に掲げる3点に基づく総合的な評価が不可欠である。

1. 歴史的な地割又は土地利用の在り方等を良好に示す土地に埋蔵された遺跡
2. 一定程度の変容を受けてはいるが、1に関連して歴史的な地割又は土地利用の在り方を地上の地形又は地貌に顕著に表している遺跡

3. 1 及び 2 と一体を成す現代の農耕地又は林地等

史跡の視点からの重要地域の評価 重要地域として選択されたもののうち、「文化的景観」の視点を踏まえつつ、従来の史跡の分野において評価することが可能なものは以下のとおりである。

寺院の境内及びその跡、用水路、ため池などが中世以来の荘園遺跡として既に国の史跡に指定されている史跡日根野荘遺跡〔大阪府泉佐野市〕〈図3-4、3-5〉をはじめ、未だ史跡には指定されていない骨寺村荘園遺跡〔岩手県一関市〕〈図3-6、3-7〉及び田染荘遺跡〔大分県豊後高田市〕〈図3-8、3-9〉などの荘園関連遺跡、三富新田開発地割遺跡〔埼玉県三芳町、所沢市〕〈図3-10、3-11〉及び十勝平野などに顕著に見られる近代北海道に特有の300間間隔の圃場遺跡〔北海道帯広市〕など新田開発に関する遺跡、琵琶湖の湖南・湖北地方の条里水田〔滋賀県守山市、長浜市〕、大和地方の条里景観〔奈良県大和郡山市、桜井市〕、丸亀の条里景観〔香川県丸亀市〕〈図3-12〉などの条里制に関する遺跡については、従来の史跡の観点のみならず「文化的景観」の観点をも十分視野に入れ、その歴史上又は学術上の価値について検討することが必要である。

砂鉄の採取と製鉄に関して現状の地形及び農耕地等の土地利用とも密接に関連しつつ遺存する遺跡〔広島県君田村〕、八代海沿岸の干拓に関連する遺跡〔熊本県八代市ほか〕〈図3-13〉、牧場開発の拠点となった小岩井農場の関連遺跡〔岩手県雫石町〕〈図3-14、3-15〉、野馬追に関連する施設の遺跡である北御牧の野馬除け跡〔長野県北御牧村〕などについても同様の検討が必要である。江戸時代の菊池川水運に伴い木蠟生産に関して形成された菊池川のハゼ並木〔熊本県玉名市〕〈図3-16〉をはじめ、安積疎水〔福島県猪苗代町、河東町〕、那須疎水〔栃木県塩原町〕、野火止用水〔埼玉県新座市、東京都小平市、清瀬市、東村山市、立川市、東大和市、東久留米市〕〈図3-18、3-19〉、石井樋及び多布施川〔佐賀県佐賀市、大和町〕〈図3-17〉など、農業用水路等の線状にのびる農業施設を、その沿川に展開する景観をも含め「文化的景観」として評価することが求められるものもある。

また、中世の北方世界に覇権を築いた安藤氏の十三湊遺跡を中心とする津軽半島の十三湖の景観〔青森県市浦村ほか〕〈図3-20〉の場合には、十三湊遺跡を歴史上又は学術上の価値が極めて高い史跡として評価するとともに、周囲の湖沼景観を一体の「文化的景観」として視野に入れた評価を検討することが必要である。

イ. 名勝

定義 名勝は、文化財保護法第2条第1項第4号に定める「庭園、橋梁、峡谷、海浜、山岳その他の名勝地で我が国にとって芸術上又は観賞上価値の高いもの」のうち、同法第69条第1項に基づき文部科学大臣が重要なものとして指定したものである。指定基準には、「わが国のすぐれた国土美として欠くことのできないものであって、その自然的なものにおいては、風致景観の優秀なもの、名所的あるいは学術的価値の高いもの、また人文



図 3-4,5 史跡^{ひねのしょう}日根野 荘 遺跡 [大阪府泉佐野市]



図 3-6,7 骨^{ほねてら}寺村 荘園遺跡 [岩手県一関市] (左、図3-6は川嶋印刷株式会社の提供による。)



図 3-8,9 田^{たしぶのしょう}染 荘 遺跡 [大分県豊後高田市]



図 3-10,11 三^{さん}富新田^{とめしんでん}開発地割遺跡 [埼玉県三芳町、所沢市] (左、図3-10は国土地理院発行の空中写真の複製による。)





図 3-12 丸亀の条里景観 [香川県丸亀市]



図 3-13 八代海沿岸の干拓関連遺跡 [熊本県八代市ほか]



図 3-14, 15 牧場開発の拠点となった小岩井農場の関連遺跡 [岩手県雫石町]



図 3-16 菊池川のハゼ並木 [熊本県玉名市]



図 3-17 石井樋及び多布施川 [佐賀県佐賀市、大和町]



図 3-18, 19 野火止用水 [埼玉県新座市、東京都小平市、清瀬市、東村山市、立川市、東久留米市、東大和市]



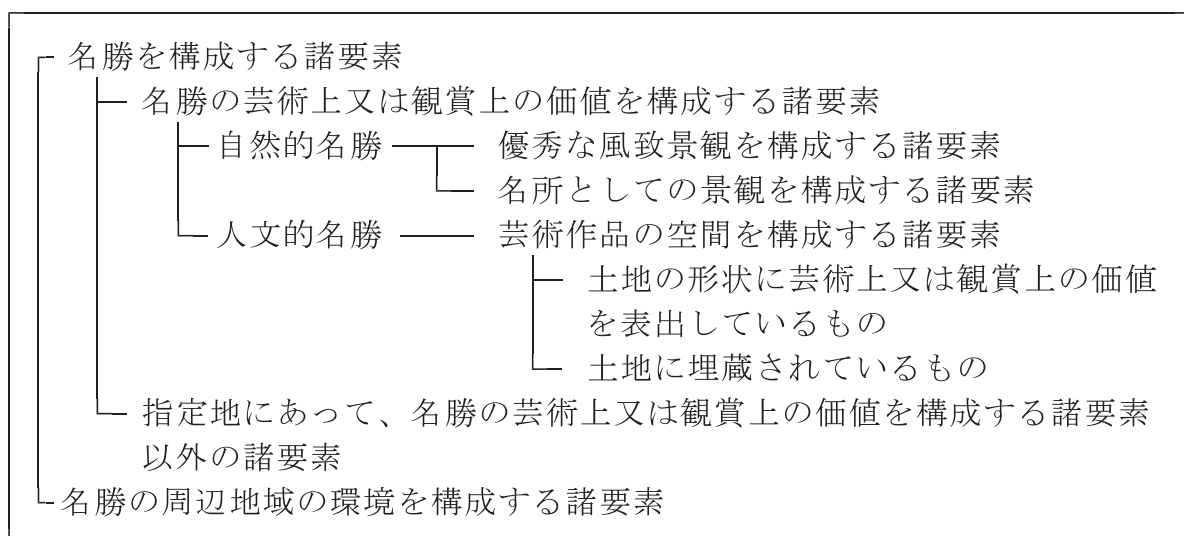


図 3-20 十三湖の景観 [青森県市浦村ほか]

的なものにおいては、芸術的あるいは学術的価値の高いもの」と定める〈図3-1、3-2〉。

芸術上又は観賞上の価値を構成する諸要素 自然的名勝における芸術上又は観賞上の価値を構成する諸要素は、自然の景勝地の風致景観を優秀ならしめ、名所あるいは学術的価値の源泉となっているすべての自然的、人文的諸要素から成る〈図3-21〉。例えば、景勝地の芸術性又は観賞性の基礎を成す気候、気象、地形、地質、水系、水質及びそこに生息する動植物等の自然的諸要素のほか、古来から名所として喧伝されてきたことを示す歴史的な建築物及び工作物等並びに独特の土地利用の形態等を示す人文的諸要素である。

図 3-21 名勝とその周辺地域の環境を構成する諸要素



人文的名勝における芸術上又は観賞上の価値を構成する諸要素は、人間の設計意図によって意匠された庭園、公園、橋梁などを構成し、それらの芸術上又は観賞上の価値の源泉となっているすべての諸要素から成る。例えば作品に見られる地形や地割、石組、植栽樹木をはじめ、それらと一体となって構成された建築物及び工作物等とその群、園外の眺望対象、橋梁等及びそれと一体となった河川などの諸要素である。人文的名勝の諸要素には、史跡と同様に、地形と一体となって地上に表出しているものと、土地に埋蔵されているものの2種類がある。また、借景庭園の眺望対象など、庭園外にありながら庭園の重要な構成要素として取り込まれた農耕地の風景のほか、庭園の内部に構築された水田をはじめとする農耕地の風景などがある。

名勝の芸術上又は観賞上の価値は、自然的名勝と人文的名勝との別を問わず、上記した諸要素と諸要素間の有機的な関係が、人間の視覚を通じて風景として認識される。

構成要素及び景観 名勝は、土地が有する文化的価値を主として芸術上又は観賞上の観点から視覚的に捉えたものである。その土地を構成する諸要素を景観として捉え、さらに視覚を通じてその審美的価値を「風景」として認識したものだと言ってよい。したがって、名勝においては、景観を審美的に捉える上で展望又は眺望が極めて重要な要素を成す。また、名勝の芸術上又は観賞上の価値は、景観が時間の経過及び季節の推移により一定の幅で変容又は変化することを前提としている。

周辺環境 史跡と同様に、すべての名勝はその周辺環境と一体となって存在する。したがって、指定地の周辺地域を構成する地形、集落、農耕地、樹木等の諸要素も名勝の芸術上又は観賞上の価値と深く関連しており、周辺地域の景観を構成する諸要素として捉えることが必要である。特に借景庭園などにおいて展望又は眺望される庭園の外部の景観は、庭園の周辺環境というよりも、むしろ当該庭園の風景を構成する本質的な部分を成していると言ってよい。

名勝と「文化的景観」 名勝の観点から評価の対象となり得る「文化的景観」は、古来より名所として親しまれ、芸術作品等によっても広く知られてきた農林水産業の風致景観を成す地域で観賞上の価値が高いものと定義できる〈図3-2〉。その評価に当たっては、芸術上又は観賞上の価値の源泉となる諸要素とそれ以外の諸要素を明確に区別して把握し、それらの諸要素間の有機的な関係に着目しつつ、景観全体の調和の在り方を審美的な観点から風景として捉える視点が重要である。

名勝の視点からの重要地域の評価 重要地域として選択されたもののうち、「文化的景観」の視点を踏まえつつ、従来の名勝の分野において評価することが可能なものは以下のとおりである。いずれも、当該「文化的景観」の芸術上又は観賞上の価値を証明する著名な詩歌等の文学作品及び絵画等の芸術作品が遺されているものばかりである。

まず第1に、既に名勝に指定されている水田として、江戸時代以来、月

見の名所として名が知られた名勝姨捨（田毎の月）〔長野県更埴市〕〈図1-14、1-15、1-16、1-17、1-18〉及び日本海沿岸の急傾斜地に展開する観賞性の高い名勝白米の千枚田〔石川県輪島市〕〈図1-19、1-20〉がある。それ以外にも、甲州葡萄生産の中心地で広大な葡萄畑が扇状地に展開し、江戸時代以来文人が訪れた勝沼の葡萄畑〔山梨県勝沼町〕〈図3-22〉をはじめ、鹿島〔広島県倉橋町〕〈図3-23〉、水ヶ浦〔愛媛県宇和島市〕〈図3-24〉、宇和海〔愛媛県明浜町〕など、近代文学にも登場する瀬戸内海沿岸の石積の段々畑などの畑地景観がある。また、文学者であり農業の実践者でもあった宮沢賢治の作品の舞台として、独特の地形を有する農耕地、牧草地、林地など〔岩手県雫石町ほか〕〈図3-25、3-26、3-27、3-28〉は名勝としての評価が可能である。川端康成の作品の舞台ともなった北山杉の林立する風景〔京都府京都市〕〈図3-29〉、北原白秋の作品の母胎となった柳川地方を中心とする掘割の風景〔福岡県柳川市、大木町ほか〕〈図3-30、3-31〉、万葉集にも詠われた琵琶湖の内湖（西の湖）の風景〔滋賀県近江八幡市〕〈図3-32、3-33〉、近代の詩歌の題材となった円山川の葦原の風景〔兵庫県城崎町〕〈図3-34〉、満濃池〔香川県満濃町〕〈図3-35〉、不知火の伝承を遺す有明海の干潟景観〔熊本県玉名市、宇土市ほか〕〈図3-36〉など、文学作品の素材となった「文化的景観」は名勝としての評価が可能である。また、多くの文人墨客が訪れ芸術作品の題材ともなった温泉の湯けむりと、明礬精製のために覆屋の屋根に葺く茅の生産の場として、草地に覆われた背後の丘陵との対比が顕著な観賞性を示す別府温泉の景観〔大分県別府市〕〈図3-37〉なども、名勝としての評価が可能な「文化的景観」である。

ウ. 天然記念物

定義 天然記念物は、文化財保護法第2条第1項第4号に定める「動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む。）、植物（自生地を含む。）及び地質鉱物（特異な自然の現象の生じている土地を含む。）で我が国にとって学術上価値の高いもの」のうち、同法第69条第1項に基づき文部科学大臣が重要なものとして指定したものである。指定基準には、「動植物及び地質鉱物のうち学術上貴重で、わが国の自然を記念するもの」と定める〈図3-1、3-2〉。

学術上の価値を構成する諸要素 天然記念物のうち、動植物に関するもので学術上の価値を構成する諸要素は、動植物とそれらの生息地、繁殖地、渡来地又は自生地の土地を構成する自然的、人文的な諸要素から成る。また、地質鉱物に関するもので学術上の価値を構成する諸要素は、地質鉱物又は特異な自然の現象とそれらを生じている土地の自然的、人文的な諸要素から成る。それらの諸要素のうち、自然的なものにおいては土、水、空気のほかにその土地に生息するあらゆる種類の生物群集から成る生態系の諸要素があり、人文的なものにおいては天然記念物の存立に関わるすべての人間の営為とその所産を含む〈図3-38〉。

構成要素及び景観 天然記念物を中心とする生態系とそれらの存続に、人間の生業及び生活等の営為が深く関わっている場合も多い。農林水産業が営まれている土地が天然記念物の生息、繁殖、渡来又は自生の場所となっ



図 3-22 勝沼の葡萄畑 [山梨県勝沼町]



図 3-23 ^{かしま}鹿島の段々畑 [広島県倉橋町]



図 3-24 ^{みずがうら}水ヶ浦の段々畑 [愛媛県宇和島市]



図 3-25 宮沢賢治関連の農耕地ほか [岩手県雫石町ほか]



図 3-26, 27 宮沢賢治関連の農耕地ほか [岩手県雫石町ほか]



図 3-28 宮沢賢治関連の農耕地ほか [岩手県雫石町ほか]



図 3-29 ^{きたやまさぎ}北山杉の風景 [京都府京都市]



図 3-30, 31 柳川地方の掘割の風景 [福岡県柳川市、大木町ほか]



図 3-32, 33 琵琶湖の内湖（西の湖）^{にしこ} [滋賀県近江八幡市]



図 3-34 まるやまがわ 円山川の葦原の風景 [兵庫県城崎町]



図 3-35 まんのういけ 満濃池 [香川県満濃町]



図 3-36 しらぬい 不知火の伝承を遺す有明海の干潟の風景 [熊本県玉名市、宇土市ほか]



図 3-37 別府温泉の湯けむりと扇山の風景^{おうぎやま} [大分県別府市]

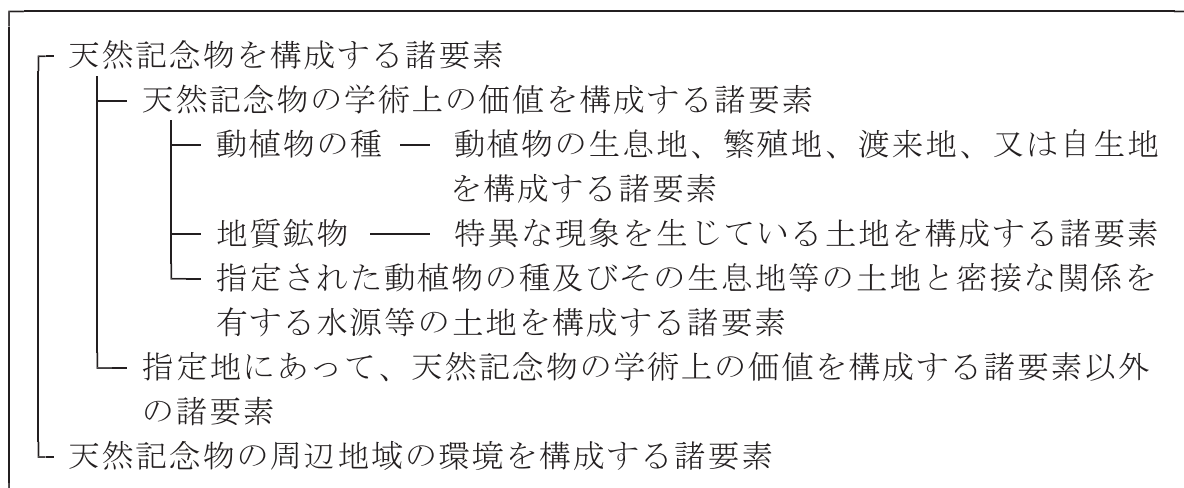
ている場合には、当該天然記念物の存続において農林水産業に関する人間の営為が大きく寄与しているものと評価することも可能である。そのような場合には、その土地を多種多様な諸要素が相互に複雑に関連し合う「文化的景観」と捉え、諸要素と天然記念物との有機的な関係を十分視野に入れた評価が必要となる。

周辺環境 天然記念物である動植物が生息、繁殖、渡来又は自生する上で前提となる水系及び水質等は、その土地のみで完結するとは限らないため、河川等の水域又は流域をも視野に入れた周辺地域における環境の保全が必要となる。そのような周辺地域における人間の生業及び生活等が当該天然記念物に与える悪影響又は積極的に果たしている効果等について十分評価することが必要である。周辺地域が農林水産業の地域である場合には、当該周辺地域を「文化的景観」の観点から把握することが求められる。

天然記念物と「文化的景観」 天然記念物の観点から評価の対象となり得る「文化的景観」は、学術上価値の高い動植物が生息、繁殖、渡来又は自生する土地並びに学術上価値の高い地質鉱物及び特異な自然の現象の生じている土地において農林水産業が営まれ、それらの生業又は産業の在り方が当該天然記念物の存続に物理的又は精神的に深い関係を有するものである。そのような土地を「文化的景観」の観点から評価するに当たっては、土地を構成する諸要素のうち、特に当該天然記念物に直接関連するものとそれ以外のものとを明確に区別し、生態系における諸要素間の有機的な関係や、人間の営為と天然記念物の存続との関係について十分視野に入れた評価が必要である。

天然記念物の視点からの重要地域の評価 重要地域として選択されたもののうち、「文化的景観」の視点を踏まえつつ、従来の天然記念物の分野において評価することが可能なものは以下のとおりである。いずれも、当該「文化的景観」の土地に生息、繁殖、渡来又は自生する学術上価値の高い動植物であるか、あるいは当該土地に存在する地質鉱物又は生じている特異な自然の現象である。

図 3-38 天然記念物とその周辺地域の環境を構成する諸要素



例えば、既に天然記念物に指定されている鳥類アビと漁場との関係が「文化的景観」とも評価できる「アビ渡来群遊海面」〔広島県豊浜町〕をはじめ、天然記念物に指定されている馬とその繁殖地として野焼きなどの管理が行われている草地の「文化的景観」が一体を成す「岬馬およびその繁殖地」〔宮崎県串間市〕^{みさきうま}〈図3-39〉など、特定の動物とその生息、繁殖、渡来する土地があるほか、秋吉台のドリーネ畑〔山口県美東町〕^{あきよしだい}〈図3-40〉及び阿蘇山の大カルデラ地形における牧野景観〔熊本県阿蘇町〕〈図3-41〉など、当該土地に存在する地質鉱物又は生じている特異な自然の現象との関連で独特の農林水産業の土地利用が見られるものがある。また、地域を定めず指定されたコウノトリやミヤコタナゴなどの天然記念物の生息地の中には、それ自体として高い価値を有する「文化的景観」の地域ではないが、集落に近接し農林水産業など人間の積極的な諸活動との関わりが見られる土地も多く存在する。

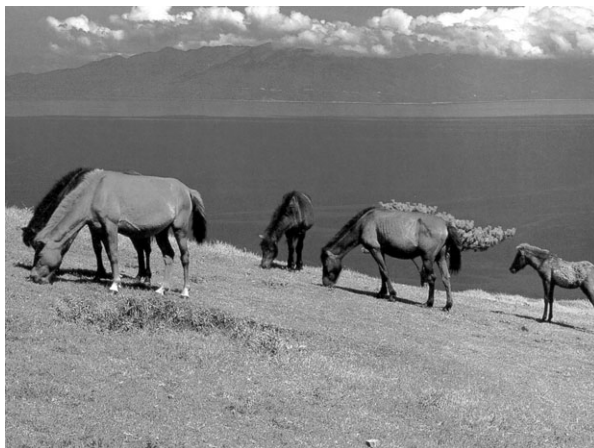


図 3-39 ^{みさきうま} 岬馬およびその繁殖地 〔兵庫県城崎町〕



図 3-40 ^{あきよしだい} 秋吉台のドリーネ畑 〔山口県美東町〕



図 3-41 阿蘇山の大カルデラ地形における牧野景観 〔熊本県阿蘇町〕

4. 「文化的景観」の保護の在り方

本節においては、まず最初に「文化的景観」の特質を抽出し、それに基づき「文化的景観」の保護に関する基本的な考え方を整理する。さらに保護のための制度の在り方について試案を示し、保存管理及び整備活用に当たっての視点を整理することとする。

(1) 特質

「文化的景観」には、以下のア～キに示す7つの特質が認められる。

ア. 伝統的産業及び生活を基盤とする成り立ち

「文化的景観」は、農山漁村地域における伝統的産業及び生活を基盤として、人間が土地と関わり合う中で形成されたものであり、その地域における現代の産業及び生活様式とも深く関わるものである。したがって、「文化的景観」は、ある特定の時代の土地利用の在り方を伝統的に継承しているという点において重要な意義を有するのみならず、それらが現代の産業及び生活様式との調和の下に適切に維持されてきた点においても重要な意義を有する。

イ. 豊かな地域性

「文化的景観」は、農山漁村地域に固有の歴史及び文化を反映し、その地域に独特の風土的特徴を表しているという点において、極めて豊かな地域性を持っている。その地域に生まれ育ち、生活を営む人々にとっては最も身近な存在であり、ふるさと及び心の原風景を象徴するものとなっているものが多い。また、その地域にのみ継承されてきた独特の土地利用形態を示すものでもあることから、当該地域に生きる人々の重要な精神的拠り所となっているものも少なくない。

ウ. 一定の周期に基づく変化

「文化的景観」は、農山漁村地域の伝統的産業及び生活が持つ一定の周期の下に、常に変化していることに重要な特質がある。1日のうちの昼夜による変化をはじめ、生産及び漁労の各段階に応じた季節的な変化など、一定の期間で回帰する周期を持っており、そのような周期に伴って「文化的景観」の様相も多彩に変化している。また、長い時間の経過の中で伝統的産業及び生活様式が変化することにより、「文化的景観」そのものも徐々に進化をとげてきたものが多い。

エ. 多様な構成要素とそれらの有機的な関係

「文化的景観」は有形・無形の多様な要素から成り、それらの諸要素と諸要素間の有機的な関係に重要性を有するものである。例えば千枚田においては、高低差のある畦畔及び石垣などから成る1枚1枚の水田と精巧な給排水系統、水源となるため池及び河川、水源涵養林などの多様な有形の諸要素とともに、それらの諸要素間の有機的な関係に極めて重要な価値を有する。その中には、当該地域に生息する多様な生物群集とそれらが織り成す豊かな生態系も含まれる。さらに、そのような有形の諸要素を運営、維持、管理するために行う各種の行為をはじめ、豊穰なる収穫、漁獲を祈

念し祝う行為など、伝統的産業及び生活の営みを通じて土地に対して繰り返し行われる人間の行為も「文化的景観」を構成する重要な無形の諸要素を成している。

オ．景観構造における多様性

「文化的景観」の構造は、地形及び景観の性質等により極めて多様である。傾斜面に囲まれた谷筋に展開するひとまとまりの千枚田の景観をはじめ、山麓の傾斜面に連続的に展開する畑地の景観、広大な平野又は盆地に水田及び畑地が広がり、それらの間に河川、丘陵、集落などが不連続に展開する複合景観、あるいは海面及び湖水面など視覚の及ぶ範囲に際限がない漁業及び漁場の景観など、景観が展開する空間の規模及び周辺を取り巻く空間との連続性により景観の構造は極めて多様である。

カ．多様な生物種とその生息地の維持

農林水産業を通じて繰り返し行われる人間の土地への関与は生態系に一定程度の攪乱をもたらし、その結果、多様な生物種とその生息地が適度に維持されるなどの重要な効果を持っている。また、水田及び用水路等の水面及び里山等の緑地は生物の生息地であるのみならず、生物が移動する場合の通過路としても極めて重要な役割を果たしている。そのため、「文化的景観」の地域は、場合によっては絶滅が危惧される生物種の貴重な生息地ともなっている。

キ．２種類の「文化的景観」

「文化的景観」には、それ自体で極めて高い価値を有するもの（図4-1における「文化的景観（A）」）と、他の記念物等とその群の周辺に一体として展開することに価値を有するもの（図4-1における「文化的景観（B）」）の２種類がある。両者は連続的に一体の土地を構成し相互に深い関係を有するが、同時に両者を混同することなく適切に評価することが必要である。

（２）保護の考え方

「文化的景観」の保護に当たっては、上記した「文化的景観」の７つの特質のそれぞれに対応して、次に記す７つの項目を十分踏まえることが重要である。

ア．農林水産業と伝統文化との適切な調和

「文化的景観」の適切な維持と保護のためには、農山漁村地域における伝統的産業及び生活の仕組みを適切に継承しつつ、その基盤となる農林水産業を現代の生活水準に合わせて安定的に継続していくことが必要である。そのため、伝統文化の保護の施策と農林水産業の育成及び振興の施策とを適切に調和させるとの視点が不可欠である。また、地域住民との合意形成の下に、伝統的産業及び生活の在り方を尊重しその本質的価値の伝達にも十分配慮しつつ、長期的な展望の下に新たな手法等への転換について検討していくことも必要である。

イ．地域住民をはじめ関係者間の合意形成の必要性

普段から慣れ親しんだ身の回りにある伝統的産業及び生活に関連する景観の中に、その地域の歴史及び文化を見い出し、美しさ及び新たな価値を発見することは極めて文化的な行為であり、このような行為を文化財保護

の観点から捉え直すことが重要である。

「文化的景観」は地域に特有の風土的特徴を示すものであることから、その保護に当たっては地域社会の積極的な保護に対する取組が必要不可欠である。したがって、まず地域住民が「文化的景観」の価値について十分認識し、相互の合意形成を踏まえて保護に向けた不断の努力を継続することが重要であり、これに行政、NPO、NGOが各種の支援的企画を継続的に行うことにより、地域住民が日常的な身の回りの風景の価値を発見する意義を学ぶことができるよう努めることが重要である。

特に行政においては、伝統的産業及び生活を維持、継続しつつ、「文化的景観」を保護していくための具体的な施策を示すとともに、それを地域住民が十分に理解できるよう意識啓発の機会を積極的に設ける努力が不可欠であり、保護の施策を講ずべき「文化的景観」の地域が所在する地方公共団体は、当該地域の保護の活動を支援する施策について積極的に取り組むことが必要である。

ウ. 時間による適切な変容を視野に入れた保護の在り方

「文化的景観」は伝統的産業及び生活が持つ一定の周期に応じて様相が常に変化するものであるとともに、長い時間の経過の中で進化しているものも多いことから、その保護に当たっては、一定の振幅の下に変化又は変容の程度を適切に制御していくとの観点が必要である。

伝統的産業及び生活を取り巻く社会的状況の変化により、「文化的景観」を支える伝統的な仕組みが変容を余儀なくされている場合には、景観の維持のために伝統的な仕組みに代わる新たな手法を検討するなど、弾力的な対応について検討することも必要となる場合がある。そのような場合には、当該伝統的産業及び生活の当事者である地域住民とも十分な意思疎通を行い、望ましい手法の在り方について検討することが求められる。

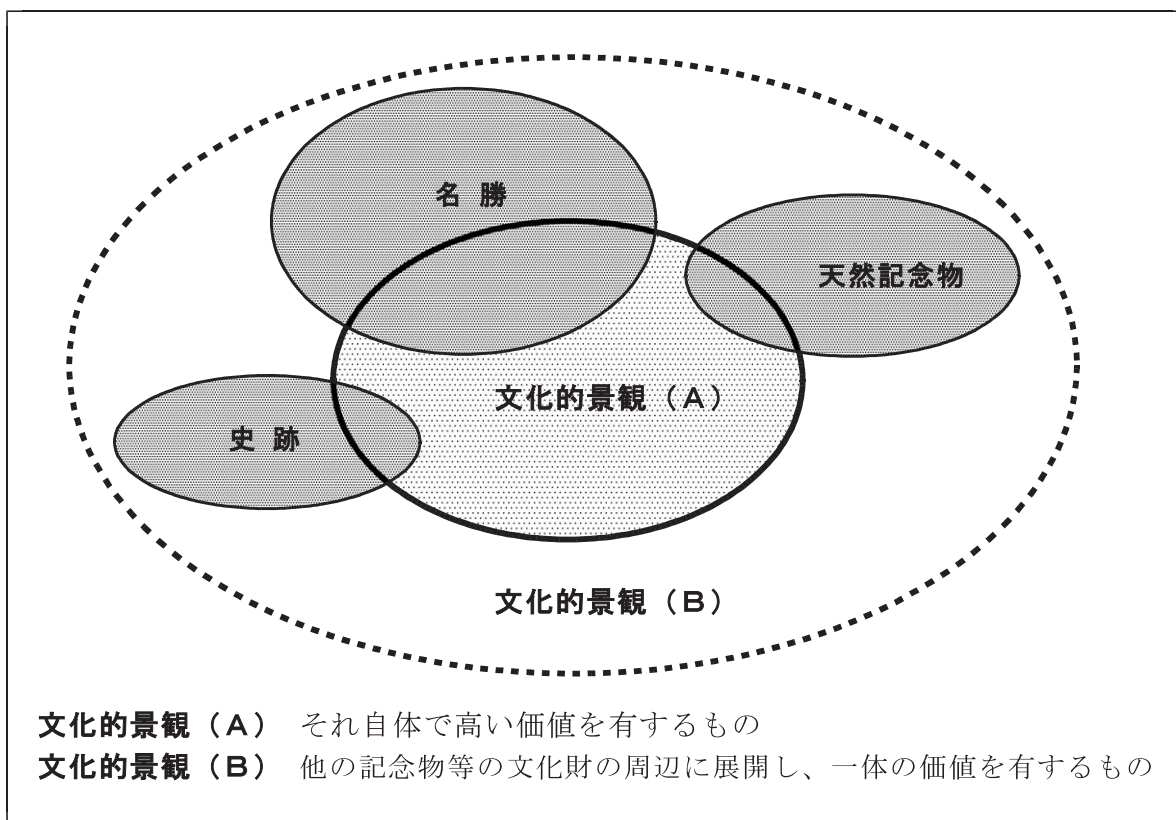
エ. 有形・無形の構成要素とそれらの有機的関係に注目した保護の在り方

「文化的景観」は、個々の有形の構成要素のみならず、当該「文化的景観」の運営、維持、管理に関わる人間の行為、地域内において行われる産業及び居住する住民の生活又は慣習の在り方等の無形の構成要素をも広く含み、それらの構成要素間の有機的な関係及び生息する生物群集が形成する生態系にも重要な価値があることから、それらの体系に注目した総合的な評価と保護の対策が必要である。

オ. 景観構造の多様性に注目した保護の在り方

「文化的景観」の構造の多様性は、その地域に居住する人々が当該景観をどのように知覚し、認識しているのかに反映する。人間により知覚される景観の範囲及び空間規模は、多くの場合、農山漁村生活の中で人間が土地に対して行う農林水産業に関する各種の営みを通じて日常的に望むことの可能な「文化的景観」の範囲として把握できる。したがって、「文化的景観」の景観構造に関する特質とそこに居住する人々が認知している「文化的景観」の範囲及び空間規模を的確に把握し、保護の対象とすべき「文化的景観」の範囲を適切に定めることが重要である。

図 4-1 2種類の「文化的景観」と記念物との空間的關係を示す模式図



カ. 多様な生物種とその生息地の維持に果たす役割に注目した保護の在り方

「文化的景観」は人間と自然とが共存する土地利用の在り方を示すものであるから、その保護に当たっては、その土地に生息する多様な生物群集にも十分配慮することが必要である。農林水産業を通じて行われる人間の行為が多様な生物種とその生息地の維持に果たす役割について十分認識するとともに、生物が生息する上での阻害要因の除去に努めること、適切な間隔の下に水面及び緑地を確保すること、多自然型の水路整備を導入することなど、望ましい生物環境を創造するための技術的手法について検討することが必要である。

キ. 「文化的景観」の総括的な保護の在り方

「文化的景観」の保護制度を検討するに当たっては、それ自体で極めて高い価値を有するもの（図4-1における「文化的景観（A）」）と、他の記念物等とその群の周辺にあって、一体として展開することに価値を有するもの（図4-1における「文化的景観（B）」）の両者を総括的に保護するとの観点が極めて重要である。特に本調査研究においてIVに分類した複合景観（表2-1を参照のこと）については、独特の土地利用が見られ、それ自体として高い価値を有する「文化的景観」の地域のみならず、それらとも深い関係を有する周辺又は相互の間の地域をも含め、総体としての価値の保護に努めていくことが重要である。

(3) 保護の制度

ア. 選択した地域の保護

本調査研究において、重要地域として選択した地域及び2次調査の対象とした地域については、それぞれ以下に示すような方向性の下に保護の方策を検討することが望ましい。

(ア) 重要地域

本調査研究において重要地域として選択した地域をはじめ、高い価値を有する「文化的景観」については、文化財及び文化遺産の保護の観点から国が相応の施策を講じることができるよう制度について検討することが適当である。

(イ) 2次調査の対象とした地域

本調査研究において2次調査の対象とした地域をはじめ、重要地域に次いで高い価値を有する「文化的景観」については、都道府県又は市町村が多様な手法をも視野に入れつつ、文化財及び文化遺産としての保護の措置について検討することが適当である。

イ. 重要地域の保護

「文化的景観」の保護の制度には、「文化的景観」の性質、保護の対象とすべき区域の広がり、保護のために必要とされる規制の在り方、保護の制度を定める主体の違い等により、いくつかの段階を想定することができる。

まず、「3. 現行の保護制度における重要地域の捉え方」においても述べたとおり、高い価値を有する「文化的景観」の中には記念物として評価できるものもあることから、現行の文化財保護法に既存の記念物の指定制度を最大限に活用する方法がある。さらには、従来の伝統的建造物群保存地区の制度のように、地方公共団体が条例等に基づき面的な保護の施策を講じたものについて国が選定を行う新たな制度の創設がある。また、緩やかな規制の下に周知及び顕彰を主たる目的として登録文化財の制度を導入する方法なども考えられる。

しかし、「文化的景観」の多くはその地域に固有の風土的特色を表していることから、我が国にとって歴史上、学術上、芸術上又は観賞上価値の高いものについて強い規制の下に保護を行う従来の記念物の指定制度では対応しきれないものも存在すると考えられる。同時に、「文化的景観」は多数の所有者から成る広大な土地に展開していることが多く、適切な規制の下に支援が可能となるような面的な保護の制度を導入することが最もふさわしい。

したがって、特に重要地域の保護の制度を検討するに当たっては、以下に示すように、現行の記念物の制度の下に保護することが可能なものについて引き続き指定を進めるとともに、地方公共団体が条例等を制定することにより地域住民の合意に基づく面的な保護の施策を講じたものについて国が選定を行い、これに対し国が必要に応じて支援を行う制度を新たに創設できるよう文化財保護法の所要の改正について検討することが必要である。

(ア) 現行の記念物の指定制度における保護の推進

先に述べたように、高い価値を有する「文化的景観」の中には既に史跡名勝天然記念物として指定されているものもあるほか、既存の制度の下に保護を図ることが可能なものもある。したがって、これらについては引き続き指定等の措置を行うことが必要である。当面、以下の記念物について「文化的景観」の視点からも歴史上、学術上、芸術上又は観賞上の価値に関する評価を行い、可能なものについて史跡名勝天然記念物への指定を進めることが適当である。

史跡	歴史上又は学術上の価値の高い地割若しくは土地利用の在り方等を示す遺跡が、現代の農耕地又は林地等と融合することにより、独特の「史跡の景観」を形成しているもの
名勝	古来より名所として親しまれ、芸術作品等によって広く知られてきた農林水産業の風致景観を成す地域で観賞上の価値が高いもの
天然記念物	学術上価値の高い動植物が生息、繁殖、渡来又は自生する土地並びに学術上価値の高い地質鉱物及び特異な自然の現象の生じている土地において農林水産業が営まれ、それらの生業及び産業の在り方が当該天然記念物の存続に物理的又は精神的に深い関係を有するもの

同時に、現行の指定制度における保護の領域と「文化的景観」の領域との関係について整理を行い、場合によっては現行の記念物の指定基準の見直しも含め、既存の制度の下にどこまで「文化的景観」の指定・保護が可能なのかについて引き続き検討を進めることが必要である（図4-1）。

(イ) 新たな保護制度の検討

「文化的景観」には、先述のように7つの特質が見られることから、従来の指定制度では対応しきれないものもあると判断されるため、文化財保護法の下に新たな保護制度の創設について検討することが必要である（図4-1）。

新たな保護制度の創設を検討する場合には、以下の2点について十分考慮することが重要である。

1. 従来の文化財保護制度の主旨と目的を十分尊重するとともに、新しい制度が従来の制度と重複又は競合することのないよう、保護の範囲と区分を明確にすること。
2. 「文化的景観」の保護のためには、地域住民の合意形成とこれに対する地方公共団体の支援的施策が不可欠であることから、従来の指定制度とは異なり、地方公共団体が中心となって景観の変容を適切に制御し、これに対して国が必要に応じて支援を行えるような手法を盛り込むこと。

新たな保護制度の案として、例えば文化財保護法に基づく伝統的建造物群保存地区の制度のように、まず第1に地方公共団体が条例の下に許可制に基づく保護の施策を講じ、第2に当該地方公共団体の申出に基づいて国が「重要文化的景観保存地区」（仮称）に選定するなど、2段階から成る保護の制度が考えられる〈図4-2、4-3〉。

その場合、国が「重要文化的景観保存地区」（仮称）に選定し得るものについては、当該地区の内外を対象として地方公共団体が詳細調査を実施し、保存管理及び整備活用の計画を策定することが必要であることから、これらの施策について国が必要に応じて支援を行えるよう制度の在り方を検討することが必要である。

同時に、国が「重要文化的景観保存地区」（仮称）に選定した区域において、地方公共団体が「文化的景観」を構成する枢要の諸要素の定期的な修理事業をはじめ保存・活用の各種施策を行う場合には、国が必要に応じて支援を行えるよう制度の在り方を検討することが必要である。

（ウ）周辺環境の保護

高い価値を有する「文化的景観」を確実に保護するためには、例えばその周辺に展開する農林水産業の地域等を対象として、上記した地方公共団体が定める条例により、届出制に基づく緩やかな規制の下に一体的な保全の対策を講じるなどの措置が必要である〈図4-1、4-2〉。

図 4-2 「文化的景観」の保護の在り方

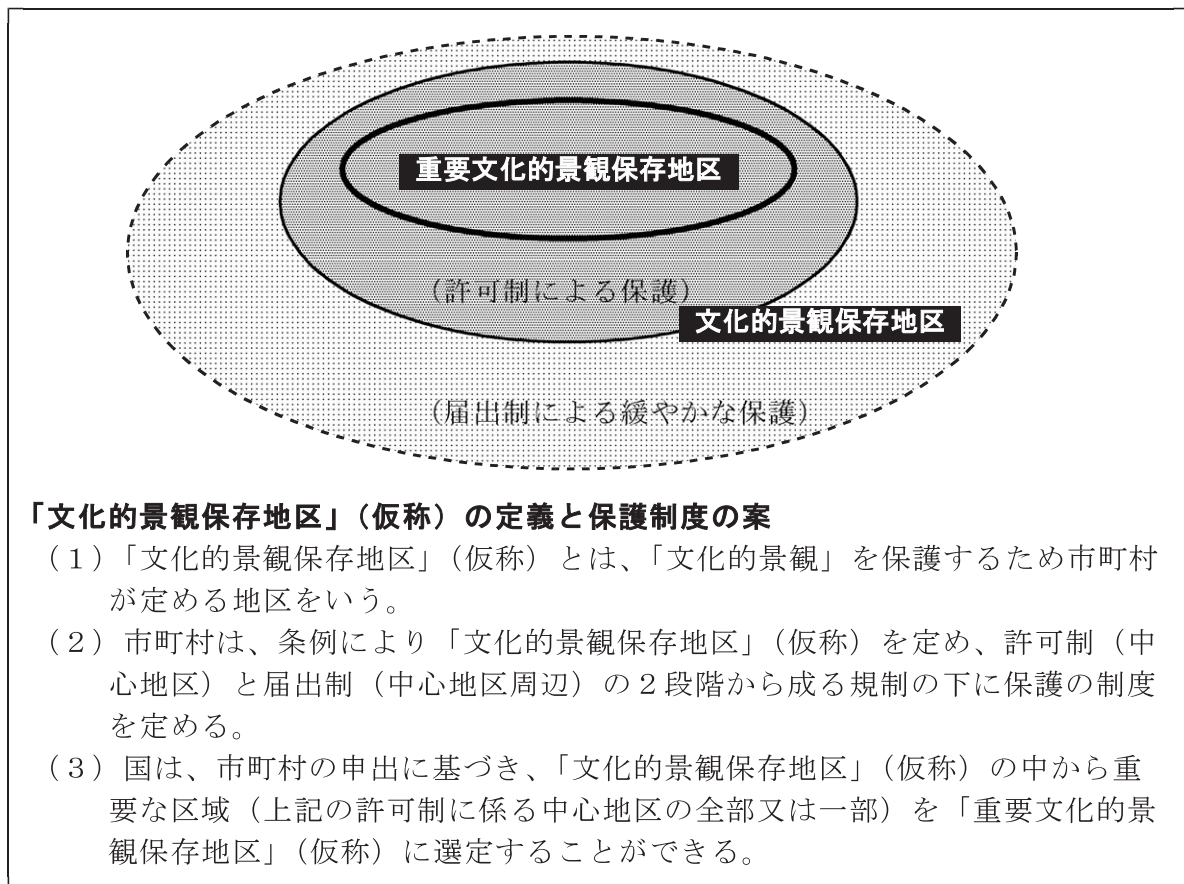


図 4-3 先行する関連の諸制度

1. 文化財保護法に基づく伝統的建造物群保存地区の考え方

(1) 伝統的建造物群の定義とその特徴

伝統的建造物群

周囲の環境と一体をなして歴史的風致を形成している伝統的な建造物群で価値の高いもの（文化財保護法第2条第1項5号）

伝統的建造物群保存地区

伝統的建造物群及びこれと一体をなしてその価値を形成している環境を保存するため、（中略）市町村が定める地区（文化財保護法第83条の2）

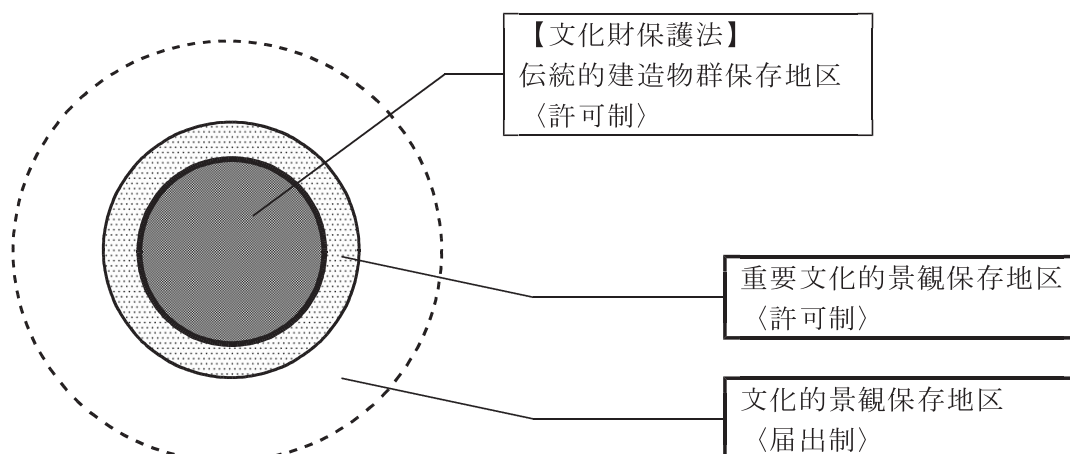
伝統的建造物群保存地区の中には、「伝統的建造物群」（建築物・工作物）及びそれらと一体的にその価値を形成している環境として、樹木、池、庭園、集落の周辺に展開する農耕地をはじめとする自然物及び土地などの「環境物件」が含まれている。

伝統的建造物群保存地区は、市町村の都市計画又は市町村の保存条例に基づき決定される。国は市町村が決定した伝統的建造物群保存地区について、申出を受けて我が国にとって価値が高いものを重要伝統的建造物群保存地区に選定することができる。このことを踏まえ、国は市町村が行う保存事業に指導・助言を行い、補助できる。

(2) 伝統的建造物群保存地区と「文化的景観」との関係

伝統的建造物群保存地区の中には、集落の周辺に展開する農耕地等の環境物件を含み、「文化的景観」の構成要素と重複する場合がある。したがって、「重要文化的景観保存地区」（仮称）は重要伝統的建造物群保存地区を含む関係にあるといえる。場合によっては、両地区が一致することもあり得る。

しかし、伝統的建造物群保存地区の制度は、それ自体として重要な集落及びその環境物件を保護の対象としており、古都保存法に基づく「歴史的風土」のように、伝統的建造物群以外の他の文化財の周辺に展開し、それらとの関連性において高い一体的価値を有する「文化的景観」の保護を目的とするものではない。



2. 古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法（古都保存法）に基づく歴史的風土保存の考え方

（１）「歴史的風土」の定義とその特徴

わが国の歴史上意義を有する建造物、遺跡等が周囲の自然的環境と一体をなして古都における伝統と文化を具現し、及び形成している土地の状況（古都保存法第2条第2項）

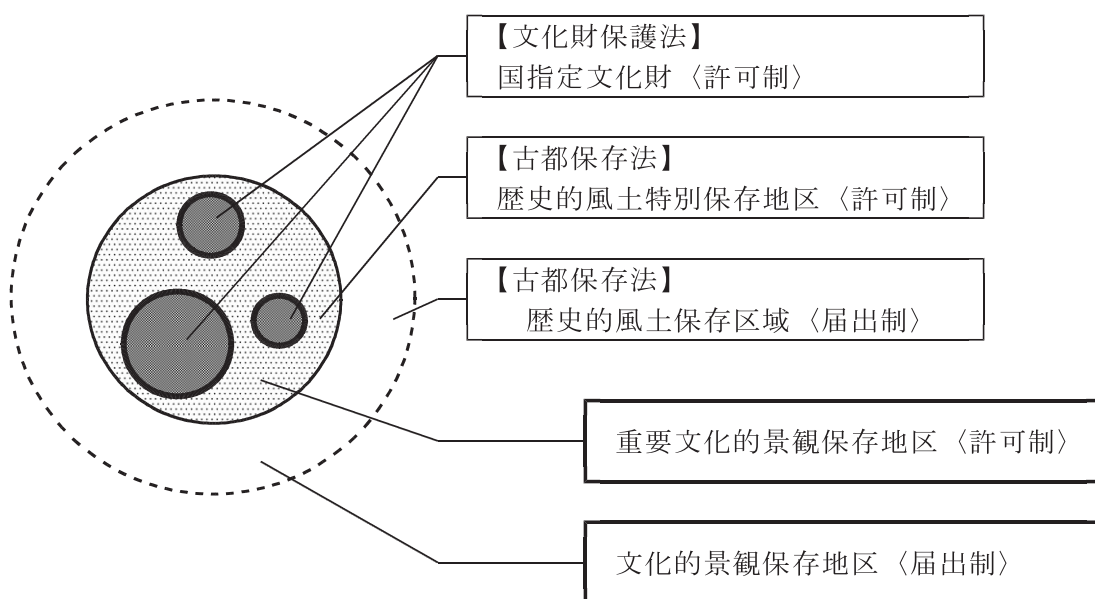
「歴史的風土」は国指定文化財との関連性において重要な意義を有する風土であり、国指定文化財の保存を確実にするための緩衝地帯としての機能を持つ。

（２）歴史的風土保存区域と「文化的景観」との関係

「文化的景観」の中には、他の文化財の周辺に展開し、それらとの関連性において高い一体的価値を有するものが存在する（図4-1に示す「文化的景観（B）」）。この点において、「文化的景観」は歴史的風土と共通する側面を持つ。

他方、「文化的景観」の中には、それ自体として顕著な風土的特色を有し、価値の高いものが存在する（図4-1に示す「文化的景観（A）」）。この種の「文化的景観」は、他の文化財と同等の優秀な価値を有するものである。

以上を図示すると、次のようになる。



ウ. 2次調査の対象とした地域の保護

2次調査の対象とした地域については、重要地域に次ぐ高い価値を有する地域であることから、その中核的な部分を都道府県又は市町村の文化財及び文化遺産に指定するとともに、農山漁村振興の各種施策とも連携しつつ多様な保全の対策を講じていくことが望ましい。また、万全な保護が整ったものを対象として、重要地域としての再評価を行うことも必要である。

(4) 保存管理及び整備活用の方

ア. 保存管理計画及び整備活用計画の策定

2-(5)においても述べたように、「文化的景観」の地域に対し保護の施策を講じる場合には、本調査研究において示した枠組みを参考として詳細調査を実施し、その成果に基づき保護の対象とすべき範囲を明確に定めることが必要である。

次に、当該「文化的景観」の性質と構成要素、構成要素間の有機的關係等を踏まえ、それらの最も望ましい保存管理及び整備活用の在り方について示すことが必要となる。

まず第1に、保護の施策を講ずべき区域を対象として保存管理の基本方針を示し、これに基づいて当該「文化的景観」の区域を構成する諸要素ごとに保存管理の方法を具体化し、さらには適切な保存管理に必要とされる行為規制の在り方について定めることが必要である。第2に、「文化的景観」の価値を認識するための取組、地域おこしの核としての活用、人材の育成、保護の主体と行政との役割分担など、イ以下に示すような各事項に沿って整備活用に関する基本方針を示し、当該「文化的景観」の区域の望ましい将来像と、その実現の方法等について明らかにすることが求められる。

このような保存管理計画及び整備活用計画を適切に策定することにより、地域住民をはじめとする関係者間において、当該「文化的景観」の区域の保護について合意を形成することが可能となる。

イ. 「文化的景観」の価値を日々の生活の中で認識する取組

日常生活において、身の回りの風景の中に美しさ及び大切さを発見することは極めて文化的な行為である。普段から慣れ親しんだ風景及び久しぶりに訪れたふるさとの風景の中に自らの拠り所と生きる喜びを発見し、明日の生活への活力を得ることも多い。地域住民が身の回りの伝統的産業及び生活に関連する「文化的景観」の中に、その地域に固有の文化的価値を発見し、それらを次世代へと適切に継承していくことの大切さを認識することは、わが町・ふるさとを誇りに思い、自らの生活を文化的に向上させていく上で極めて重要な意味を持つ。特に、農林水産業への従事者が「文化的景観」の価値を知り、日常的な生業を通じて「文化的景観」の保護に果たす自らの役割を十分認識することが極めて重要である。したがって、地域住民がふるさとの伝統的産業及び生活に根ざして形成された「文化的景観」の真髄に触れ、それらの本質的な価値を学ぶことができるよう、地方公共団体は地域住民のみならず関係諸機関とも連携して、創意のある多彩な取組を積極的に進めることが必要である。そのような取組においては、伝統的に継承されてきた「文化的景観」の地域が特定の時代における土地利用の見本として重要な意義を有することをはじめ、自然環境との調和の下に生活を豊かにしていく上で重要な現代的意味を持つことなどについて、とりわけ若い世代が十分理解できるよう努めることが必要である。

また、「文化的景観」を次世代へと適切に伝達していくためには、景観の維持に関わる技術を適切に継承していくことも極めて重要である。地域住

民が農林水産業に関わる伝統的な技術及び手法の意義について再認識できる場を設けるとともに、それらの担い手を育成していく施策が必要である。

ウ. 地域振興・地域おこしの核としての整備活用

「文化的景観」には、地域の歴史・文化と産業・生活の在り方を語る独特のものが多く含まれていることから、わが町・ふるさとの「顔」となる資産として整備活用していくことが重要である。

特に急傾斜地に展開する棚田及び段々畑などについては、その造営に当たり多大な労苦を伴ったであろうことが想定され、その地域が歴史的にたどった経済的状況を示す遺産でもある。住民の中には、それらを地域の「顔」として積極的に保護することに抵抗を感じる人々もいる可能性がある。したがって、そのような労力を払って築き上げられてきた「文化的景観」が現代において持つ価値とそれらを積極的に保護していくことの意味について、地域住民が十分理解し誇りに思えるような整備と活用の在り方を検討することが必要である。

各地の整備された棚田で行われているいわゆる「オーナー制度」は、地方公共団体が主体となって都市住民が地域住民の協力の下に棚田を借り受けて耕作体験を行うもので、棚田が農村と都市との交流の場として積極的に活用されている好例である。また、観光農園や貸農園などを経営することにより積極的に観光客を誘致しようと試みている事例、インターネットを活用して「文化的景観」の地域の宣伝を行い、これに関連して生產品の直接販売を試みている事例などがある。このような取組を進めるに当たっては、「文化的景観」の地域を観光の資源として位置付け、保存との調和に配慮しつつ積極的な活用の在り方を検討することが必要である（図4-4）。

また、各地で進められている地域振興・地域おこしに関する様々な取組においては、地域外から見学、体験、参加のために訪問する人々に対し、地域住民、地方公共団体、関係機関等が協力してきめ細かに対応することにより、地域内外の文化的交流が促進されるよう相互に努力することが必要である（図4-5）。



図 4-4 「文化的景観」を知る講習会等の事例
えんじゅ はま
煙樹ヶ浜のマツの植樹 [和歌山県美浜町]



図 4-5 観光に生かされる「文化的景観」の事例
井田の地曳網 [三重県紀宝町]



図 4-6 参加型の保存・活用の取組
よこね田んぼ [長野県飯田市]



図 4-7 参加型の保存・活用の取組
名勝姨捨（田毎の月） [長野県更埴市]

エ. 保護の主体

「文化的景観」はその地域に固有の歴史及び文化と関わり、独特の風土的特色を有するという特徴があるため、その保護の主体となるのは地域に居住し当該「文化的景観」の維持に直接関わる住民である。したがって、ウにおいて紹介した取組をはじめ、地域に居住する住民の一人一人が直接関わることをできるよう参加型の保存・活用を推進することが必要である（図4-6、4-7）。また、当該「文化的景観」の保護に理解を示し、地域振興・地域おこしに関する様々な活動を行う各種のNPO、NGO等の民間団体にも積極的な関わりを求め、「文化的景観」の保護の担い手となる主体の裾野を広げていくことが重要である。同時に、地方公共団体及び国においては、このための支援的行政を一層推進することが必要である。

オ. 人材の育成

地域において、「文化的景観」の保護に関して核となる人材を育成することが求められる。地域住民により組織される自治会、協同組合などの各種機関、NPO、NGOなど、「文化的景観」の保護の担い手となる各組織・機関において、保護のための諸活動を主導する人材の育成が重要な課題である。

「文化的景観」の形成の基盤を成す農林水産業の担い手が、地域外から参加しやすい環境づくりに努めることも必要である。特に、長らく都会に出て居住し、ふるさとを求めて地方へ移り住んだ人々の中には、日常生活において「文化的景観」の地域に何らかの形で関わることを希望し、場合によっては農林水産業を中心とする伝統的産業への就業を希望するなどの傾向も見られることから、地域においてこうした人々の受入れの体制を整備し、次世代における「文化的景観」の保護の担い手として確実に育成していくことも重要である。

また、「オーナー制度」等の体験型及び参加型の保存・活用の施策を進めるためには、研修等を行う施設の設置及びボランティア活動等の取組を円滑に進めるための制度の整備も必要である。

カ. 施策の役割分担

「文化的景観」の整備活用を適切に進めるためには、まず「文化的景観」の地域に居住する住民の一人一人がその保護に向け主体的に関わることが重要であるが、地域の自治会及び協同組合等を通じて地域住民が集団的に関わることも、また、NPO及びNGO等がそれぞれの目的や趣旨に応じて協力を行い、これらの諸活動に対し地方公共団体及び関係省庁が積極的に支援していくことが重要である。特に「文化的景観」の適切な保存・活用を進める上で地方公共団体が果たす役割は大きく、これに国が適切に支援していくことが必要である。その場合、「文化的景観」が有する文化的価値の保存と活用に関する観点から地方公共団体の文化財担当部局及び文化庁が、文化的価値の保存・活用を踏まえた農山漁村地域及び農林水産業の振興の観点から地方公共団体の農林水産行政担当部局及び農林水産省が、それぞれ適切な役割分担の下に相互に連携して臨むことが不可欠である。こうした連携の下に、「文化的景観」の諸要素を保存修理する場合の支援をはじめ、中山間地域等直接支払制度の充実、さらに広く税制に関する優遇措置など、「文化的景観」の維持に効果があると判断される施策について検討していくことも必要である。

5. 今後の課題

本調査研究においては、特に記念物の観点から農林水産業という第1次産業に関連する文化的景観のみを対象として調査を行い、将来的に何らかの保護の施策を講ずべき地域の選択を行うとともに、それらの保護に関する基本的な考え方及び具体的な手法等を示した。産業に関連する文化財及び文化遺産について景観という視点から評価を行い、その保護の在り方を示した調査研究はこれまでになく、本調査研究の意義は極めて大きいといえる。今後、このような調査研究をさらに発展させ、「文化的景観」を広く含む文化財及び文化遺産の保護を確実に進めていくためには、以下に記す視点を十分踏まえることが重要である。

(1) 複合景観における周辺地域をも含めた一体的保護の必要性

「文化的景観」は、多種多様な機能を有する諸要素の組合せとそれらの有機的な関係に重要な意義を有する。独特の土地利用の形態を表し、それ自体で高い価値を有する個々の「文化的景観」の地域（図4-1における「文化的景観（A）」）のみならず、そのような核となる「文化的景観」の地域の周辺又は相互の間にあつて深い関係を有する「文化的景観」（図4-1における「文化的景観（B）」）の地域を含め、総体として価値の保護を行うことが最も望ましい。

本調査研究においては、Ⅳの分野に属するものとして複合景観を取り上げたが、それらは独特の土地利用の形態を表す価値の高い「文化的景観」の区域が一定の地域内に群として展開するものであり、複合景観というよりも個々の「文化的景観」の区域が寄り集まった集合体としての性質が強いものである。これ

らを単なる集合体としてではなく、複合景観が持つ本来の意味において総体として保護していくためには、集合する個々の区域の周辺又は相互の間にあって深い関係を有する「文化的景観」の区域（図4-1における「文化的景観（B）」）をも含め、広域にわたり面的に保護することが不可欠である。

本調査研究においては、上記の面的保護手法の一つとして、地方公共団体が文化財及び文化遺産の保護の観点から条例を制定し、許可制に基づく規制の下に高い価値を有する個々の「文化的景観」の区域の保護を行い、届出制などの緩やかな規制の下にその周辺又は相互の間にあって深い関係を有する区域の保護を行うことを提案した。このような２段階から成る規制の組合せに基づき、高い価値を有する個々の「文化的景観」の区域とその周辺区域を一体的に保護するとともに、個々の「文化的景観」の性質に応じて保護の範囲を適切に拡大することにより、集合体としての保護からさらには広域にわたる面としての保護へと発展させることが可能となる。

しかし、複合景観の場合には価値の高い一群の区域が複数の市町村のみならず都道府県を越えて分布し、それらの周辺又は相互の間にあって深い関係を有する「文化的景観」の区域が極めて広大な範囲に及ぶことも多い。そのような場合には、文化財及び文化遺産の観点から出発するだけでは、複合景観を総体として保護する上で限界がある。

以上のような点に鑑み、まず最初に、特に高い価値を有する「文化的景観」の区域については、地方公共団体の文化財担当部局及び文化庁が中心となって文化財及び文化遺産の保護の観点から確実に保護を進め、その周辺又は相互の間にあって深い関係を有する「文化的景観」の区域については、本調査報告に示した「文化的景観」の保護に関する考え方を十分踏まえ、関連部局が連携してできる限り面的な保護に臨むことが重要である。さらに、その範囲が複数の市町村のみならず都道府県を越えて極めて広大な範囲に及ぶ場合には、その全域を適切に保護するために、文化庁が中心となり、文化財保護法とは異なる新たな保護の枠組みを設けることについて検討することにも必要である。

（２）保護の施策を講ずべき地域の一覧表の充実と記念物以外の観点からの検討の必要性

本調査研究において示した重要地域をはじめとする何らかの保護の施策を講ずべき地域は、現時点における選択に基づくものであり、固定的に捉えてはならない。これ以外にも、今後の調査研究において高い価値を有すると判断されたものについては、順次追加するなど一覧表を充実させていく努力が必要である。

特に今回の調査においては、高い価値を持つにも拘わらず、地域における合意形成が得られないなど諸般の事由により重要地域としての選択を見送ったものもある。このようなものについては、引き続き経過観察を行い、重要地域として一覧表に加えていくことができるよう関係者間において合意形成に努めることが望ましい。

また、「文化的景観」は広く農林水産業及び農山漁村生活の全般に関わる多様な文化遺産であることから、記念物の観点のみならず民俗文化財や伝統的建

造物群の観点からも包括的な評価が求められる。したがって、今後ともこれらの分野をも視野に入れつつ、保護の制度の在り方等について検討を継続することが求められる。

（３）鉱工業及び都市の産業に関連する文化的景観の調査研究の必要性

今回の調査研究においては、農山漁村集落の資材等の調達源として石材等の採石場の景観、近世の鉱山遺跡に関連して現在の農耕地等の土地利用と一体的に遺存する鉱物の採掘跡の景観などを部分的に調査対象として含めることとしたが、この他にも、農林水産業のみならず鉱工業並びに都市の産業及び生活に関連して、一連の土地利用の在り方に高い価値を有する文化的景観も多く存在するものと想定される。したがって、今後の追加調査等によって、このような分野における重要地域の選択及び追加を行うことが必要である〈図5-1、5-2〉。特に鉱工業並びに都市の産業及び生活に関連する文化的景観の保護の在り方については、関係省庁及び地方公共団体の関係部局などとの連携の下に検討を進めることが適切である。

（４）情報共有化のための施策の必要性

本調査研究で示した「文化的景観」の保護を目的とする各種の施策は、すでに全国各地において進められつつある。そのような様々な取組をさらに独創性



図 5-1 鉱工業に関連する文化的景観の事例
近世の金山開発による痕跡が現地形に遺る史跡
佐渡金山遺跡 [新潟県相川町]の「道遊の割戸」



図 5-2 都市の産業に関連する文化的景観の事例
大阪の都市景観を代表し、大阪市の名勝
に指定されているイチヨウ並木
[大阪府大阪市]

のあるものへと発展させていくためには、保護の主体となる地域住民のみならず、NPO、NGO等の関連諸団体、地方公共団体及び国などの行政機関等の間において、各地の「文化的景観」の保護に関する実践の成果及び情報を共有するとともに、「文化的景観」の保護に関する諸問題について検討を行い、相互の緊密な意思疎通を行えるような場が是非とも必要である。実践の成果及び情報の共有には、インターネットのホームページ及び情報誌等を最大限に活用する方法をはじめ、地方公共団体が中心となってパンフレット及び広報誌等を発行する方法なども考えられる。地方公共団体が地域住民、関係諸機関、専門家、研究者等に参加を求め、保護に関する諸問題について議論を行う検討委員会を設置することのほか、保護の担い手である諸機関及び行政が講習会等を開催し、相互の意見交換及び意識啓発に努めることなども重要である。

また、棚田学会をはじめ、農林水産学に関する学会、景観学に関する学会、都市及び農村の計画学に関する学会などから、広い視野の下に「文化的景観」を対象とする研究を行うとともに、各学会を超えた学際的な領域において「文化的景観」に関する学術的研究及びそれらの保護に関する研究を進めていくことが期待される。

まとめ

「文化的景観」は日本の農林水産業という基幹産業を基盤として形成された身近な存在であり、極めて地域色が豊かで日本人のふるさと及び心の原風景にも通じる文化遺産である。産業構造及び生活様式が大きく変化するのに伴い身の回りの風景も大きな変化をとげ、「文化的景観」の地域の中には今や消滅の危機に瀕しているものもある。その中には、我々と我々の先人たちが長い時間の中で自然と向き合う中で築き上げてきた、極めて高い価値を有するものも少なくない。現代に生きる我々は、そのような文化遺産の価値を次世代へと確実に伝達していく義務を負っており、このことについて今一度再認識する必要がある。

地方公共団体及び国においては、この報告に示した「文化的景観」を取り巻く国内外の諸情勢を十分踏まえるとともに、本調査研究において選択した重要地域をはじめ高い価値を有する「文化的景観」の地域について、保護のために必要とされる各種の施策を確実に実施していけるよう努めることが必要である。

また、「文化的景観」の地域において農林水産業を営み生活している住民の一人一人をはじめ、「文化的景観」の保護に関わる民間団体等の関係機関及び関係者が相互に連携して協力を図りつつ、「文化的景観」の保護のための諸活動に積極的に参加されることを期待したい。

本検討委員会は、国民、行政、その他の関係機関が「文化的景観」の保護における相互の役割を認識し、連携を深めつつ、本報告に示した文化財及び文化遺産としての「文化的景観」の保護に関する基本的な方向性をさらに具体的なものへと発展させていくことができるよう切に希望する。

農林水産業に関連する文化的景観の保存・整備・活用に関する検討委員会

(委員名簿)

赤坂 信	千葉大学助教授	風景計画学
石塚 克彦	劇団ふるさときゃらばん代表	劇作家・演出家
小野 佐和子	千葉大学教授	庭園デザイン学
金田 章裕	京都大学大学院教授	歴史地理学
下村 彰男	東京大学大学院教授	森林風景計画学
千賀 裕太郎	東京農工大学教授	農業土木学
中越 信和	広島大学教授	植物生態学
中島 峰広	早稲田大学教授	農業地理学
服部 英雄	九州大学大学院教授	中世史
春山 成子	東京大学大学院助教授	農業土木学
樋口 忠彦	京都大学大学院教授	景観工学
藤本 強	國學院大学教授	考古学
吉田 博宣	日本大学大学院教授	造園学
米山 淳一	財団法人日本ナショナルトラスト事業課長	遺産保存

なお、第1回検討委員会の開催に当たり石井 進氏（鶴見大学客員教授）が委員長に選出されたが、平成13年10月24日に亡くなられたため、第3回検討委員会の開催に当たり藤本 強氏（國學院大学教授）が選出された。また、会議には農林水産省農村振興局整備部農村整備課総合整備推進室がオブザーバーとして出席した。

(開催実績)

- 第1回 平成12年10月25日 於、文化庁特別会議室
議題：1. 調査研究の目的と期間について
2. 調査の方法と内容について
3. 「文化的景観」を取り巻く総括的な課題について
- 第2回 平成13年 4月13日 於、霞ヶ関東京會舘エメラルドルーム
議題：1. 1次調査の結果について
2. 2次調査の項目及び候補等について
- 第3回 平成14年 5月30日 於、三田共用会議所第3特別会議室
議題：1. 2次調査の結果について
2. 重要地域の候補等について
3. これまでの議論の整理について
4. 詳細調査の試験的实施について
- 第4回 平成15年 4月 9日 於、三田共用会議所第2特別会議室
議題：1. 詳細調査の試験的实施の結果について
2. 報告書の作成について
- 第5回 平成15年 6月12日 於、三田共用会議所第3特別会議室
議題： 報告書の完成

委員会における検討の概要

※検討委員会の議論の流れと主な意見等を以下に示す。

(●は委員による意見等、○は事務局・オブザーバーによる説明等の主なもの)

第1回 平成12年10月25日(水)

1. 委員による議論

事務局からの趣旨及び基礎的な資料の説明等の後、委員による以下の議論が行われた。

(1) 名勝「姨捨(田毎の月)」で実施されている方策等についての確認

(2) 本委員会が検討する対象について

●水田を支える水路・水源等、景観を形成している複合的環境についても含めるべきである。

(3) 生態系保全の立場からの農林水産業に関連する文化的景観保全の観点について

●調査では「ストック」と「フロー」の調和等を確認するべきである。

●水田以外にも、牧畜が行われることによって支えられている二次的自然を有する草原の風景、林業景観、内海面の漁業景観等も積極的に対象として欲しい。

●風景を構成する生態系が維持出来ていれば、必ずしも伝統的な作業方法のみに、その保全の方法を頼る必要はない。

(4) 農業振興の観点、あるいは農林水産省との連携について

●農業の維持と同時に風景を保存していく具体的な方法の検討と、それらを地元が受け入れるための環境づくりの検討という観点から、①経済的支援、②保存することによる利点の周知など、保存に際しては計画論的な観点が必要である。

●①産業の維持、②景観を支えている仕組みの維持、③景観の形態の維持、などいくつかの段階とその役割分担を検討するべきである。

(5) 文化的景観の枠組みについて

●既にある「記念物」の制度とは別に、一定の広がりのある面的区域として理解しやすい新たな指定の方法を打ち立てていくべきである。

●①ある程度、施業形態の変更も認める方向で、②しかし、出来るだけ「伝統的な手法で」行う方向で、また、併せて③文化財の指定を受けた場合の農林水産省による優遇措置も考慮するべきである。

(6) 棚田の保全とその経済的・技術的な支援について

●保存の基礎資料作成のための詳細調査等への助成等を検討するべきである。

●保存対象となる棚田等について、これを支える農家を丸ごと建設・維持する助成等を検討するべきである。

●現在の「棚田オーナー制度」を支える現地の高齢化に対する対策等を早急に検討するべきである。

●棚田等、特殊な農業形態に利用できる農業機械等の開発を検討するべきである。

(7) 時間的要素を考慮した文化財保存について

●景観は変化していく性質を内包しているので、時間的要素についても検討するべきである。

(8) 文化的景観保全を支える仕組みについて

●支える人の評価を積極的に行っていくべきである。

●棚田等の「特殊景」ばかりでなく、原風景としての「凡景」の発見過程も文化として評価していくべきである。

●民間資本が入って来やすい文化財保存の制度づくりを進めるべきである。

●地元の熱意を引き出す工夫が重要である。

●外からの担い手も重視し、研修等によって育てていくことも必要である。

●保存対象となる景観の地域全体を含んだ計画論的な視点が重要であり、指定に際しても「計画」を必須事項とするべきである。

- 地域独自の広域的な観光の観点も重要である。
- 地元の人々に対象となる風景自体を認識させる工夫とこれを繰り返し伝える仕組みが必要である。

2. 事務局及びオブザーバーから

(1) 文化的景観と文化財保護体系の見直しに関して〔事務局〕

- 「文化振興マスタープラン」においても既存の保護体系の見直しを考えているが、緊急な保存が必要なものは既存の枠組みの中で取り組んでいく必要があると考えている。

(2) 農村対策が平成13年度から農林水産省に一元化されることに関して〔農林水産省〕

- 平成13年度から農村対策が農林水産省に一元化されるに当たって、農村の積極的評価及び他省庁との連携について予算の確保に努力している。

第2回 平成13年 4月13日（金）

1. 1次調査の成果について

(1) 都道府県ごとの2次調査候補数の疎密、補足する調査対象などについて

- 資料不足の都道府県については追加資料の到着を待って選択するべきである。
- 地域的な不均衡のある点にも配慮し、2次調査候補を選択するべきである。

(2) 調査の目的等について

- 事務局の最終的な目的としては文化財指定等が視野にある。しかし、顕著なものをのみ残していけばよいのかなど、絞り込みの方法については、現在まだ検討中であり、保存・評価の最終的な方向については今後検討していく必要がある。
- 個別の対象によって保存の方法などそれぞれ異なると考えられるので、現段階では保存方策等について限定せずに調査を進めていきたい。

(3) 選択の基準、範囲等について

- 2次調査候補選択の基準について説明を求める。
- 現段階では、写真を主な判断材料としており、対象範囲については2次調査以降に検討していく事項と考えている。

2. 2次調査の方法・内容等について

(1) 2次調査の項目、候補等について

※委員から、2次調査に加えるべき項目として以下のような意見があった。

- 減少状況（生物学でいうところの「危険度」のようなもの）
- 視点場の状況
- 空中写真（調査票に含めず附属資料として）
- 調査票（案）では景観の「構造」の話が中心となっているが、「機能」についても重要である。
- 今後の保護計画のみならず、既に顕在化している住民の保護意識及び未だ潜在化している保護意識など、優先順位を付けるのに役立つ項目を加えておくべきである。また、指定した際に維持できそうなところを選択できる項目を作っておくべきである。
- 「維持管理状況」という項目では、住民の意志について記載を図っていくべきである。
 - できれば多くの項目を調査したいが、2次調査の段階では調査数も多いので、できる範囲でやっていきたい。空中写真などは、詳細調査の方で収集するべきと考えている。
- 「維持管理」の中には「改修」というものもある。資料9の写真に見られるようにコンクリートに改修され歴史的・伝統的な部分が現在の暮らしに合わせて変わっていても着目している部分が継続している場合には、文化的景観が維持されているものと見なすということか。
 - 生業が継続して営まれていなければ価値を保存することも不可能となる。内容・手法等により代替措置も許容範囲であり、安全上、構造の変更等もあり得ると考える。
- 住民の取組み、及び行政側の取組みの項目を加えるべきである。
- ビニールハウスの景観など、現代の施設で壮大な景観を形成しているものは評価の対象となるのかについて検討するべきである。
- 伝統的・日常的な景観の意義を住民に訴え、価値認識を挙げていく必要がある。選択した文化的景観をまとめて本として市販することなども含め、広報活動についても重視して欲しい。

(2) 農林水産省との連携について

- 都道府県内の農林水産業の振興に関わる部局に協力を要請するなどして、もっと連携を図るべきである。農林水産省はどのように関与していくのか。
- 【農林水産省】 農村振興という観点からも考えていかなければならないので、できる限り協力していきたい。
- 【農林水産省】 営農が継続することで景観が維持されているとの観点から、棚田百選についても、健全な営農への取組みがなされていること、地域が保全活動に積極的に取り組んでいることなどが選択の重要な視点となっている。
- 【農林水産省】 農村振興の観点からも地域の資源を重視しながら、地域づくりを進める必要があると考えており、農林水産業に関連する文化的景観が地域の資源として評価されて地域の活性化に繋がることを期待している。
- 農地と森林ではその扱いがかなり違う。森林は面積も広大で所有者も多様である場合が多い。国有林を対象としつつ、林野庁と協議を進めていった方が指定ということを考えるとやりやすいと思う。

(3) 機能・評価の移行しているものの取扱い、保護対象の範囲、保護方策等について

- 雪形など、もともと農事曆的な意味を持っていたものが現在は薄れているものについて、住民にとって別の意味で重要なものとなっているものをどう扱うかを検討するべきである。
- 物件によっては町域レベルでの取組みを必要とするものがあるので、個別の物件を対象とするのではなく、もっと広い面積を対象としていくことを検討するべきである。
- いまは現行法の枠組みで考えるにしても、将来的には新たな保護制度を整備していくことについて検討することが必要と考えられる。
- 最終的な詳細調査・重要地域の対象として100件を想定しているのは、「文化的景観百選」のようなかたちで発信していくことを考えているのか。

※以下、事務局の考え方についての回答

- 今後、広域に及ぶものなどをひとつにまとめる等の作業を行う。
- 条例などの仕組みにとらわれることなく、実際の取組みについても記載されるように調査票の改良に努力する。
- 他省庁との連携・協力をより一層図っていく。
- 現行制度の考え方の調整、将来の展望及び整備・活用に関する指摘も含め、重要地域等の一覧表とともに報告書としてとりまとめ、積極的に公表を図っていきたい。

(4) その他

- 「田園空間整備事業」に選定されているものについては、農林水産省から推薦するようにすれば、地元にとって、農林水産省と文化庁の政策が連動するので扱いやすい。
- 【農林水産省】 現在40ヶ所あるが、文化庁が指定しようと考えている文化財的なものと必ずしも観点が一致するものばかりではないので、こちらからは情報提供を積極的に行い、文化的な価値付けについては、ぜひ本調査研究で選択して欲しい。文化的な価値付けがしっかりできるものについては農林水産省としても選択を望むところである。
- 百選というわけではなく、標準となる100ヶ所の選択という捉え方をするならば、これに選ばれなかったところが負の評価が与えられないように注意しておく必要がある。
- 調査した自治体の反応はどのようなものであったか。2次調査の際に受け入れ側の希望・可能性等を直接聞いた方が、後の選定・保存に関わる作業に有益なのではないか。
- 自治体の反応は千差万別である。概要だけを読むと、価値が高いので地元で残していきたいという意識が見えるものもある。できるだけ地元の意向を聞きながら模索していきたいが、2次調査で指定等の可能性を直接聞くのは、今後の保護施策を進める上で利点とはならないと思われる。

第3回 平成14年 5月30日(木)

1. これまでの経緯の説明を踏まえた、委員からの意見

- 時間的要素を重視することが重要である。
- ほとんどの原風景が凡景であり、その重要性を明確にするためには価値観の転換が重要である。

- 今回選択するような文化的景観の重要地域について、住民生活との関わりの中でどのように効果的な保護政策を推進していくのかについて、議論する機会を委員会の中で設けるべきである。
- 景観を生み出した時代の機能をそのまま残すのは極めて難しい場合が多いことから、機能は変わるが景観は保全し活用していくという視点が重要である。この点についても微妙な判断を要する問題が多く、本委員会において議論する機会を設けるべきである。

2. 2次調査の成果について

- 候補選択に当たって、国立公園等、現行の環境保全制度との関連を考慮したか。
○他法令による保護の措置については調査項目に入れているが、2次調査の対象とするかどうかの候補選択に当たっては、特段視野には入っていない。
- 候補選択に当たって、都道府県等が定める景観条例によって、複数の市町村を含んだ広域の複合景観として地域指定されているものを考慮したか。
○各地で実践されている景観条例及び景観百選等の試みについては視野に入れて候補選択を行っており、また、複数の市町村にわたる広域的な景観については、全体を含んだかたちでまとめてひとつとして候補選択を行っている。
- 地元で政治的な保存問題にも発展したものも含まれているが、候補選択において地域の意向が反映されているのか。
○そのような点につき考慮しなかったわけではないが、1次調査の時点で地元から挙げられてきたということを最大限尊重し、調査の対象として選択したものである。

3. 重要地域一覧(案)について

- 景観の捉え方として、分類Ⅳの複合景観から取り組むべきである。
- 資料2の「選択の基準」には、一般によく知られていないものを選択していくとの視点を含むべきである。
- 今回の検討においては、複合景観として取り上げられているものが重要な意味を有しており、個別の施設等を対象として保護するというよりも、伝統的な農林水産業に関連する文化的景観について全体的な保全、整備等を主たる目的とするべきである。
- 今回取り組む目的として、以下の3つの方向が重要である。
 - ① 特定の時代にある特定の生業及び土地利用の形態があったことを後世に伝えていくため
 - ② 各地域において環境との調和の下に営まれてきた生活の本質を踏まえ、現代生活を全体として豊かにしていくため
 - ③ 実際に生活しながら、より良いものをより良く生かすという視点から生活の変化の方向、動きを支援するため

4. 詳細調査の試験的实施について

- 対象となる地域が本州を中心としているようだが、その他の地域も入れるべきである。
- 詳細調査を試験的に実施する地域の選択においては、重要地域にどのようなものを選択していくのかということとの関連を考慮するべきである。観点としては、①優秀なもの、②緊急に手当を必要としているもの、の2つの観点から、この委員会でも検討していくことが重要である。
- 選択に当たっては、地元の人々が保存したいという気持ちを考慮することも重要である。
- 棚田について言えば、傾斜地における農業をどのようにして現代に通じるものとするのかという課題と、棚田という景観の文化財としての保存との関係を検討していくことが重要である。
- 文化的景観のうち価値を有するものを将来に残していくために、何らかの処方が可能であるものを重要地域として選択していくことになるのかと思う。
○本来なら、重要地域一覧(案)の全てについて詳細調査を実施したいところであるが、今回は各分野において事例を限定して調査を行い、詳細調査の方法について検討することを目的としている。案として示した個々の重要地域の保存を考える場合には、試験的实施によって示した詳細調査の枠組みを援用して調査を行う必要があるということについて示すことを目的としている。
- 2次調査成果についても、残したい景観として公表していくべきである。
○2次調査の対象となった地域についても公表し、地方公共団体が保護の視野に入れていくべきものと考えている。

5. 成果のとりまとめについて

- 試案として示された「重要文化的景観保存地区」という考え方は重要である。
- 特に今回対象としているものの多くが記念物のような極めて高い価値を持つものではなく、まだ動き続けるものであるということを考慮し、以下の2点を強調するべきである。
 - ① 核となる記念物等が存在しなくても、全体として文化的景観の質を高めていけるような仕組みの構築
 - ② 地元に暮らす人々に文化的景観の保護に対する認識を深めてもらえるような施策の展開
- 核となる文化財が無いものについても保護できる制度を整備するべきである。また、農林水産省とも密接な連携が取れるような仕組みについても盛り込むべきである。
- 記念物等はそれ自体として重要であるのに対して、今回対象としている景観は、そこに暮らす人々と環境との関係に重要性があるので、この点を強調するべきである。
- 農林水産業に関連する営みが産業及び生活として認知されつつ、全体の景観をよりよい方向へ導いていけるような仕組み、制度づくりを目指すべきである。
- 主役は地域住民であることから、地域が持っている資産があれば、地域の文化的景観として地域住民が守っていくように導いていくべきである。地域の取組みと地域の人々の愛着を支える仕組み及び補助制度をどのようにしていくかが重要である。また、これを実現していくためには、正確な調査に基づく典型例となる地区を設定するなど、各地における取組みのきっかけをつくることが重要である。
- IとIVの違いは単体か複合かということにある。しかし、景観はすべて複合として考えるべきであると思うので、ここでいう単体は、あくまでもその周辺の環境をも含めるという視点が必要である。
- 今回の対象となる景観の保全においては、基本として農林水産業そのものが元気である必要がある。この点が、これまでの文化財の保存と異なる点である。
- 地方公共団体の農林水産業に関連する部局が文化財に対してどのような対応をしていくべきかについて、中央省庁及び都道府県の間において模範となる協調連携を示すことが重要である。提示された案ではこの点の具体像がつかみにくい。
 - 適切な事例がまだ無く、名勝に指定されている棚田景観の保護に関しても現段階では課題が多く、試行錯誤の状態であり、答えが出ていない。まだ、これといった典型例を示すことができる段階にないと考えている。

6. オブザーバー発言【農林水産省】

- 農林水産省では、農業の多面的価値の向上とともに、農業の振興のみならず農村の振興についても取り組んでいる。景観を含めた農村環境をどのように高めていくのかということについても重要と考えており、文化庁とも連携して積極的に取り組んでいきたい。

第4回 平成15年 4月 9日（水）

1. 詳細調査の試験的実施の成果について

- (詳細調査の試験的実施については候補地の地域的な分布の調和を考慮するようにとの) 前回の指摘を受けて北海道を加えることとし、観光が進んできたことにより様々な課題を含んでいるという観点からも事例を選択している。
- 今回、詳細調査を試験的に実施したものは、必ずしも各分類及び種別において代表となるものとの視点で調査地を選択したものではない。本来であれば、すべての物件について詳細調査を実施するところであるが、調査項目・方法等の検討のために、選択の基準を設けず、重要地域の候補地から分類及び種別ごとに選んで試験的に実施した。
- 「散居」と「散村」の用語の使い方については、個別の屋敷林に囲まれた住居を指す場合には「散居」と呼び、景観全体を指す場合には「散村」とするべきである。
- 調査候補の選択に際して、空間規模についてはどのようなことを考慮したか。
 - 今回、詳細調査の試験的実施に当たっては、空間規模によって対象物件の範囲を定めたりはしていない。ただし、空間規模という指標は、管理及び保存の在り方、景観維持の継続性などを検討する上で重要と考える。
- 視点場及び空間のまとまりの捉え方も重要である。

- 視点場の捉え方、空間規模及び歴史性等については、重要地域を選択する場合の視点として改めて整理し、その上で各物件の性質等に即して検討していくことにしたい。
- 今回の調査研究によって「文化的景観」に関する概念及び事例を含め、「文化的景観」の保護の在り方及び対象などが示されたことになると思う。このうち、特に詳細調査を試験的に実施した8事例については、「文化的景観」の保護を実際に検討していく上での代表例として一般に理解されると考えられる。
 - 詳細調査を試験的に実施した8事例は、できるだけ様々な観点からの事例が含まれるように選択したが、すべてを含むものではないので、その点については注記することとしたい。
- 詳細調査の試験的实施に挙げられた湖沼景観・河川景観の事例は、現在は必ずしも農林水産業との直接的な関係が明らかでないものと考えられる。このような事例はむしろ、生業を排除してきた結果、現在のような景観となっているものであり、特異な事例と考えられる。この8事例が代表的な例として認識される可能性があることから、湖沼景観・河川景観についてより適切な事例を検討し直すべきである。
 - 「文化的景観」の対象は、最終的には一般化していきたいと考えている。今回実施した詳細調査の試験的实施については、詳細調査の枠組みがどのようなものであるべきかを確認するためのものでもあることから、湖沼景観・河川景観の事例については別の事例を検討することとしたい。
- 住民がどのような単位で景観を認識しているのかについて調査することも重要である。
- 核となる区域と周辺部をどのように捉え、どのように整理していくのが重要である。棚田及び林業景観などは、管理形態が比較的明確なので理解しやすいが、草地景観及び漁業景観などは複合的である。この場合、核となる区域があるものは保護すべき空間の規模を把握しやすい。
- 今回の調査研究によって「農林水産業に関連する文化的景観」という文化財の新しい分野のすべてを決めてしまうのではなく、引き続き議論を進めていくべきである。
- 空間をどのようにとらえるかという問題は、個別物件について調査を多く積み重ねていかないと解答が得られてないのではないかと考えられる。
- 対象となる景観に対する住民の思いが重要である。また、地域における連携を重視するべきである。
 - 今回の議論を踏まえて、「文化的景観」の5つの特質に、「空間の規模」「景観の認識単位」「住民の景観への思い」等、「文化的景観」の特質の多様性についてさらに整理し、「文化的景観」の保護を検討する上でこれらの特質に対応した指標を検討したい。個別の事例についてこれらの分析をすることにより、それぞれの保護するべき範囲を明らかにできることと思う。

2. 成果のとりまとめについて

(1)「文化的景観」の定義等について

- 「選択の基準」のほかに「選択の視点」というものがあり、その中に定義をはずれた「やすらぎ」などが入っている。このようなものを「定義」の中にも含み込むことはできないか。
- 定義の中にある「……かつ学術的価値が高いもの」とあることから、学術的価値が低いものは入ってこないことになるが、もっと柔軟なかたちで定義するべきである。
(このようなことに関連する以下のような意見があった。)
- ①「文化的景観」を普通の日本語で言うと、童謡などに歌われている「原風景」のような言葉で表されるものと思う。この「原風景」のような用語を入れてもらった方が理解しやすい。
- ②また、水田及び里山などの生態学的意味について、もう少し触れておいた方がよい。学術上の価値というよりも、メダカ及びドジョウなど、ごく普通と思われる小動物も絶滅危惧種となっている現在においては、「国民の資産としての生物」が失われつつあることに注目し、「水田生態系」、「里山生態系」、「小動物」、「絶滅危惧種」などの用語を入れるとよい。
- ③農法・漁法等、生業に用いる道具などにも言及するべきであり、これによって、地元の人々の生業及びその意味を表現することができる。このような、生業の手法及び道具が大事であって、ただ単に視覚的なものを守るのみならず、自然の営みの中で守っていくことが重要である。
- 通常の農業と異なる部分に関する減税措置などが非常に有効である。
- (上記②と関連して)昨年度に環境省がまとめた「新・生物多様性国家戦略」においても里山等についてずいぶん議論され、「アクションプラン」などにも書き込まれているが、この中では、地域、空間及び立地等についての範囲設定等において十分ではない。文化庁が取り組む「文化的景観」においては、景観が展開する空間の確保が期待される。
- (上記の「定義」の話と関連して)[「選択の視点」において書かれているような]文化的景観を素材として地域振興を図っていく場合には、あまり「学術上優れているもの」にしばられない方が、「文化的景

観」という言葉を使いやすい。たとえば、保護制度上は「文化財的景観」などの用語を用いつつ、もう少し幅広い意味を込めて使えるようにしておくのではないかな。

- 「文化的景観は文化である」といった場合において、「文化」の語における複数の意味が混在しているような印象を受けるので、もっと明確に整理した方がよい。
- 報告案に示された「文化的景観」（「農林水産業に関連する文化的景観」の略称）と、一般に言う cultural landscape とは意味が異なることを明示しておいた方がよい。cultural landscape[英・米]、Kulturlandschaft[独]など文化的景観を意味する言葉には、人が関与して作られた良いものも悪いものもすべてが含まれている。
- 「農林水産業に関連する文化的景観」という本来の意味からすれば、定義における「独特の」という表現よりも「その地域の文化を代表する」という表現の方がよい。
- 文化的景観という言葉が流布して定義されているのだから、むしろ「文化的景観」という概念を育てていく姿勢を取った方がよい。
 - 今回は「農林水産業に関連する」という修飾語付きの「文化的景観」であるから、「農山漁村地域の」ということであるが、最終的には地域の文化を背景として、より一般的な文化的景観として認識されるのではないかなと思う。そのような観点から「学術的価値」は、「価値」とした方がよいとも思われる。今の議論で出た「原風景」あるいは「ふるさと」といった用語は、「定義」ではなく「視点」などの部分で触れていきたい。
- 近代ドイツにおける郷土保護の考え方は「学術的価値」と「郷土愛」の2つの観点からなる。これは近代の日本にも移入されたが、両面の観点はあまり深められなかった。これまでの文化財保護法の観点は、この郷土保護より狭い範囲を厳密にとらえたものであるが、それが故に文化財保護法は他法令及び他国にはない重要な役割を有しているものと思う。

(2) 保護のための支援等について

- どのような支援を行っていくことでこれを保護できているのか。
 - 文化財の観点からできる支援及び生業振興の観点からできる支援等、関連する担当省庁が適切な役割分担の下に連携・協力していくことが重要と考えている。
 - 文化庁が補助金等によって支援をしていく場合、土地の公有化などの支援制度はあるが、保護のための機構全体を財政的に支援していくことは容易ではない。おそらく、条例などにより地域住民の合意をある程度得ながら、保存管理計画に近い何らかの規制又は許容に基づく支援が可能と考えている。
- 合意形成の方法について、行政の方で枠組みを示しながら合意を形成していく方法もあるが、地域住民の間での合意形成に基づき、行政との合意を形成していく方法等も考えられる。
- 「文化的景観」をこのようなかたちで指定等をしていくことの最大の意味は、
 - ①そこに住む人々にとって価値あるものであるとの認識を広めたり、高めたりすること
 - ②従来の文化財と異なる方法を採用することによって、様々な助成を検討できることの2点にあるのではないかなと考えられる。したがって、従来の文化財保護とは少し方法を変えて運用していくのがよいと思う。
- 保護の考え方に、地域の人々が価値を発見し、学ぶことが出来るようにというところにまで触れているが、この部分で、価値を学び、かつそのための行動を起こせるよう行政が支援をするということを盛り込むべきである。

(3) 担い手及び技術の継承等について

- 棚田景観等の管理計画の立案に当たっては、高齢化及び担い手の問題が一番大きい。
- ボランティアを導入する場合、ボランティアには技術がないことから、核となる重要な部分は地元の人が行いつつ、これにボランティアが周囲から補助するなど、段階を設けた保存方法を検討する必要がある。
- 屋敷林など、課税の点で優遇するような方法を考えて欲しい。
- これからの時代は資金も労力も地域で出し、地域住民が誇りをもって地域の資産を守り伝えていくことが重要である。
- 担い手が重要であるとともに、生産あるいは管理の技術体系も重要である。技術の問題と景観の問題は表裏一体であり、技術のような無形の部分を保存・継承していくことの重要性についても盛り込むべきである。
- ここでは、どちらかというと技術の改良という観点で触れており、そのことももちろん重要であるが、伝統的な技術の継承についても触れておく方がよいのではないかなと思う。

- 運営の手法については地域交流及びイベントなどの観点から取り組むにしても、生業の観点から取り組むにしても、これを支える施業体制を根本的に維持する必要がある。
- 目的そのものは変わるにしても、その景観を維持している技術も一体的に保全していないと景観は維持されていかない。生業であろうとボランティアであろうと、継続しないと景観が壊れてしまうということについても触れておくべきである。
- 「学術的価値」の観点から言えば、棚田のようにもともとそのような価値が着目されていなかったものでも、専門に研究する人々が学会などを作れるようになれば、高く評価出来るようになる。
- 指定された区域において生産された生産物について、農林水産省などが価格の差別化、商品の差別化などを積極的に行っていくことも、このような問題解決のひとつの手段となると思う。

3. オブザーバー発言【農林水産省】

○「文化的景観」の保護の前提として、農林水産業が健全に維持されている必要がある。高齢者が増加する中で棚田などの景観を保護していく場合には、生活環境の関連で検討が難しい場合が多くある。景観保護の観点だけではなく、それ以外のことも含めて、その地域がどのような選択をして取り組んでいくのかが、大きな議論となると思う。この場合、市町村などが中心的な役割を担うわけであるが、景観を保護するというだけではなく、それを活用した地域の活性化ということを一体のものとして、活動を継続していくための人材について支援していけるとよいと思う。方法論として確立しているものではないが、このような観点から支援をしていけるよう努力していきたい。

第5回 平成15年 6月12日（木）

1. 追加して実施した詳細調査の試験的実施の成果について

- 「掘割（クリーク）」とあるが、アメリカの自然河川を「クリーク」ということから、このように人工的に作ったものは単に「掘割」で良い。
- 筑紫平野の水郷は圃場整備でかなり変わっているが、保全するべき地域における現状はどのようなになっているかについて確認したい。
○広く調べると圃場整備による変化は進んでおり、曲線的な掘割が直線的になったり、護岸がコンクリートとなったりしている。資料7で示した範囲は、従前のかたちをよく遺している。
- 筑後川下流全体に見られる湛水・止水の仕組みと取水との関係についても触れることによって、柳川の特徴もより分かりやすくなる。
- 高畑勲監督の『柳川掘割物語』が制作されたことと、これと同時に展開された水環境保全運動にも触れておくことが重要である。このようなことによって初めて守られてきたことを伝えることが重要であり、地域で守っていこうという農業従事者及び行政からの取り組みの展開に繋がる可能性を高めると思う。

2. 「農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究」（報告案）について

- 最初の部分に、「第2次世界大戦後に……」とあるが、ここで戦前について触れていないのはなぜか。
○特に意図はない。戦前にどのような研究があったかについて、むしろ教えていただければと思う。
- 例えば、1930年代（昭和10、11年頃）に田村剛、上原敬二などが集まって、「郷土風景」ということばを用いて、近郊の農村風景の消滅について批判的かつ深刻な議論を行っている。とりわけ、昭和初期に行われた東京市の市郡合併による郊外の市街化の急速な進展によって、こうした「郷土風景」が失われていくという背景があったと思う。この「郷土風景」に関する議論は、ほとんどが農村地帯の風景についてであった。市郡合併以前は、新宿、渋谷及び池袋等は市域の外にあったもので、昭和7年以降に市内に組み込まれる。この中で、現在の目黒区の碑文谷はかつて純農村であったところであるが、失われつつあった郷土風景のうち、東京市の公園課の職員でもあった地元の郷土史家が、農業で入会地的に使われていたため池を公園として遺した例がある。これは、公園というものに変えて、新しい役割を得ることで遺ってきたもので、読替がうまくいった例として挙げられる。こういった方面での議論は戦前にも行われていたということも、この項目の冒頭で触れておくことが重要である。
- 歴史学の分野で当時の景観の具体的な考証及び復元的研究がなされたということを書いているが、「復元」というと、実際にものとして復元することを思い描いてしまうこともあるので、歴史学上の「復元」については、実際にものとして復元したものでないことを明らかにしておいた方がよい。

- p21 の図2-1について、180件に絞り込んだところまでは矢印で表現して構わないと思うが、次の8件については、代表的な事例として選んだということが分かる別の表現を考える必要がある。
- p45 の「保護の考え方」とも関連することと思うが、教育の問題を何らかのかたちで書いておくことが重要である。生活様式が変わって景観もある程度変わらざるを得ないという中で、維持していくことを考える場合、①その景観がどのように形成されてきたのかということと、②どの部分を守っていくことが本質的に重要であるのかということをしかりと伝えていく必要がある。例えば、学校教育を通じて、小さい頃から共通の理解を形成していくことが重要であると思うので、これは文部科学省の問題でもあるのかもしれないが、何らかのかたちで触れておいて欲しいと思う。
- 学校教育のみでは、包含しきれない部分もあると思う。
 - 学校のみならず地域も含め、「若い世代への普及啓発」など、何らかの一般的な文言は入れるよう工夫する。
- p21 に示された定義の中に自然環境のことも触れ、自然環境を基礎として歴史と文化が展開しているというような表現を工夫できると良い。
- 例えば、「農山漁村地域の自然、歴史及び文化」というように、「自然」の一語を入れることで良いのではないか。
 - p21 に示した定義は1次調査における定義であるので、あまり大きくは変えられないが、示された調整案をもとに検討したい。今回農林水産業に関連するものがまず主題となっているが、これを一般化していく方向についても検討する上で、都市域にも自然があることを視野に入れ、土地ということに関連して自然の部分をもどのように評価していくかということは非常に重要な視点であると考えている。
- p48 に示された保護の制度に関する記述の部分で、2次調査の対象とした地域の保護に関する記述をもっと厚くするべきである。2次調査の対象とした地域について、それぞれの地域で保護する意識が充実することによって、条例による保護もより有効になっていくのではないかと思うので、そのような点について指摘して書き加えるべきである。
 - アでは、重要地域及び2次調査の対象とした地域を対象とした総括的な方向性について触れており、イでは、だいたい重要地域に関する内容に触れているので、ウという項目(p53)を新たに起こして、重要地域以外の2次調査の対象とした地域について触れたいと思う。
- p22「選択の基準」に関して、ⅢとⅣの違いについて教えて欲しい。また、p48 の文化的景観のAとBについて、「選択の基準」との関連で説明して欲しい。さらにp45 からの「特質」に示されたどれがAでどれがBということになるのか、そのあたりを含めて、AとBの違いについて教えて欲しい。
 - 棚田を例にとれば、文化的景観Aは千枚田及び農業用水などに絡む堰、その他の構造物等、それ自体で非常に顕著な価値を有しているものであり、文化的景観Bとは棚田ではあっても千枚田のような顕著な価値を持っているとは言い難いものであるが千枚田及び集落の周辺に一体となって展開している文化的景観であると考えている。そもそもこれらのAとBとが混同して捉えられがちである点に、文化的景観に対する正確な理解についての難しさがあると考えている。
- p46 カに示された「水田及び用水路等の水面は生物の生息地であるのみならず、生物が移動する場合の通過路としても極めて重要な役割を果たしている。」とあって、これは非常に重要な点を指摘しているが、①水面のみではないこと、②一般にはこのような水面及び緑地等による生物の生息域及び移動路等の繋がりであることを「ビオトープネットワーク」という用語で表現していること、を踏まえ記述を検討することを視野に入れて欲しい。
- p17 の図1-14[名勝・文化景観(田毎の月)の指定地と景観保全地区]でいうと、名勝、文化的景観A及びBはそれぞれどの部分に該当するかを説明して欲しい。
 - 名勝指定の範囲は、図に示した「長楽寺地区」「四十八枚田地区」「姪石地区」の3地区であり、文化的景観Aの範囲は、この「姪石地区」の周囲に展開している棚田を含んだ地域である。文化的景観Bの範囲は、「四十八枚田地区」の北側の既に圃場整備がされている水田や、果樹園に変わっている区域、川や集落の区域であり、これらをすべて包括するものが図に示した「景観保全区域」である。
- 文化的景観を保護するというとき、何を「保護」するのが重要である。「保護」という言葉には、現存するモノをそのまま保存するというような印象が強く、そこで生活している人々にとっては非常に窮屈なものになりはしないかと思う。文化的景観の保護において重要なのは、自然環境と人間生活との「関係」によって景観が現れるということを守ることが重要であり、提案された文面では、景観の物理的な在り方に重点が置かれていると思うので、この点をもう少し明確に表しておくことが、今後の風景及び景観の全般を考えていく上でも重要である。

- 多種多様な物件を対象として一般的な記述をしているので、報告の中では一般的なことしか触れることはできないと思うが、具体的な保護の在り方については、この報告が外に出て、文化財保護法の改正を早期に行い、文化財分科会等に図りながら具体的な選定又は指定等を進める中で、個別の物件の検討していく際に、指摘があったような視点において、人々が生活しているという観点から、完全にそのままというわけではなく、保護をどのようにしていくのが重要な課題になるのだと思う。さらに、具体的な選定又は指定等の基準などを整備しながら、保存管理計画を作り上げていく中で、地域住民の合意を以てどの程度まで変化を許容していくのかということを練り上げながら、物件を選定又は指定等をしていくものと考えている。いずれにしても、個別の物件に関わる実務の話になるので、この委員会の先生方にも相談させてもらいながら、実務の話として間違いのないように取り組んでいきたい。文化庁を含む文部科学省の幹部に説明し、議論する機会があった折にも、人が住むところと規制との関係は微妙な部分を含む点について話題となった。いまは政府内部においても規制をかけることに対して点検・審査する機関もあり、議論することになっている。これまでの文化財保護とは少し発想を変えて、保護に取り組みたいと考えている。
- 文化的景観Aと文化的景観Bとに分けて、Aは核となる部分、Bは周辺の部分とするという話と、前回(第4回)の議論にもあったように、文化的景観には学術的価値が高いものと、あるいは人と環境とが関わりながら作られてきた景観全般を示すものの2つの意味があるという話があった。今回は理念として示そうとしていることからこのようなかたちになるのだと思うが、実際に指定等をしていく際には、核となる部分(文化的景観A)に限らざるを得ないと思う。おそらく文化的景観Bについては、これからまた別に議論をしていく必要があると思う。
- ここで将来的な制度のつくりまで議論することはできないが、いままでの指定のやり方と重要伝統的建造物群保存地区において実践されているやり方をヒントとしながら制度をつくり、個別の物件に関しては保存管理計画の作り込みによってそれぞれの特徴に応じた方法で対応できるのではないかと考えている。
- 文化財保護法という大きな傘の下での議論だと思うので、「保護」という用語が優先するのはやむを得ないと思うが、実態的な理解としては、「保護すべき部分」と「一定の方向性の下で作っていったりしてもいい部分」とで運用を変えるような枠組みを考えれば良いのだと思う。事務局が抱く想定もこのようなところにあるのではないかな。
- その通りである。また、「保護」という言葉については、そのままであると誤解を招くかも知れないが、文化財保護法の下での「保護」とは「保存」と「活用」の両面を含むものである。最も厳格なのは「保存」であり、「保全」は行政的には環境省の使う用語という印象がある。
- 文化的景観というのはまだ一般によく知られていないものであるもので、実際の運用においては、これまでこの委員会及び事務局内部で議論していたのとはかなり違ったことも生じ得るのではないかな。今回選択に当たる重要地域の保護の方法において地元が条例を作っていくことについても、国と地元との認識の差が出てくるのではないかな。さらに、農林水産業に関連していないもののうちにも重要な文化的景観があるが、文化的景観という用語が定着するとこのようなものについても重要なものになるのではないかな。
- 現在の記念物の指定制度は法律的には一方的に指定できることとなっているが、実際の運用においては、地元からの申出に基づいて指定している。今回考えているものは、かなり広範囲にわたる土地規制とも関連するので、制度的にも地元からの申出による方式で、極めて慎重に進めていく必要がある。国で選定するということとなると、地元が条例により許可制の部分からさらに拾い上げていくようなかたちになると考えており、p51の図に示したのがその概念である。
- また、実際に制度を作る際には農林水産業に限定した制度は考えられないので、制度作りと候補物件の調査はある程度切り離して、一般的な制度を作ったあとに調査を入れるということは当然あり得る話である。また、ある分野に関して調査が網羅的に行われていなくとも、明らかに優良なものについては、文化的景観として何らかの指定又は選定等の措置を講じていくことになると思う。
- p29に示されている「独特の気象によって現れる景観」(Ⅱ-3)というのは、例えば「やませ」を例に挙げると、「やませを防御するための生け垣がある景観」のようなものを指しているのか、あるいは「やませが吹いていることによって生じる景観」のようなものを指しているのか。また、この場合、保護の対象は何になるのか。
- 前者はⅠに属するものとして分類している。Ⅱでは、農林水産業に関連して風土的特色及び自然的要素の強いもの又は精神的な象徴となっているものを想定している。例えば、山に現れてくる雪形のようなものは、農林水産業に関わる季節を告げて、生業の年間行程と関わるものであり、「やませ」もそのようなものとして捉えている。

- p52の「(2)伝統的建造物群保存地区と「文化的景観」との関係」で、最後のところに「……高い一体的価値を有する「文化的景観」の保護を目的とするものではない」と書いてあるが、実際には、地元においてその認識を持っているものもあるので、提案されている「重要文化的景観保存地区」が「重要伝統的建造物群保存地区」と一致する場合もあるのではないかと思います。

○この辺りの書きぶりをもう少し分かり易くする必要があると思うが、この部分で言っているのは、伝統的建造物群の保存地区制度は建造物群がなくても他の記念物を中心とした周辺の文化的景観の保存までを視野に入れた制度ではないということである。

(以上の議論を踏まえた修文を加えることを前提に、調査研究報告の案文については了承された。)

3. 本報告書に掲載する事例紹介について

- 資料9の「展望」は、景観を展望する意味と誤解される虞があるので、「将来の」の語を加えるなどして、誤解の無いようにした方がよい。
- 今回の選択は地元から上ってきたものが基になっているので、複数の都道府県にまたがっているものについて、特に複合景観において選択から漏れている地域があると思うが、この点についてはどのように考えているのか。
- 重要地域及び2次調査の対象とした地域については、事前に今回の調査研究の最終的な一覧表に掲載することについて、それぞれ地元と合意している。指摘のあったことについては、一覧表の充実ということで、今後の課題としたい。

4. オブザーバー発言

- 〔農林水産省〕この委員会での議論はとても勉強になり、感謝している。農林水産省においても平成16年度に向けて、「美しい農村づくり」というものに力を入れようと考えている。その意味で、この委員会での検討がその後押しになるのではないかと期待している。

5. 委員会の最後に当たり述べられた委員からの意見

出席した各委員から事務局に対し意見が述べられ、その趣旨はおおむね以下のとおりである。

- これまで今回取り扱ってきた農業景観のようなものの保護の取組みにおいては、これを支援する法制度が十分でなかったので、今回、このようなものを残していくための組織的、系統的な整理ができたことは極めて意味があることと思う。世界に誇る日本の風景を守るための誇り得る制度が作られることを期待する。
- 今回の調査研究の成果を受けて、法制度の整備及び支援の仕組みづくりなど、農林水産省をはじめとする各省庁と緊密な連携・協力の下に、これからの具体的取組みを積極的に推進して行って欲しい。実際の調整に臨めば、担い手の問題や動的な景観の取扱いのほか、時間との戦いともなり、様々に難しい問題が出てくると思うが、それはたぶん解決できるものと思うので、これからは是非がんばって欲しい。
- 風景は文化であるから、我が国において文化庁が風景を政策的に扱う部署になればと思う。これから将来にわたって風景をどのように作り出していくのかという方向で進めて行って欲しい。
- 景観というものが、その場所に住んでいる人々にとって意味のある、価値のあるものであるということを理解してもらうことが最も基本的なことであり、保護の方法及び仕組みとともに、意味を理解してもらうための活動も併せて行って欲しい。
- 景観は人と自然とが作り出しているものであるが、その景観を生活の場に行っている生物がいることについても着目し、生物多様性の保全の観点から今後の具体的取組みに注目している。

農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究

2 次調査の対象とした地域及び重要地域の一覧表

農林水産業に関連する文化的景観の分類

- I. 土地利用に関するもの。
- II. 風土に関するもの。
- III. 伝統的産業及び生活を示す文化財と一体となり周辺に展開するもの。
- IV. I～IIIの複合景観。

分類	種 別		2次調査	重要地域
Ⅰ	1	水田景観	134	35
	2	畑地景観	72	32
	3	草地景観	17	10
	4	森林景観	27	7
	5	漁場景観・漁港景観・海浜景観	37	10
	6	河川景観・池沼景観・湖沼景観・水路景観	48	9
	7	集落に関連する景観	57	13
Ⅱ	1	古来より信仰及び行楽の対象となってきた景観	4	1
	2	古来より芸術の題材及び創造の背景となってきた景観	6	1
	3	独特の気象によって現れる景観	11	2
	4	習俗及び行事によって現れる景観	15	
Ⅲ	伝統的産業及び生活を示す文化財の周辺の景観		12	8
Ⅳ	Ⅰ～Ⅲの複合景観		62	52
合計件数			502	180

註) ここに示した地域の名称については、2次調査において都道府県、市町村から挙げられてきた名称を基本としつつ、若干の統一等を図った。また、一覧表中、重要地域については、左欄に*印を付した。

重要地域	地 域	よみがな	所在地
------	-----	------	-----

I－1 水田景観（その1）

＊	骨寺村荘園遺跡	ほねてらむらしょうえんいせき	岩手県 一関市
	浄法寺城跡及びその周辺景観	じょうぼうじじょうあとおよびそのしゅうへんけいがん	岩手県 二戸郡浄法寺町
	沢尻の棚田	さわじりのたなだ	宮城県 伊具郡丸森町
	土場沢の水田と集落	どばさわのすいでんとしゅうらく	秋田県 由利郡東由利町
	真崎浦・細浦	まさきうら・ほそうら	茨城県 那珂郡東海村
	矢板市内の野火焼き	やいたしないののびやき	栃木県 矢板市
	片品川・利根川の河岸段丘	かたしながわ・とねがわのかがんだんきゅう	群馬県 利根郡昭和村
	太田条里遺跡とため池	おおたじょうりいせきとためいけ	埼玉県 秩父市
	高麗の巾着田	こまのきんちやくだ	埼玉県 日高市
＊	千葉の谷津田	ちばのやつだ	千葉県 千葉市
＊	大山千枚田	おおやませんまいだ	千葉県 鴨川市
	中沢四ツ塚・四ツ又弁天	なかざわよつづか・よつまたべんてん	千葉県 富里市
	上山口の棚田	かみやまぐちのたなだ	神奈川県 三浦郡葉山町
＊	満願寺の稲架木並木	まんがんじのはさぎなみき	新潟県 新津市
	佐渡の車田	さどのくるまだ	新潟県 両津市
＊	夏井の稲架木並木	なついはさぎなみき	新潟県 西蒲原郡岩室村
	北五百川の棚田	きたいもがわのたなだ	新潟県 南蒲原郡下田村
＊	山古志の棚田	やまこしのたなだ	新潟県 古志郡山古志村
＊	上船倉の棚田	かみふなぐらのたなだ	新潟県 東頸城郡安塚町
＊	松之山の棚田	まつのやまのたなだ	新潟県 東頸城郡松之山町
	蓮野の棚田	はすのたなだ	新潟県 東頸城郡大島村
	相川町の海際の水田	あいかわちやうのうみぎわのすいでん	新潟県 佐渡郡相川町
	氷見の棚田	ひみのたなだ	富山県 氷見市
	山田の棚田	やまだのたなだ	富山県 婦負郡山田村
	医王山麓の広瀬荘	いおうぜんふもとのひろせしょう	富山県 西砺波郡福光町
＊	白米の千枚田	しろよねのせんまいだ	石川県 輪島市
	津幡町の奥山田	つばたまちのおくやまだ	石川県 河北郡津幡町
	岸水町の棚田	きしみずちやうのたなだ	福井県 福井市
	勝山の七里壁	かつやまのしちりかいべ	福井県 勝山市
	梨子ヶ平の千枚田	なしがだいらのせんまいだ	福井県 丹生郡越前町
	日引の千枚田	ひびきのせんまいだ	福井県 大飯郡高浜町
	屋代越中守館跡と水田	やしろうえちゅうのかみやかいたあととすいでん	山梨県 北巨摩郡明野村
	よこね田んぼ	よこねたんぼ	長野県 飯田市
	奥信濃の棚田	おくしなのたなだ	長野県 飯山市
＊	姨捨の棚田	おばすてのたなだ	長野県 更埴市
	大西の棚田	おおにしのたなだ	長野県 上水内郡中条村
＊	坂折の棚田	さかおりのたなだ	岐阜県 恵那市

重要地域	地 域	よみがな	所在地
------	-----	------	-----

I - 1 水田景観（その2）

	正ヶ洞の棚田	しょうがほらのたなだ	岐阜県 郡上郡白鳥町
	浮島沼と富士山	うきしまぬまとふじさん	静岡県 沼津市
*	大栗安の棚田	おおぐりやすのたなだ	静岡県 天竜市
*	四谷の千枚田	よつやのせんまいだ	愛知県 南設楽郡鳳来町
*	丸山千枚田	まるやませんまいだ	三重県 南牟婁郡紀和町
	仰木の棚田	おうぎのたなだ	滋賀県 大津市
*	湖北の条里集落	こほくのじょうりしゅうらく	滋賀県 長浜市
	湖南の条里水田と集落	こなんのじょうりすいでんとしゅうらく	滋賀県 守山市
	金堂集落と条里水田	こんどうしゅうらくとじょうりすいでん	滋賀県 神崎郡五個荘町
	越畑の棚田	こしはたのたなだ	京都府 京都市
	亀岡盆地の畦畔木と彼岸花	かめおかぼんちのはさぎとひがんばん	京都府 亀岡市
	南金岐の稲架木	みなみかきなののはざき	京都府 亀岡市
	毛原の棚田	けはらのたなだ	京都府 加佐郡大江町
	加悦谷の水田景観	かやだにのすいでんけいかん	京都府 与謝郡加悦町
*	新井の千枚田	にいのせんまいだ	京都府 与謝郡伊根町
	袖志の棚田	そでのたなだ	京都府 竹野郡丹後町
	甘南備の棚田	かんなびのたなだ	大阪府 富田林市
	島ノ谷地区の棚田	しまのたにちくのたなだ	大阪府 河内長野市
	横尾の棚田	よこおのたなだ	大阪府 柏原市
	通法寺の条里遺構	つうほうじのじょうりいこう	大阪府 羽曳野市
*	長谷の棚田	ながたにのたなだ	大阪府 豊能郡能勢町
	河南台地の条里地割	かなんだいちのじょうじわり	大阪府 南河内郡河南町
	下赤阪の棚田	しもあかさかのたなだ	大阪府 南河内郡千早赤阪村
	岩座神の棚田	いさがみのたなだ	兵庫県 多可郡加美町
	乙大木谷の棚田	おつおおきだにのたなだ	兵庫県 佐用郡佐用町
	和佐父西ヶ岡の棚田	わさぶにしがおかのたなだ	兵庫県 美方郡村岡町
	大和の条理景観	やまとのじょうりけいかん	奈良県 大和郡山市
*	桜井市の条里水田	さくらいしのじょうりすいでん	奈良県 桜井市
*	神奈備の郷	かんなびのさと	奈良県 高市郡明日香村
	三尾川の棚田	みおがわのたなだ	和歌山県 海草郡美里町
*	蘭島	あらぎじま	和歌山県 有田郡清水町
	扇ノ山と上地の棚田	おうぎのせんとわじのたなだ	鳥取県 岩美郡国府町
	穴鴨の石垣の棚田	あながものいしがきのたなだ	鳥取県 東伯郡三朝町
*	中垣内の棚田	なかがのちのたなだ	島根県 益田市
	大原新田	おおばらしんでん	島根県 仁多郡横田町
	神谷集落の棚田	かんだにしゅうらくのたなだ	島根県 邑智郡羽須美村
	出羽盆地の河岸段丘	いずわぼんちのかがんだんきゅう	島根県 邑智郡瑞穂町

重要地域	地 域	よみがな	所在地
------	-----	------	-----

I - 1 水田景観（その3）

＊	都川の棚田	つかむのたなだ	島根県 那賀郡旭町
	室谷の棚田	むろだにのたなだ	島根県 那賀郡三隅町
＊	上山の千枚田	うえやまのせんまいだ	岡山県 英田郡英田町
	大坪和の棚田	おおはかのたなだ	岡山県 久米郡中央町
	筒賀村井仁棚田	つつがそんい仁たなだ	広島県 山県郡筒賀村
	備後国太田荘	びんごこくおおたのしょう	広島県 世羅郡世羅町
＊	たたら鉄穴流しと金屋子神	たたらかんながいしとかやごのかみ	広島県 双三郡君田村
	川中地区の水田	かわなかつちくのすいでん	山口県 下関市
	中尾凌雲寺跡周辺の棚田	なかおりゆうんじあとしゅうへんのたなだ	山口県 山口市
	徳地の石垣棚田と茶の木	とくちのいしがきたなだとちやのき	山口県 佐波郡徳地町
	檜原の棚田	かしはらのたなだ	徳島県 勝浦郡上勝町
	下影の棚田	しもかげのたなだ	徳島県 三好郡井川町
＊	丸亀の条里地割	まるかめのじょうりじわり	香川県 丸亀市
	千町の棚田	せんじょうのたなだ	愛媛県 西条市
	井内の棚田	いうちのたなだ	愛媛県 温泉郡川内町
	本谷の棚田と伊予灘	ほんだにのたなだといよなだ	愛媛県 伊予郡双海町
	白尾・立川袋口の棚田	しろお・たちかわふろくのたなだ	愛媛県 喜多郡内子町
	泉谷の棚田	いずみたにのたなだ	愛媛県 喜多郡五十崎町
	窪野の岩上田	くぼののがんじょうでん	愛媛県 北宇和郡城川町
＊	城川町の茶堂と山村	しろかわちやうのちやどうとさんそん	愛媛県 北宇和郡城川町
	堂の坂の棚田	どうのさこのたなだ	愛媛県 北宇和郡城川町
	広見町の茶堂と山村	ひろみちやうのちやどうとさんそん	愛媛県 北宇和郡広見町
	奥内の棚田	おくうちのたなだ	愛媛県 北宇和郡松野町
	野良時計	のらどけい	高知県 安芸市
	有瀬の棚田	あらせのたなだ	高知県 香美郡香北町
	谷相の棚田	たにあいのたなだ	高知県 香美郡香北町
＊	神在居の千枚田	かんざいこのせんまいだ	高知県 高岡郡梶原町
	長者の棚田	ちやうじゃのたなだ	高知県 高岡郡仁淀村
	市野瀬の棚田	いちのせのたなだ	高知県 幡多郡佐賀町
＊	つづら棚田	つづらたなだ	福岡県 浮羽郡浮羽町
＊	星野村の棚田	ほしのむらのたなだ	福岡県 八女郡星野村
	江里山の棚田	えりやまのたなだ	佐賀県 小城市小城市
＊	蕨野の棚田	わらびのたなだ	佐賀県 東松浦郡相知町
	大浦の棚田	おおうらのたなだ	佐賀県 東松浦郡肥前町
	浜野浦の棚田	はまのうらのたなだ	佐賀県 東松浦郡玄海町
＊	岳の棚田	だけたなだ	佐賀県 西松浦郡西有田町
	大中尾棚田	おおなかおたなだ	長崎県 西彼杵郡外海町

重要 地域	地 域	よみがな	所在地
----------	-----	------	-----

I－1 水田景観（その4）

	日向の棚田	ひなたのたなだ	長崎県 東彼杵郡川棚町
	鬼木棚田	おにぎたなだ	長崎県 東彼杵郡波佐見町
	小浜町の棚田	おぼままちのたなだ	長崎県 南高来郡小浜町
	寒川の棚田	さむかわのたなだ	熊本県 水俣市
	産山村の扇棚田	うぶやまむらのおうぎたなだ	熊本県 阿蘇郡産山村
	峰棚田	みねたなだ	熊本県 上益城郡矢部町
	菅迫田	すげさこた	熊本県 上益城郡矢部町
	日光の棚田	にちこうのたなだ	熊本県 八代郡坂本村
*	八代干拓の景観	やつしろかんたくのけいかん	熊本県 八代郡竜北町
	大作山千枚田	おおさくやませんまいだ	熊本県 天草郡龍ヶ岳町
	内成の棚田	うちなりたなだ	大分県 別府市
*	田染荘荘園村落遺跡	たしぶのしょうしょうえんそんらくいせき	大分県 豊後高田市
	奥詰の棚田	おくづめのたなだ	大分県 大分郡挾間町
	軸丸の棚田	じくまるのたなだ	大分県 大野郡緒方町
	山浦早水の棚田	やまうらそうずのたなだ	大分県 玖珠郡玖珠町
	両合棚田	りょうあいいたなだ	大分県 宇佐郡院内町
*	酒谷の棚田	さかたにのたなだ	宮崎県 日南市
	向江棚田	むかいえたなだ	宮崎県 児湯郡西米良村
	春の平棚田	はるのひらたなだ	宮崎県 児湯郡西米良村
*	戸川の石垣の村	とがわのいしがきのむら	宮崎県 西臼杵郡日之影町
	幸田の棚田	こうだのたなだ	鹿児島県 姶良郡栗野町
	打詰の初穂田	うちづめのはついなだ	鹿児島県 肝属郡佐多町
	字仲地の集落と水田	あざなかいちのしゅうらくとすいでん	沖縄県 島尻郡久米島町

重要地域	地 域	よみがな	所在地
------	-----	------	-----

I－2 畑地景観（その1）

	石狩平野の田園風景	いしかりへいやのでんえんふうけい	北海道 江別市
	羊蹄山麓の開拓地	ようていさんろくのかいたくち	北海道 虻田郡真狩村
*	美瑛の丘陵	びえいのきゅうりょう	北海道 上川郡美瑛町
	端野町の丘陵の畑	たんのちやうのきゅうりょうのはたけ	北海道 常呂郡端野町
	初夏の蕪島	しよかのかぶらじま	青森県 八戸市
*	津軽の林檎畑	つがるのりんごばたけ	青森県 北津軽郡板柳町
	山根町の傾斜畑	やまねちやうのけいしゃばたけ	岩手県 久慈市
	ホップ畑と鳥海山	ほっぷばたけとちやうかいさん	秋田県 平鹿郡大雄村
	高瀬の紅花	たかせのべにばな	山形県 山形市
*	田川の赤カブ栽培と焼き畑	たがわのあかかぶさいばいとやきはた	山形県 鶴岡市
	猿楽台地の蕎麦畑	さるがくだいちのそばばたけ	福島県 南会津郡下郷町
	会津盆地と蕎麦畑	あいづぼんちとそばばたけ	福島県 耶麻郡塩川町
*	矢ノ原高原の蕎麦畑	やのはらこうげんのそばばたけ	福島県 大沼郡昭和村
*	安行の植木	あんぎやうのうえき	埼玉県 川口市
*	入間の茶畑	いるまのちやばたけ	埼玉県 入間市
	八街市南部の防風保安林と落花ぼっち	やちまたしなんぶのぼうふうほあんりんとらっかほっち	千葉県 八街市
*	坂本のはす田	さかもとはすだ	千葉県 長生郡長南町
	南房総の花畑	みなみぼうそうのはなばたけ	千葉県 安房郡千倉町
*	上山の椿	うえやまのつばき	東京都 大島郡大島町
	三浦の畑作	みうらのはたさく	神奈川県 三浦市
*	福岡町の菅田と菅干	ふくおかまちのすげだとすげぼし	富山県 西砺波郡福岡町
	三里浜砂丘の防風林とラッキョウ畑	さんりばまさきゅうのぼうふうりんとらっきょうばたけ	福井県 福井市、坂井郡三国町
	ふくべ清水	ふくべしやうず	福井県 大野市
	平家平のオウレン畑	へいけだいらのおうれんばたけ	福井県 大野市
	美山町の赤カブラ畑	みやまちやうのあかかぶらばたけ	福井県 足羽郡美山町
*	越廼村の水仙畑	こしのむらのすいせんばたけ	福井県 丹生郡越廼村
*	勝沼の葡萄畑	かつぬまのぶどうばたけ	山梨県 東山梨郡勝沼町
	岩垂原のレタス畑	いわだれはらのれたすばたけ	長野県 塩尻市
	更埴のあんずの里	こうしよくのあんずのさと	長野県 更埴市
	愛鷹山麓の茶畑	あしたかさんろくのちやばたけ	静岡県 沼津市
	西浦みかん畑	にしうらみかんばたけ	静岡県 沼津市
	富士山南麓の茶畑	ふじさんなんろくのちやばたけ	静岡県 富士市
*	牧之原大茶園	まきのはらだいちゃえん	静岡県 小笠郡菊川町
	一宮市周辺の島畑	いちのみやししゅうへんのしまばた	愛知県 一宮市
*	二木島町・御浜町のシン垣	にぎしまちやう・おはまちやうのししがき	三重県 熊野市
*	近江のシン垣	おうみのししがき	滋賀県 高島郡高島町
	木津川流域の島畑	きづがわりゅういきのしまばた	京都府 城陽市

重要地域	地 域	よみがな	所在地
------	-----	------	-----

I－2 畑地景観（その2）

＊	駒ヶ谷地区の葡萄畑	こまがたにちくのぶどうばたけ	大阪府 羽曳野市
	高山地区のごぼう畑	たかやまちくのごぼうばたけ	大阪府 豊能郡豊能町
	母子の茶畑	もうしのちやばたけ	兵庫県 三田市
＊	湯浅町の果樹園の段々畑	ゆあさちょうのかじゅえんのだんだんばたけ	和歌山県 有田郡湯浅町
	南部の梅林	みなべのばいりん	和歌山県 日高郡南部町
	小泉のわさび田	こいずみのわさびだ	鳥取県 東伯郡関金町
	旭豊梨の里	きょくほうなしのさと	島根県 那賀郡旭町
	尾道の桃畑と集落	おのみちのももばたけとしゅうらく	広島県 尾道市
＊	重井の除虫菊畑	しげいのじょちゅうぎくばたけ	広島県 因島市
＊	鹿島の段々畑	かしまのだんだんばたけ	広島県 安芸郡倉橋町
	豊町のみかんの段々畑と石垣	ゆたかまちのみかんのだんだんばたけといしがき	広島県 豊田郡豊町
＊	秋吉台のドリーネ畑	あきよしだいのどリーねばたけ	山口県 美弥郡美東町
＊	木頭柚の生産地	きとうゆずのせいさんち	徳島県 那賀郡木頭村
＊	高開の石積み段々畑	たかかいのいしづみだんだんばたけ	徳島県 麻植郡美郷村
＊	美郷の梅林	みさとのかいりん	徳島県 麻植郡美郷村
	東植田の茶畑	ひがしうえたのちやばたけ	香川県 高松市
＊	五郎・若宮の畑の境木	ごろう・わかみやのはたけのさかいぎ	愛媛県 大洲市
	石畳東地区のたばこ畑	いしだたみひがしちくのたばこばたけ	愛媛県 喜多郡内子町
	江子の柿畑風景	ごうじのかきばたふうけい	愛媛県 喜多郡内子町
＊	伊方町の柑橘の段々畑と防風林	いけたちょうのかんきつのだんだんばたけとぼうふうりん	愛媛県 西宇和郡伊方町
＊	白い石積の段々畑と宇和海	しろいしづみのだんだんばたけとうわかい	愛媛県 東宇和郡明浜町
	吉田町の段々畑とリアス式海岸	よしだまちのだんだんばたけとりあすしきかいがん	愛媛県 北宇和郡吉田町
	有明海西岸のミカン園	ありあけかいせいがんのみかんえん	佐賀県 鹿島市、藤津郡太良町
＊	大瀬戸町の柳の防風垣	おおせとちょうのやなぎのぼうふうがき	長崎県 西彼杵郡大瀬戸町
＊	愛野町のジャガイモ畑	あいのちょうのじゃがいもばたけ	長崎県 南高来郡愛野町
	南串山町の段々畑	みなみくしやまちょうのだんだんばたけ	長崎県 南高来郡南串山町
	三井楽町の円畑	みいらくまちのえんばた	長崎県 南松浦郡三井楽町
	仁王谷の茶畑	におうだにのちやばたけ	熊本県 下益城郡中央町
＊	鶴見町のシシ垣	つるみまちのししがき	大分県 南海部郡鶴見町
	米水津村のシシ垣	よのうづむらのししがき	大分県 南海部郡米水津村
＊	蒲江町のシシ垣	かまえちょうのししがき	大分県 南海部郡蒲江町
＊	小湊集落と畑地のソテツ	こみなとしゅうらくとはたちのそてつ	鹿児島県 名瀬市
	玉虫野の茶園と竹屋ヶ尾	たまむしののちやえんとたかやがお	鹿児島県 加世田市
＊	金見のソテツ群と畑	かなみのそてつぐんとはたけ	鹿児島県 大島郡徳之島町
＊	沖永良部島のタイモ畑	おきのえらぶじまのたいもばたけ	鹿児島県 大島郡知名町

重要地域	地 域	よみがな	所在地
------	-----	------	-----

I－3 草地景観

＊	牧場と日高山脈の山並み	ほくじょうとひだかさんみやくのやまなみ	北海道 三石郡三石町
	阿原山牧野	あばらやまほくや	岩手県 江刺市
＊	小岩井農場	こいわいのうじょう	岩手県 岩手郡雫石町
	西蔵王放牧場	にしざおうほうほくじょう	山形県 山形市
＊	平村の茅場と茅刈り風景	たいらむらのかやばとかやかりふうけい	富山県 東砺波郡平村
	長野牧場	ながのほくじょう	長野県 佐久市
＊	北御牧の野馬除け跡	きたみまきののまよけあと	長野県 北佐久郡北御牧村
＊	牧の入茅場	まきのいりかやば	長野県 北安曇郡小谷村
＊	朝霧高原の牧草地	あさぎりこうげんのほくそうち	静岡県 富士宮市
＊	大室山	おおむろやま	静岡県 伊東市
	神宮の茅場	じんぐうのかやば	三重県 度会郡度会町
	河合谷高原放牧場	かわいだにこうげんほうほくじょう	鳥取県 岩美郡国府町
＊	蒜山高原	ひるぜんこうげん	岡山県 真庭郡川上村、真庭郡八束村
	恩原牧場上ノ成ル	おんばらほくじょううえのなる	岡山県 苫田郡上齋原村
＊	角島の放牧	つのしまのほうほく	山口県 豊浦郡豊北町
＊	都井岬	といみさき	宮崎県 串間市
	額娃野の放牧場	えいののほうほくじょう	鹿児島県 揖宿郡額娃町

重要 地域	地 域	よみがな	所在地
----------	-----	------	-----

Ⅱ-4 森林景観

	屏風山の黒松林	びょうぶやまのくろまつりん	青森県	西津軽郡木造町
*	車力村の海岸防災林	しやりきむらのかいがんぼうさいりん	青森県	西津軽郡車力村
*	七里長浜の防砂林	しちりながはまのぼうさりん	青森県	北津軽郡市浦村
	吉田・馬洗場の漆植栽地	よしだ・うまあらいばのうるししょくさいち	岩手県	二戸郡浄法寺町
	津山町の杉林	つやまちょうのすぎばやし	宮城県	本吉郡津山町
	能代の砂防林	のしろのさぼうりん	秋田県	能代市
	長木沢杉林	ながきさわすぎばやし	秋田県	大館市
*	矢立峠の秋田杉林	やたてとうげのあきたすぎばやし	秋田県	大館市
	奥羽本線関根一号林	おうほうほんせんせきねいちごうりん	山形県	米沢市
	大洗海岸の松林	おおあらいかいがんのまつばやし	茨城県	東茨城郡大洗町
	八溝山の杉木立	やみぞさんのすぎこだち	茨城県	久慈郡大子町
	山武杉のある景観	さんぶすぎのあるけいかん	千葉県	山武郡山武町
	宮島杉	みやじますぎ	富山県	小矢部市
	八田の松林	はったのまつばやし	石川県	松任市
*	北山杉の林業景観	きたやまさぎのりんぎょうけいかん	京都府	京都市、北桑田郡京北町
	美濃山の竹林	みのやまのちくりん	京都府	八幡市
	下多古の森	しもたこのもり	奈良県	吉野郡川上村
*	吉野杉の林業景観	よしのすぎのりんぎょうけいかん	奈良県	吉野郡川上村
	煙樹ヶ浜	えんじゅがはま	和歌山県	日高郡美浜町
	発心門の杉林	ほっしんもんのすぎばやし	和歌山県	東牟婁郡本宮町
*	魚梁瀬の林業景観	やなせのりんぎょうけいかん	高知県	安芸郡馬路村
	琴ヶ浜松原	ことがはままつばら	高知県	安芸群芸西村
	佐賀平野東部のハゼノキ	さがへいやとうぶのはぜのき	佐賀県	三養基郡中原町
	赤坊の谷	あかぼうのたに	長崎県	東彼杵郡東彼杵町
*	菊池川とハゼ並木	きくちがわとはぜなみき	熊本県	玉名市
	櫛来のシイタケホダ場	くしくのしいたけほだば	大分県	東国東郡国見町
	諸塚村のモザイク林相	もろつかそんのもざいくりんそう	宮崎県	東臼杵郡諸塚村

重要地域	地 域	よみがな	所在地
------	-----	------	-----

I－5 漁場景観・漁港景観・海浜景観

*	別海町の打瀬船	べっかいちやうのうたせぶね	北海道 野付郡別海町
	知床半島の番屋と羅臼・氷海のスケソ漁及びワシ類越冬域	しれとこはんとうのばんやとらうす・ひようかいのすけそりようおよびわしるいえつとういき	北海道 目梨郡羅臼町
	小袖海岸の海女	こそでかいがんのあま	岩手県 久慈市
	山田湾の養殖筏	やまだわんのようしよくいかだ	岩手県 下閉伊郡山田町
	小網倉湾と養殖牡蠣筏	こあみくらわんとようしよくかきいかだ	宮城県 牡鹿郡牡鹿町
	由利海岸の波除け石垣	ゆりかいがんのなみよけいしがき	秋田県 由利郡仁賀保町
*	赤見台基石浦の鵜捕り場	あかみだいごいしうらのうとりば	茨城県 多賀郡十王町
	金田の簀立	かねだのすだて	千葉県 木更津市
*	富津の海苔養殖	ふつつのりようしよく	千葉県 富津市
	加茂湖に浮かぶ牡蠣の養殖筏	かもこにかぶかきのようしよくいかだ	新潟県 両津市
*	大敷網	おおしきあみ	富山県 氷見市
	清水町の揚げ浜式塩田	しみずちやうのあげはましきえんでん	石川県 珠洲市
	能登島半浦の石積防波堤	のとじまはのうらのいしづみぼうはてい	石川県 鹿島郡能登島町
	吉田沖の海苔養殖漁場	よしだおきののりようしよくぎょじよう	愛知県 幡豆郡吉良町
*	伊勢湾松阪沖の海苔ひび	いせわんまつさかおきののりひび	三重県 松阪市
	志摩の海苔ひび	しまのりひび	三重県 志摩郡志摩町
	井田の地曳網	いだのじびきあみ	三重県 南牟婁郡紀宝町
	海津の石積み護岸	かいづのいしづみごがん	滋賀県 高島郡マキノ町
	間人海岸と漁火	たいざかいがんといさりび	京都府 竹野郡丹後町
	久美浜湾内の牡蠣棚	くみはまわんないのかきだな	京都府 熊野郡久美浜町
*	成ヶ島と由良湾	なるがしまとゆらわん	兵庫県 洲本市
	瀬戸内海の底引き船団の出漁	せとないかいのそびきせんだんのしゅつりよう	岡山県 浅口郡寄島町
	吉和港	よしわこう	広島県 尾道市
	鞆の港湾施設	とものこうわんしせつ	広島県 福山市
*	アビ渡来群遊海面	あびとらいぐんゆうかいめん	広島県 豊田郡豊浜町
	豊島の家船	とよしまのいえぶね	広島県 豊田郡豊浜町
	飯井の石積防波堤	いいのいしづみぼうはてい	山口県 萩市
	水床湾周辺の漁場	みとこわんしゅうへんのぎょじよう	徳島県 海部郡穴喰町
	おおて	おおて	香川県 高松市
	西条市の干潟の海苔養殖	さいじようしのひがたののりようしよく	愛媛県 西条市
	北灘湾の夕日と養殖いけす	きたなだわんのゆうひとようしよくいけす	愛媛県 北宇和郡津島町
	西海町の養殖風景と石垣	さいかいちやうのようしよくふうけいといしがき	愛媛県 南宇和郡西海町
	柏島の石堤	かしわじまのせきてい	高知県 幡多郡大月町
	諫早湾のすくい漁場	いさはやわんのすくいぎょじよう	長崎県 北高来郡高来町
*	出水のケタ打瀬漁	いずみのけたうたせりよう	鹿児島県 出水市
*	竜郷町の垣漁	たつごうちやうのかきりよう	鹿児島県 大島郡龍郷町
*	小浜島の手垣	こはまじまのうみがき	沖縄県 八重山郡竹富町

重要地域	地 域	よみがな	所在地
------	-----	------	-----

I－6 河川景観・池沼景観・湖沼景観・水路景観 （その１）

	稲生川用水路	いなおいがわようすい	青森県 十和田市
	蟹田のしろうお漁	かにたのしろうおりょう	青森県 東津軽郡蟹田町
*	中里町の冬の草原	なかざとまちのふゆのあしわら	青森県 北津軽郡中里町
	廻堰用水路	まわりぜきようすい	青森県 北津軽郡鶴田町
*	十三湖の景観	じゅうさんこのけい かん	青森県 北津軽郡市浦村
	小川原湖の氷下曳網漁	おがわぼらこのしがびきあみりょう	青森県 上北郡東北町
	六ヶ所村のマテ小屋	ろつかしよむらのまてごや	青森県 上北郡六ヶ所村
	照井堰	てるいぜき	岩手県 一関市
*	小山田川の箕堰	おやまだがわのみのぜき	宮城県 栗原郡瀬峰町
*	山本町のじゅんさい採り	やまもとちやうのじゅんさいとり	秋田県 山本郡山本町
	久慈川の鮎漁	くじかわのあゆりょう	茨城県 久慈郡大子町
	久那瀬の梁	くなせのやな	栃木県 那須郡馬頭町
	健武ゆりがねの梁	たけぶゆりがねのやな	栃木県 那須郡馬頭町
	堀工の草原景観	ほりくのよしはらけい かん	群馬県 館林市
	雄川堰	おがわぜき	群馬県 甘楽郡甘楽町
	利根川と谷田川の柴焼き	とねがわとやたがわのしばやき	群馬県 邑楽郡板倉町
	赤岩の渡船	あかゐのわたしぶね	群馬県 邑楽郡千代田町
	関宿	せきやど	千葉県 野田市
	手賀沼の漁業	てがぬまのぎょぎょう	千葉県 我孫子市
	福島潟	ふくしまがた	新潟県 豊栄市
	村岡のじゅんさい採り	むらおかゐのじゅんさいとり	新潟県 北蒲原郡笹神村
	舟見野用水	ふなみのようすい	富山県 下新川郡入善町
	南川のいさざ漁	みなみがわのいさざりょう	福井県 小浜市
	天竜川の鮎釣り	てんりゅうがわのあゆつり	静岡県 浜北市
	柿田川	かきたがわ	静岡県 駿東郡清水町
	犬上川用水	いぬかみがわようすい	滋賀県 犬上郡甲良町
	狭山池	さやまいず	大阪府 大阪狭山市
	滝野の闘龍灘	たきののとうりゅうなだ	兵庫県 加東郡滝野町
*	稲美町のため池群	いなみちやうのためいけぐん	兵庫県 加古郡稲美町
	熊野川のスキ追い漁	くまのがわのすきおいりょう	和歌山県 東牟婁郡熊野川町
	湖山池の石がま漁	こやまいけのいしがまりょう	鳥取県 鳥取市
	陰田地区堤群	いんだちくつつみぐん	鳥取県 米子市
	東郷湖のシジミ漁	とうごうこのしじみりょう	鳥取県 東伯郡羽合町
	三朝温泉の河原風呂	みさきおんせんのかわらぶろ	鳥取県 東伯郡三朝町
	高津川のアユ釣り	たかつがわのあゆつり	島根県 益田市

重要 地域	地 域	よみがな	所在地
----------	-----	------	-----

I－6 河川景観・池沼景観・湖沼景観・水路景観 （その2）

＊	神西湖のシジミ漁など漁撈風景	じんざいこのしじみょうなどぎょうふうけい	島根県 簸川郡湖陵町
	三次の鵜飼	みよしのうかい	広島県 三次市
＊	松本川のしろ魚漁	まつもとがわのしろうおりょう	山口県 萩市
	栗野川の川漁	あわのがわのかわりょう	山口県 豊浦郡豊北町
	黄金川の川茸採り	こがねがわのかわたけとり	福岡県 甘木市
	裂田溝	さくたのうなで	福岡県 筑紫郡那珂川町
	桃川の馬ノ頭	もものかわのうまんかしら	佐賀県 伊万里市
	蛇行する六角川と直線水路	だこうするろっかくがわとちよくせんすいろ	佐賀県 杵島郡大町町
	四ツ池・三井木場堤アーチ式堤防	よついいけ・みついいこばつつみあーちしきていぼう	長崎県 東彼杵郡東彼杵町
	田代用水	たしろようすい	熊本県 人吉市
	楠浦町の堀り切り干拓	くすうらちょうのほりきりかんたく	熊本県 本渡市
＊	宇土の轟水源と轟泉水道	うとのとどろきすいげんとごうせんすいどう	熊本県 宇土市
＊	川原園井堰の柴かけ	かわはらぞのいぜきのしばかけ	鹿児島県 肝属郡串良町

重要地域	地 域	よみがな	所在地
------	-----	------	-----

I-7 集落に関連する景観（その1）

	藤枝の茅葺き集落	ふじえだのかやぶきしゅうらく	青森県 北津軽郡金木町
	西浜のカッチョ	にしはまのかっちょ	青森県 北津軽郡市浦村
	鍋倉集落	なべくらしゅうらく	岩手県 花巻市
*	胆沢扇状地の散村景観	いさわせんじょうちのさんそんけい かん	岩手県 胆沢郡胆沢町
	北ノ又茅葺集落	きたのまたかやぶきしゅうらく	秋田県 南秋田郡五城目町
	仙北平野の散村景観	せんぼくへいやのさんそんけい かん	秋田県 北秋田郡仙北町
*	飯豊の散居集落	いいででのさんきよしゅうらく	山形県 西置賜郡飯豊町
	しな織の里関川集落	しなおりのさとせきかわしゅうらく	山形県 西田川郡温海町
	梁川のあんぽ柿を干す集落	やながわのあんぽがきをほすしゅうらく	福島県 伊達郡梁川町
*	大谷石の景観	おおやいし の けい かん	栃木県 宇都宮市
	総社山王地区の民家と櫓ぐね	そうじゃさんのうちくのみんかとかしぐね	群馬県 前橋市
	堀工の屋敷林	ほりくのやしきりん	群馬県 館林市
*	那須集落の段々畑と石垣	なすしゅうらくのだんだんばたけといしがき	群馬県 甘楽郡甘楽町
	浮野の里	うきのさと	埼玉県 加須市
*	佐原市の水郷の水田と集落	さはらしのすいごうのすいでんとしゅうらく	千葉県 佐原市
*	鋸山採石場跡	のこぎりやまいせきじょうあと	千葉県 富津市
	布鎌の水塚のある集落	ふかまのみづかのあるしゅうらく	千葉県 印旛郡栄町
*	富浦町の真木の生垣	とみうらちようのまきのいけがき	千葉県 安房郡富浦町
	丸山町の真木の生垣	まるやまちょうのまきのいけがき	千葉県 安房郡丸山町
	志木街道のけやき並木と屋敷林	しきかい どの けやき なみき と やしきりん	東京都 清瀬市
	大沢の間垣	おおさわのまがき	石川県 輪島市
*	東谷地区の集落	ひがしだにちくのしゅうらく	石川県 江沼郡山中町
	志賀町のころ柿の集落	しがちょうのころがきのしゅうらく	石川県 羽咋郡志賀町
*	松里のコロガキを干す集落	まつさとのころがきをほすしゅうらく	山梨県 塩山市
	芦川村の石垣	あしがわむらのいしがき	山梨県 東八代郡芦川村
*	安曇野の田園風景	あずみの の でん えん ふう けい	長野県 南安曇郡三郷村
	千国真木集落	ちくにまきしゅうらく	長野県 北安曇郡小谷村
	蜂屋柿作りの集落	はちやがきづくりのしゅうらく	岐阜県 美濃加茂市
	時山の階段集落	ときやまのかい だん しゅうらく	岐阜県 養老郡上石津町
	西伊豆海岸の農村集落	にし い ず かい べん の のう さん しゅうらく	静岡県 加茂郡西伊豆町
	西伊豆海岸の漁村集落	にし い ず かい べん の ぎょ さん しゅうらく	静岡県 加茂郡西伊豆町
	坂本の石垣	さかもとのいしがき	滋賀県 大津市
	菅浦の集落	すがうらのしゅうらく	滋賀県 伊香郡西浅井町
	伊根の舟屋	いねのふなや	京都府 与謝郡伊根町
	加美町の和紙づくり	かみちょうのわしづくり	兵庫県 多可郡加美町
	高山の寒干し	たかやまのかんばし	奈良県 生駒市
	深野神明神社の鎮守の森と集落	ふかのしんめいじんじやのちんじゆのもりとしゅうらく	奈良県 宇陀郡室生村

重要地域	地 域	よみがな	所在地
------	-----	------	-----

I－7 集落に関連する景観（その2）

	国栖の里	くずのさと	奈良県 吉野郡吉野町
	四郷の串柿	しごうのくしがき	和歌山県 伊都郡かつらぎ町
	板井原集落	いたいばらしゆうらく	鳥取県 八頭郡智頭町
	戸田柿本神社周辺の農村	とたかきのもとじんじゃしゆうへんののうそん	島根県 益田市
	小伊津の漁村集落	こいつのぎょそんしゆうらく	島根県 平田市
	青石畳通り	あおいしだみどおり	島根県 八束郡美保関町
	横野紙すきの里	よこのかみすきのさと	岡山県 津山市
	中谷の石倉	なかのたにのいしくら	徳島県 麻植郡美郷村
*	外泊の石垣集落	そとどまりのいしがきしゆうらく	愛媛県 南宇和郡西海町
*	椿の生垣集落	つばきのいしがきしゆうらく	高知県 土佐清水市
*	立川の椿・三極蒸し	たちかわのこうぞ・みつまたむし	高知県 長岡郡大豊町
	鹿島の草葺きの農家集落	かしまのくさぶきののうかしゆうらく	佐賀県 鹿島市
	倉岳町棚底の石垣群	くらたけまちたなそこのいしがきぐん	熊本県 天草郡倉岳町
	傾山系と上畑集落	かたむきさんけいとうわはたしゆうらく	大分県 大野郡緒方町
	木野台地の防風の生垣	きのだいちのぼうふうのいしがき	大分県 大野郡緒方町
	安心院町の農村集落と鰻絵	あじきちょうののうそんしゆうらくとこてえ	大分県 宇佐郡安心院町
	椎葉村の猪狩り	しいばむらのいのししがり	宮崎県 東臼杵郡椎葉村
	垂水の漁村と櫻島	たるみずのぎょそんとさくらじま	鹿児島県 垂水市
	トンボロ	とんぼろ	鹿児島県 薩摩郡里村
	祖納集落	そないしゆうらく	沖縄県 八重山郡与那国町

重要地域	地 域	よみがな	所在地
------	-----	------	-----

Ⅱ－１ 古来より信仰や行楽の対象となってきた景観

	嵐山	あらしやま	北海道 旭川市
	神野山	こうのやま	奈良県 山辺郡山添村
	蘇陽峡	そようきょう	熊本県 阿蘇郡蘇陽町
＊	開聞岳	かいもんだけ	鹿児島県 揖宿郡開聞町

Ⅱ－２ 古来より芸術の題材や創造の背景となってきた景観

＊	松川浦	まつかわうら	福島県 相馬市
	男体山	なんたいさん	茨城県 久慈郡大子町
	久米路峡	くめじきょう	長野県 信州新町
	大和三山	やまとさんざん	奈良県 橿原市
	三輪山・纏向山	みわやま・まきむくやま	奈良県 桜井市
	小倉ヶ浜	おぐらがはま	宮崎県 日向市

Ⅱ－３ 独特の気象によって現れる景観

＊	黒崎のやませ	くろさきのやませ	岩手県 下閉伊郡普代村、九戸郡野田村
	庄内浜の波の華	しょうないはまのなみのはな	山形県 鶴岡市
＊	飯豊連邦の寝牛と白馬の雪形	いいでれんぽうのねうしとはくばのゆきがた	福島県 耶麻郡山都町
	守門岳の雪形	しゅもんだけのゆきがた	新潟県 北魚沼郡守門村
	僧ヶ岳の雪形	そうがたけのゆきがた	富山県 魚津市、黒部市、下新川郡宇奈月町
	曾々木の波の花	そそぎのなみのはな	石川県 輪島市
	甲府盆地の霧	こうふぼんちのきり	山梨県 甲府市
	千曲川の川霧	ちくまがわのかわぎり	長野県 長野市
	笠ヶ岳と乗鞍岳の雪形	かさがたけとのりくらだけのゆきがた	岐阜県 高山市
	笠ヶ岳の馬の雪形	かさがたけのうまのゆきがた	岐阜県 吉城郡上宝村
	尾呂志の朝霧と水田	おろしのあさぎりとすいでん	三重県 南牟婁郡御浜町

重要地域	地 域	よみがな	所在地
------	-----	------	-----

Ⅱ-4 習俗・行事などによって現れる景観

	枝成沢虫まつり	えだなりさわむしまつり	岩手県 久慈市
	中沢の虫追い祭り	なかざわのむしおいまつり	岩手県 二戸市
	小豆沢のオジナオバナ	あずきさわのおじなおバナ	秋田県 鹿角市
	能登島向田の火祭	のとじまこうだのひまつり	石川県 鹿島郡能登島町
	塩田平の雨乞い	しおだいらのあまごい	長野県 上田市
	阿久比谷虫供養	あぐいだにむしきよう	愛知県 知多郡阿久比町
	五山の送り火	ござんのおくりび	京都府 京都市
	極楽寺の虫送り	ごくらくじのむしおくり	和歌山県 日高郡南部川村
	壬生の花田植	みぶのはなだうえ	広島県 山県郡千代田町
	野見の潮ばかり	のみのしおばかり	高知県 須崎市
	かんこ踊	かんこおどり	佐賀県 杵島郡山内町
	祁答院の田の神祭り	けどういんのたのかみまつり	鹿児島県 薩摩郡祁答院町
	種子島宝満神社の御田植え祭り	たねがしまほうまんじんじやのおたうえまつり	鹿児島県 熊毛郡南種子町
	港川ハーレー	みなとがわはーれー	沖縄県 島尻郡具志頭村
	御穂田と親田御願	みふーだーとうえーだうがん	沖縄県 島尻郡玉城村

Ⅲ 伝統的産業や生活を示す文化財の周辺の景観

	上山市のめがね橋	かみのやましのめがねばし	山形県 上山市
*	西広堰	にしひろぜき	千葉県 市原市
	信玄堤	しんげんづつみ	山梨県 中巨摩郡竜王町
*	木津川の流れ橋	きづがわのながればし	京都府 八幡市
*	蓼川井堰	たでかづいせき	兵庫県 城崎郡日高町
	三刀屋町の潜水橋	みとやちようのせんすいきょう	島根県 飯石郡三刀屋町
	朝倉の水車	あさくらのみすゐ	福岡県 朝倉郡朝倉町
*	山田堰	やまだぜき	福岡県 朝倉郡朝倉町
*	石井樋及び多布施川	いしいびおおよびたぶせがわ	佐賀県 佐賀市、佐賀郡大和町
*	緑川流域石橋群	みどりかわりゅういきいしばしぐん	熊本県 下益城郡中央町、上益城郡矢部町
*	緒方の石橋群	おがたのいしばしぐん	大分県 大野郡緒方町
*	院内町石橋群	いんないまちいしばしぐん	大分県 宇佐郡院内町

重要地域	複 合 地 域	分 類	種 別	地 域	よみがな	所在地
------	---------	-----	-----	-----	------	-----

Ⅳ 複合景観（その１）

*	十勝平野 （とかちへいや） 明治時代に開墾された広大な耕作地で、複数の種類の作物と防風林によって作られるモザイク模様の景観が展開している。	I	2	十勝平野の農園における農耕地内の孤立林群	とかちへいやのうえんにおけるのこうちないのこりつりんぐん	北海道 帯広市
		I	2	十勝平野の農園における300間間隔の圃場	とかちへいやのうえんにおけるさんびやつけんかんかくのほじょう	北海道 帯広市
		I	2	帯広市の耕地防風林	おびひろしのこうちぼうふうりん	北海道 帯広市
		I	2	十勝平野の農園	とかちへいやのうえん	北海道 河西郡中札内村
		I	2	十勝平野の農園	とかちへいやのうえん	北海道 河西郡更別村
		I	2	十勝平野の農園	とかちへいやのうえん	北海道 広尾郡忠類村
		I	2	十勝平野の農園	とかちへいやのうえん	北海道 広尾郡大樹町
*	富良野盆地 （ふらのぼんち） 明治の開拓にはじまる低地の水田と丘陵の畑地が一体となって個性ある景観を形成している。	I	2	富良野盆地の畑地景観	ふらのぼんちのはたちけい かん	北海道 富良野市
		I	2	富良野盆地の畑地景観	ふらのぼんちのはたちけい かん	北海道 空知郡上富良野町
		I	2	富良野盆地の畑地景観	ふらのぼんちのはたちけい かん	北海道 空知郡中富良野町
*	襟裳岬 （えりもみさき） えりも岬周辺の独特の美しい海岸線を背景に、昔ながらの祭や放牧が一体となって個性ある景観を形成している。	I	3	海岸段丘におけるえりも短角牛の放牧	かい かん だんきゅうにおけるえりもたんかくぎゅうのほうぼく	北海道 帆泉郡えりも町
		I	4	百人浜の緑化地帯	ひやくにんはまのりょつかちたい	北海道 帆泉郡えりも町
		I	5	襟裳岬の風景	えりもみさきのふうけい	北海道 帆泉郡えりも町
		I	6	えりものコンブ漁風景	えりものこんぶりようふうけい	北海道 帆泉郡えりも町
		II	4	襟裳神社祭典の神輿渡御	えりもじんじやさいてんのみこしとぎょ	北海道 帆泉郡えりも町
		II	4	船霊様祭典	ふなたまささいてん	北海道 帆泉郡えりも町
*	下北半島のヒバ林 （しもきたはんとうのひばやし） 江戸時代から継続する天然林施業のヒバ林を中心とした景観が展開している。	I	4	大畑町のヒバの切り出し	おおはたちょうのひばのきりだし	青森県 下北郡大畑町
		I	4	佐井村のヒバの切り出し	さいむらのひばのきりだし	青森県 下北郡佐井村
*	宮沢賢治に関連する文化的景観 （みやざわけんじにかんれんするぶんかてきけいかん） 岩手山麓を中心に、農業の実践者としても名高い宮沢賢治の作品の母胎となった様々な農林水産業に関連する文化的景観が展開している。	I	1	七ツ森からの雫石盆地	ななつもりからのしずくいしぼんち	岩手県 岩手郡雫石町
		I	3	種山高原	たねやまこうげん	岩手県 江刺市
		I	4	羅須地人協会跡と森林	らすちじんきょうかいあととしんりん	岩手県 花巻市
		I	6	イギリス海岸	いぎりすかい かん	岩手県 花巻市
		II	3	岩手山の雪形	いわてさんのゆきがた	岩手県 岩手郡滝沢村
		III		下宮守のめがね橋	しもみやもりのめがねばし	岩手県 上閉伊郡宮守村
*	遠野 （とおの） 柳田国男の民俗学研究のフィールドとして有名になった遠野地域は、農山村地域に伝わる昔からの習俗、伝承及び民話等に関連する文化的景観が展開している。	I	3	荒川高原放牧地	あらかわこうげん ほうぼくち	岩手県 遠野市
		I	7	遠野の農村集落	とおののうそんしゅうらく	岩手県 遠野市
		I	7	ダンノハナとデンデラ野	だんのはなとでんでの	岩手県 遠野市
		I	7	遠野のムカイトログのある茅葺き集落	とおののむかいとろげのあるかやぶきしゅうらく	岩手県 遠野市
		II	2	早池峰山及び薬師岳	はやちねさんおよびやくしだけ	岩手県 遠野市

重要 地域	複 合 地 域	分 類	種 別	地 域	よみがな	所在地
----------	---------	--------	--------	-----	------	-----

Ⅳ 複合景観（その２）

	金華山島 (きんかざんとう)	Ⅳ		金華山島	きんかざんとう	宮城県 牡鹿郡牡鹿町
	志津川湾 (しづがわわん)	Ⅰ	5	志津川湾内に広がる養殖筏群	しづがわわんないのひろがる ようしよくいかだぐん	宮城県 本吉郡志津川町
		Ⅰ	5	志津川湾内の朝焼けのアワビ漁	しづがわわんないのあさやけの あわびりょう	宮城県 本吉郡志津川町
	八郎潟 (はちろうがた)	Ⅰ	1	大潟村の大規模営農の水田	おおがたむらのだいきぼ えいのうのすいでん	秋田県 南秋田郡大潟村
*	干拓によって形成された広大な農業地帯に整然とした水田や集落の景観が展開している。	Ⅰ	2	桃の木台砂丘と八郎潟	もものきだいさきゅうと はちろうがた	秋田県 南秋田郡天王町
		Ⅰ	7	大潟村の整然とした総合中心地の集落	おおがたむらのせいぜんとした そうごうちゅうしんちのしゅうらく	秋田県 南秋田郡大潟村
	庄内平野 (しょうないへいや)	Ⅰ	1	庄内平野の風景	しょうないへいやのふうけい	山形県 鶴岡市
*	庄内平野に広がる水田及び砂防林が個性ある景観を形成している。	Ⅰ	1	水田の広がる庄内平野	すいでんのひろがる しょうないへいや	山形県 飽海郡松山町
		Ⅰ	4	庄内砂丘と砂防林	しょうないさきゅうとさぼうりん	山形県 鶴岡市
	最上川 (もがみがわ)	Ⅰ	1	最上川と今宿集落及び田圃	もがみがわいましゆくしゅうらく およびたんぼ	山形県 北村山郡大石田町
		Ⅰ	6	最上川の梁	もがみがわのやな	山形県 西村山郡大江町
*	風光明媚な景勝地として、古来から絵画や詩の題材として取り上げられてきた河川の流域に、様々な伝統的漁業に関連する景観が展開している。	Ⅰ	6	最上川のやつめど漁	もがみがわのやつめどりょう	山形県 東田川郡立川町
		Ⅱ	1	最上川	もがみがわ	山形県 西村山郡大江町
		Ⅱ	2	最上川と周辺の里山	もがみがわとしゅうへんのさとやま	山形県 北村山郡大石田町
		Ⅱ	2	最上川と大浦の田園	もがみがわとおおうらのでんえん	山形県 北村山郡大石田町
		Ⅱ	2	最上峡の景観	もがみきょうのけいがん	山形県 最上郡戸沢村
	安積疏水 (あさかそすい)	Ⅰ	6	安積疏水	あさかそすい	福島県 耶麻郡猪苗代町
*	干拓のための用水並びにその流域に展開する水利施設及び広大な耕地が一体となり、個性ある景観が形成されている。	Ⅲ		十六橋水門	じゅうろつきょうすいもん	福島県 耶麻郡猪苗代町、河沼郡河東町
	霞ヶ浦 (かすみがうら)	Ⅰ	2	霞ヶ浦沿岸のハス田	かすみがうらえんがのはすだ	茨城県 土浦市
*	低湿地を活かしたハスの栽培等により、霞ヶ浦を中心とした広い地域に個性ある景観が形成されている。	Ⅰ	5	天王崎の夕照	てんのうざきのゆうしょう	茨城県 行方郡麻生町
		Ⅰ	6	宍塚大池	ししつかおおいけ	茨城県 土浦市
		Ⅱ	2	高浜の入り	たかはまのいり	茨城県 石岡市
	那須疏水 (なすそすい)	Ⅰ	6	那須疏水旧サイフォン出口	なすそすいきゅうさいふおんでぐち	栃木県 那須郡塩原町
*	明治時代に開拓された疎水流域と点在する開発当初の水利施設が一体の景観を形成している。	Ⅰ	6	墓沼用水旧取水口	ひきぬまようすいきゅうしゅすいぐち	栃木県 那須郡塩原町

重要地域	複 合 地 域	分 類	種 別	地 域	よみがな	所在地
------	---------	-----	-----	-----	------	-----

Ⅳ 複合景観（その３）

*	渡良瀬遊水地 （わたらせゆうすいち） 景観及び自然保全のために行われている 葦焼きを中心として、早春の風物詩となる 景観が展開している。	I	1	飯野の川田	いいののかわだ	群馬県 邑楽郡板倉町
		I	6	渡良瀬遊水地の葦焼き	わたらせゆうすいちのよしやき	栃木県 小山市
		I	6	渡良瀬遊水地の葦焼き	わたらせゆうすいちのよしやき	栃木県 下都賀郡藤岡町
		I	6	渡良瀬遊水地の葦焼き	わたらせゆうすいちのよしやき	群馬県 邑楽郡板倉町
		I	6	谷田川サイフォン	やたがわさいふおん	群馬県 邑楽郡板倉町
		III		合ノ川橋	あいのかわはし	群馬県 邑楽郡板倉町
		III		谷田川第一排水機場	やたがわだいいちはいすいきじょう	群馬県 邑楽郡板倉町
*	三富新田 （さんとめしんでん） 江戸初期に開かれた広大な畑地、屋敷林 及び平地林から成る地割が個性ある景観 を形成している。	I	2	三富開拓地割遺跡	さんとめかいたくじわりいせき	埼玉県 所沢市
		I	2	三富開拓地割遺跡	さんとめかいたくじわりいせき	埼玉県 入間郡三芳町
*	野火止用水 （のびどめようすい） 江戸時代に築かれた農業用水の景観が 長大な範囲で遺存し、一連の景観を形成 している。	I	6	野火止用水	のびどめようすい	埼玉県 新座市
		I	6	野火止用水	のびどめようすい	東京都 立川市
		I	6	野火止用水	のびどめようすい	東京都 小平市
		I	6	野火止用水	のびどめようすい	東京都 東村山市
		I	6	野火止用水	のびどめようすい	東京都 東大和市
		I	6	野火止用水	のびどめようすい	東京都 清瀬市
		I	6	野火止用水	のびどめようすい	東京都 東久留米市
	木地屋の里 （きじやのさと） 木地屋の生業を背景として、集落、田畑、 植林地及び水源池等がまとまった景観を 形成している。	IV		木地屋の里	きじやのさと	新潟県 糸魚川市
*	砺波平野の散村 （となみへいやのさんそん） 砺波平野全体にわたって、水田にかこま れた屋敷林のある散居が点在し、個性あ る散村景観を形成している。	I	7	砺波平野の散村	となみへいやのさんそん	富山県 小矢部市、砺波市、 東砺波郡庄川町、 東砺波郡福野町、 西砺波郡福光町
*	黒部川扇状地 （くろべがわせんじょうち） 度重なる洪水を背景として、生活を守るた めの様々な土地利用が行われてきたこと をいまに伝える景観が展開している。	I	6	霞堤と水田の景観	かすみていとすいでんのけいかん	富山県 黒部市
		I	6	黒部川扇状地の旧堤防跡	くろべがわせんじょうちの きゅうていぼうあと	富山県 下新川郡入善町
		I	7	黒部川扇状地の散居村	くろべがわせんじょうちの さんきょそん	富山県 黒部市、 下新川郡入善町
*	灘浦 （なだら） 中世から行われている富山湾の定置網漁 と海に面した棚田が個性ある景観を形成 している。	I	5	灘浦地区の定置網	なだらちくのていあみ	石川県 七尾市
		IV		百海の棚田と定置網	どうみのたなだていあみ	石川県 七尾市

重要地域	複 合 地 域	分 類	種 別	地 域	よみがな	所在地
------	---------	-----	-----	-----	------	-----

Ⅳ 複合景観（その４）

*	手取川 （てとりがわ） 江戸時代から行われてきた灌漑事業及び治水事業により豊かな水田地帯の景観が展開している。	I	1	手取川扇状地の水田	てとりがわせんじょうちのすいでん	石川県 石川郡鶴来町
		III		手取川七ヶ用水取水門と給水口	てとりがわしちかようすいしゅすいもんときゅうすいぐち	石川県 石川郡鶴来町
	徳島堰 （とくしまぜき） 釜無川の治水のために築かれた堰と、その周辺に展開する水田や集落が一体の景観を形成している。	IV		徳島堰取水口と円井集落の水田	とくしまぜきしゅすいこうとつぶらいしゅうらくのすいでん	山梨県 韮崎市
*	諏訪湖 （すわこ） 気象現象等を背景としながら育まれてきた伝統的な漁業及び習俗等により、湖を中心とした広い地域に個性ある景観を形成している。	I	1	諏訪湖南部の低湿地地帯	すわこなんぶのていしつでんちたい	長野県 諏訪市
		I	6	諏訪湖の漁撈	すわこのぎょうろう	長野県 諏訪市
		I	6	天井川の懸樋	てんじょうがわのかけひ	長野県 諏訪市
		I	7	諏訪の氷もちを干す風景	すわのこおりもちをほすふうけい	長野県 諏訪市
		II	1	諏訪大社神体山	すわたいしやしんたいさん	長野県 諏訪市
		II	1	旧御射山	もとみさやま	長野県 諏訪市
		II	3	諏訪湖の御神渡	すわこのおみわたり	長野県 諏訪市
		II	3	諏訪湖の水平虹	すわこのすいへいにじ	長野県 諏訪市
		II	4	豊田・中洲の虫祭り	とよだ・なかすのむしまつり	長野県 諏訪市
*	千曲川 （ちくまがわ） 雄大な浅間山や八ヶ岳を背景に河川流域に営まれてきた様々な伝統的漁法によって作り出される景観が展開している。	I	6	千曲川のつけば漁	ちくまがわのつけばりょう	長野県 更埴市
		I	6	千曲川の鮎釣り	ちくまがわのあゆつり	長野県 佐久市
		I	6	千曲川の岩尾堤	ちくまがわのいわおつづみ	長野県 佐久市
		I	6	千曲川のつけば漁	ちくまがわのつけばりょう	長野県 埴科郡戸倉町
*	長良川 （ながらがわ） 鵜飼に代表される伝統的漁業の景観が展開している。	I	6	岐阜市の長良川の鵜飼	ぎふしのながらがわのうかい	岐阜県 岐阜市
		I	6	関市の長良川の小瀬鵜飼	せきしのながらがわのおせうかい	岐阜県 関市
*	輪中 （わじゅう） 度重なる水害に対して生活を守るためにつくられた輪中や水屋を中心とした景観が展開している。	IV		釜笛の水屋群	かまぶえのみずやぐん	岐阜県 大垣市
		IV		長良川・揖斐川流域の輪中地帯	ながらがわ・いびがわりゅういきのわじゅうちたい	岐阜県 安八郡輪之内町
		IV		長島町の輪中	ながしまちょうのわじゅう	三重県 桑名郡長島町
*	伊豆のわさび田 （いずのわさびだ） 江戸時代に築かれた石積の棚田式のわさび田が連なり、個性ある景観が形成されている。	I	2	天城湯ヶ島町の棚場のわさび田	あまぎゆがしまちょうのたなばのわさびだ	静岡県 田方郡 天城湯ヶ島町
		I	2	中伊豆町のわさび田	なかいずちょうのわさびだ	静岡県 田方郡中伊豆町

重要地域	複 合 地 域	分 類	種 別	地 域	よみがな	所在地
------	---------	-----	-----	-----	------	-----

Ⅳ 複合景観（その５）

*	浜名湖 （はまなこ） 独特な地形や潮の流れを生かした様々な伝統的漁法の景観が展開している。	I	6	浜名湖の海苔養殖	はまなこのりようしよく	静岡県 引佐郡舞阪町
		I	6	浜名湖のねこ網漁	はまなこのねこあみりょう	静岡県 浜名郡雄踏町
		I	6	浜名湖のたきや漁	はまなこのたきやりょう	静岡県 浜名郡雄踏町
		I	6	浜名湖の養鰻とメッコ漁	はまなこのようまんとめっこりょう	静岡県 浜名郡雄踏町
		II	2	引佐細江	いなさほそえ	静岡県 浜名郡細江町
*	駿河湾の桜えび漁 （するがわんのさくらえびりょう） 伝統的な桜えび漁を背景として、河川敷に一面に広がる桜えび天日干しの迫力のある景観が展開する。	I	5	蒲原町のさくらえび漁と天日干し	かんばらちやうのさくらえびりょうとてんぴんぼし	静岡県 庵原郡蒲原町
		I	5	駿河湾の桜えび漁	するがわんのさくらえびりょう	静岡県 庵原郡由比町
		I	5	桜えびの水揚げ・競りの行われる大井川港	さくらえびのみずあげ・せりのおこなわれるおおいがわこう	静岡県 志太郡大井川町
*	琵琶湖 （びわこ） 広大な湖畔一帯に営まれる様々な伝統的漁業を背景として、葦原、堀、集落及び農地等が一体の仕組みを持つ景観が展開している。	I	6	琵琶湖の四手網漁	びわこのよつであみりょう	滋賀県 東浅井郡びわ町
		I	6	琵琶湖のえり漁	びわこのえりりょう	滋賀県 高島郡マキノ町
		I	6	琵琶湖のおいさで漁	びわこのおいさでりょう	滋賀県 高島郡マキノ町
		II	2	竹生島	ちくぶじま	滋賀県 東浅井郡びわ町
		II	3	琵琶湖の夕景と夜景	びわこのゆうけいとやけい	滋賀県 東浅井郡びわ町
		III		出島の灯台	でけじまのとうだい	滋賀県 大津市
		III		小舟入の常夜燈	こふないりのじょうやとう	滋賀県 大津市
		IV		西の湖の水郷	にしこのすいごう	滋賀県 近江八幡市
		IV		琵琶湖内湖と八幡堀	びわこないことはちまんぼり	滋賀県 近江八幡市
	宇治川 （うじがわ） 鵜飼等の伝統的な漁業と河川流域に広がる茶園が一体となった景観を形成している。	IV		宇治川の景観	うじがわのけいかん	京都府 宇治市
*	二上山 （にじょうさん） 万葉集にも詠まれ、古代から人々に親しまれ信仰されてきた景観が展開している。	II	1	二上山	にじょうさん	大阪府 南河内郡太子町
		II	1	二上山	にじょうさん	奈良県 北葛城郡當麻町
*	円山川 （まるやまがわ） 害虫駆除のために行われる葦焼きと、古来より歌に詠まれた周辺の自然環境により個性ある景観が展開している。	I	6	円山川の葦原群	まるやまがわのよしわらくん	兵庫県 城崎郡城崎町
		I	6	戸島の葦原と葦焼き	としまのよしわらとよしやき	兵庫県 城崎郡城崎町
		II	2	円山川	まるやまがわ	兵庫県 城崎郡城崎町
	弓ヶ浜 （ゆみがはま） 海岸に広がる黒松の防風林を背景として、古来より多くの文学の題材にもなってきた景観が展開している。	I	4	弓ヶ浜の松林	ゆみがはまのまつばやし	鳥取県 米子市
		II	2	弓ヶ浜海岸	ゆみがはまかいがん	鳥取県 境港市

重要地域	複 合 地 域	分 類	種 別	地 域	よみがな	所在地
------	---------	-----	-----	-----	------	-----

Ⅳ 複合景観 （その6）

*	智頭の杉林 （ちずのすぎばやし） 伝統的な杉の植林地が個性ある景観を形成している。	I	4	ダドコ美林	だどこびりん	鳥取県 八頭郡智頭町
		I	4	大屋の森林景観	おおやのしんりんけいかん	鳥取県 八頭郡智頭町
		I	4	沖の山の植林地	おきのやまのしゅりんち	鳥取県 八頭郡智頭町
*	出雲平野の築地松の散村集落 （いずもへいやのつじまつのさんそんしゅうらく） 広い平野全体に点在する散居とこれに伴う築地松が独特の景観を形成している。	I	7	出雲平野の築地松散村集落	いずもへいやのつじまつさんそんしゅうらく	島根県 出雲市
		I	7	出雲平野の築地松散村集落	いずもへいやのつじまつさんそんしゅうらく	島根県 平田市
		I	7	出雲平野の築地松散村集落	いずもへいやのつじまつさんそんしゅうらく	島根県 簸川郡斐川町
		I	7	出雲平野の築地松散村集落	いずもへいやのつじまつさんそんしゅうらく	島根県 簸川郡大社町
*	隠岐 （おき） 島独特の貴重な自然、農業、漁業及び習俗等の伝統的な営みが一体となり、個性ある景観を形成している。	I	2	赤ハゲの名垣	あかはげのみようがき	島根県 隠岐郡知夫村
		I	2	牧畑	まきはた	島根県 隠岐郡知夫村
		I	3	嶽山山麓の放牧地風景	だけさんさんろくのほうぼくちふうけい	島根県 隠岐郡五箇村
		I	7	卯敷の船小屋群	うずきのふなごやぐん	島根県 隠岐郡布施村
		I	7	久見の防風垣根	くみのぼうふうかきね	島根県 隠岐郡五箇村
		I	7	那久・油井の防風垣根	なぐ・ゆい のぼうふうかきね	島根県 隠岐郡都万村
		I	7	釜屋の船小屋群と高田山	かまやのふなごやぐんとたかだやま	島根県 隠岐郡都万村
		II	4	布施の山祭り	ふせのやままつり	島根県 隠岐郡布施村
		II	4	一夜嶽牛突き大会	いちやがたけうしづきたいかい	島根県 隠岐郡五箇村
		II	4	八朔牛突き大会	はっさくうしづきたいかい	島根県 隠岐郡都万村
*	江の川 （ごうのかわ） 江の川には古来より歌にも詠まれた景観が見られ、流域では伝統的な鮎漁、習俗や祭りなどにより個性ある景観が展開する。	I	6	江の川の投網漁	ごうのかわのとあみりょう	島根県 邑智郡邑智町
		I	6	江の川の火振り漁	ごうのかわのひぶりりょう	島根県 邑智郡大和村
		I	6	江の川の梁漁	ごうのかわのやなりりょう	島根県 邑智郡大和村
		II	2	高角山から見た江の川と角の浦	たかつのやまからみたごうのかわとつこのうら	島根県 江津市
		II	2	辛の崎から見た角の浦と日本海	からさきからみたつののうらとにほんかい	島根県 江津市
		II	2	浅利富士(屋上山)	あさりふじ(やかみのやま)	島根県 江津市
		II	4	ホーランエ	ほーらんえ	島根県 江津市
		II	4	川戸の水神祭り	かわどのみずかみまつり	島根県 邑智郡桜江町
*	宍道湖 （しんじこ） シジミ漁などの伝統的な漁業や湖上での祭りと自然環境とが一体となって個性ある景観を形成している。	I	6	宍道湖のしじみ漁	しんじこのしじみりょう	島根県 松江市
		I	6	矢田の渡し	やだのわたし	島根県 松江市
		I	6	宍道湖の夕景	しんじこのゆうけい	島根県 松江市
		I	6	宍道湖のしじみ漁	しんじこのしじみりょう	島根県 平田市
		I	6	宍道湖のしじみ漁	しんじこのしじみりょう	島根県 八束郡宍道町
		II	4	ホーランエンヤ	ほーらんえんや	島根県 松江市

重要地域	複 合 地 域	分 類	種 別	地 域	よみがな	所在地
------	---------	-----	-----	-----	------	-----

Ⅳ 複合景観（その７）

*	児島湾 （こじまわん） 近世から近代にかけて干拓された広大な農地と漁業の営みが一体となって個性ある景観を形成している。	I	1	前潟の水田	まえがたのすいでん	岡山県 都窪郡早島町
		I	5	児島湾の四つ手網	こじまわんのよつであみ	岡山県 岡山市
		III		片崎樋門	かたさきひもん	岡山県 児島郡灘崎町
		III		宮川樋門	みやかわひもん	岡山県 児島郡灘崎町
		III		常川樋門	つねかわひもん	岡山県 児島郡灘崎町
*	生窓湾 （うしまどわん） 独特の地形を活かした段畑、漁業及び集落が、瀬戸内海の自然環境と一体となって美しい景観を形成している。	I	2	牛窓の段々畑	うしまどのだんだんばたけ	岡山県 邑久郡牛窓町
		I	5	牛窓湾のつぼ網	うしまどわんのつぼあみ	岡山県 邑久郡牛窓町
		II	2	唐琴の瀬戸	からことのせと	岡山県 邑久郡牛窓町
	三津口（灘） （みとくち） 幅の狭い漁場に浮かぶ牡蠣筏と果樹園の段々畑が個性ある景観を形成している。	IV		牡蠣筏と傾斜地のみかんとびわ	かきいかだとけいしゃちのみかんとびわ	広島県 豊田郡安浦町
	広島湾 （ひろしまわん） 島嶼や陸に囲まれた穏やかな海で行われている伝統的な牡蠣養殖を背景として個性ある景観を形成している。	I	5	広島湾の牡蠣筏	ひろしまわんのかきいかだ	広島県 広島市
		I	5	江田島湾の牡蠣筏	えだじまわんのかきいかだ	広島県 佐伯郡能美町
*	油谷町 （ゆやちょう） 向津具半島の斜面に広がる後畑の棚田と油谷湾の漁火が美しい景観を形成している。	IV		後畑の棚田と漁火	うしろばたのたなだといさりび	山口県 大津郡油谷町
		IV		油谷町川尻の防風林のある棚田	ゆやちょうかわしりのぼうふうりんのあるたなだ	山口県 大津郡油谷町
*	見島 （みしま） 山頂まで開かれた棚田と見島和牛の放牧とが個性ある景観を形成している。	IV		見島の棚田と見島ウシの放牧	みしまのたなだとみしまうしのほうぼく	山口県 萩市
*	満濃池 （まんのういけ） 讃岐平野に築かれた広大な灌漑用ため池が阿讃の山並みとともに迫力ある景観を形成している。	I	6	高松市の出水とため池	たかまつしのですいとためいけ	香川県 高松市
		I	6	善通寺市の出水とため池	ぜんつうじしのですいとためいけ	香川県 善通寺市
		I	6	満濃池	まんのういけ	香川県 仲多度郡満濃町
*	水ヶ浦 （みずがうら） 宇和島湾に浮かぶ養殖筏と遊子の斜面全体を覆う段畑が一体となって個性ある景観を形成している。	IV		水ヶ浦の段々畑と漁港	みずがうらのだんだんばたけとぎょう	愛媛県 宇和島市
	忽那諸島 （くつなしょとう） 斜面上部まで築かれたミカン栽培の段々畑とひらめの養殖風景が一体となって個性ある景観を形成している。	IV		上怒和の段々畑と養殖筏	かみぬわのだんだんばたけとようしょくいかけ	愛媛県 温泉郡中島町

重要 地域	複 合 地 域	分 類	種 別	地 域	よみがな	所在地
----------	---------	--------	--------	-----	------	-----

Ⅳ 複合景観（その８）

*	肱川 （ひじかわ） 江戸時代に治水工事として形成された防水林と伝統的漁業の景観が展開している。	I	6	肱川のエノキ樹叢防水林と御用やぶの竹林	ひじかわのえのきじゅそう ぼうすいりんごようやぶの たけばやし	愛媛県 大洲市
		I	6	肱川のナゲ	ひじかわのなげ	愛媛県 大洲市
		I	6	肱川の瀬張り漁	ひじかわのせばりよう	愛媛県 大洲市
*	四国カルスト （しこくかるすと） 雄大なカルスト台地に、肉牛の放牧、ブナ原生林、ドリーネなどが展開し、個性ある景観を形成している。	I	3	四国カルストと放牧の牛	しこくかるすととほうぼくのうし	愛媛県 上浮穴郡柳谷村
		I	3	大野ヶ原のカルスト地形と牧草地	おおのがはらのかるすとちけいと ぼくそうち	愛媛県 東宇和郡野村町
*	麓川 （ふもとがわ） 河川流域の板橋・屋根付橋が、周辺の田園風景とともに個性ある景観を形成している。	III		麓川の堰群	ふもとがわのせきぐん	愛媛県 喜多郡内子町
		III		論田の麓川にかかる板橋	ろんでんのふもとがわにかかる いたばし	愛媛県 喜多郡内子町
		III		河内の屋根付橋群と田園風景	かわのうちのやねつきばしぐんと でんえんふうけい	愛媛県 喜多郡内子町
*	佐田岬半島 （さたまさきはんとう） 防風林のある段々畑と海岸の防波石垣等が個性ある景観を形成している。	I	2	佐田岬の段々畑と防風林	さたまさきのだんだんばたと ぼうふうりん	愛媛県 西等郡三崎町
		I	7	名取の石垣集落	なとりのでしがきしゅうらく	愛媛県 西等郡三崎町
		I	7	大佐田の船蔵群	おおさだのふなぐらぐん	愛媛県 西等郡三崎町
		I	7	石垣群の防風体	いしがきぐんのぼうふうたい	愛媛県 西等郡三崎町
*	四万十川 （しまんとかわ） 伝統的な漁業、農業、集落及び祭り等が、美しい四万十川を背景として一連の景観を形成している。	I	1	四万十川沿いの石垣と水田	しまんとかわぞいのいしがきと すいでん	高知県 幡多郡十和村
		I	6	四万十川の落ち鮎漁、ゴリ漁	しまんとかわのおちあゆりよう、 ごりよう	高知県 中村市
		I	6	四万十川の鮎漁	しまんとかわのあゆりよう	高知県 高岡郡窪川町
		I	6	四万十川の火振り漁	しまんとかわのひぶりよう	高知県 高岡郡窪川町
		I	6	四万十川の沈下橋と秋祭り	しまんとかわのちんかばしと あきまつり	高知県 幡多郡西土佐村
		III		四万十川源流一本橋	しまんとかわのいっぽんばし	高知県 高岡郡東津野村
*	柳川 （やながわ） 築後川河口付近の低湿地には、有明海の干拓地、掘割のある農地、市街地の掘、潮の干満を生かした漁業等の様々な景観が展開している。	I	1	柳川の条理遺構	やながわのじょうりいこう	福岡県 柳川市
		I	5	柳川の漁撈景観	やながわのぎょうけいかん	福岡県 柳川市
		I	5	柳川の漁港	やながわのぎょうこう	福岡県 柳川市
		I	6	柳川の掘割	やながわのほりわり	福岡県 柳川市
		I	6	永松荒子と導流堤	ながまつあらことどうりゅうてい	福岡県 柳川市
		I	6	大木町の堀干し	おおきまちのほりほし	福岡県 三潞郡大木町
		I	6	柳川のドンコ船	やながわのどんこぶね	福岡県 山門郡三橋町
*	佐賀平野の掘割 （さがへいやのほりわり） 佐賀平野の低湿地には、縦横に巡る掘割と独特の土地利用、習俗を背景とした景観が展開している。	I	6	佐賀平野の掘割を活かした姉川城跡	さがへいやのほりわりをいかした あねがわじょうし	佐賀県 神埼郡神埼町
		I	6	佐賀平野の掘割でのヒシ実採り	さがへいやのほりわりでのひしみとり	佐賀県 神埼郡千代田町
		I	6	直鳥城跡	なおとりじょうあと	佐賀県 神埼郡千代田町

重要地域	複 合 地 域	分 類	種 別	地 域	よみがな	所在地
------	---------	-----	-----	-----	------	-----

Ⅳ 複合景観（その９）

*	有明海 <small>（ありあけかい）</small> 福岡・熊本・佐賀の3県の沿岸に広がる有明海では、様々な伝統的な漁業が遠浅の海岸と一体となって個性ある景観を形成している。	I	5	有明海の漁撈景観	ありあけかいのぎょうけいかん	佐賀県 有明海沿岸
		I	5	有明海の干拓	ありあけかいのかんたく	佐賀県 有明海沿岸
		I	5	有明海の漁撈景観	ありあけかいのぎょうけいかん	熊本県 荒尾市
		I	5	有明海干潟	ありあけかいひがた	熊本県 玉名市
		I	5	御興来海岸	おこしきかいだん	熊本県 宇土市
		I	6	有明海 干拓堤防	ありあけかい かんたくていぼう	熊本県 玉名市
*	崎津 <small>（さきつ）</small> 崎津天主堂が美しい海と昔ながらの漁村集落とともに個性ある景観を形成している。	IV		崎津天主堂と崎津漁港	さきつてんしゅどうとさきつぎこう	熊本県 天草郡河浦町
*	阿蘇 <small>（あそ）</small> 阿蘇山の雄大なカルデラ地形には、広大な草地と放牧、集落、農地、野焼きや祭り等の独特の習俗などがみられ、様々な景観を形成している。	I	2	俵山から見た阿蘇	たわらやまからみたあそ	熊本県 阿蘇郡久木野村
		I	3	阿蘇の草原	あそのそうげん	熊本県 阿蘇郡阿蘇町
		I	3	草千里ヶ浜	くさせんりがはま	熊本県 阿蘇郡阿蘇町
		I	3	俵山、一の峯、高畑山の原野	たわらやま、いちのみね、たかはたやまのげんや	熊本県 阿蘇郡西原村
		II	1	阿蘇山	あそさん	熊本県 阿蘇郡阿蘇町
		II	3	阿蘇の雲海	あそのうんかい	熊本県 阿蘇郡阿蘇町
		II	4	霜宮の火焚神事	しもみやのひたきしんじ	熊本県 阿蘇郡阿蘇町
		III		二重峠石畳	ふたえのとうげいしだたみ	熊本県 阿蘇郡阿蘇町
*	別府 <small>（べっふ）</small> 別府温泉街の湯けむりや、温泉地から見える扇山の野焼きが迫力ある景観を形成している。	I	3	扇山・十文字原一帯の野焼き	おうぎやま・じゅうもんじはら いったいののやき	大分県 別府市
		II	1	別府の湯けむり	べっふのゆけむり	大分県 別府市
*	久住山 <small>（くじゅうさん）</small> 久住山の自然や独特の気象条件と、草地の放牧、伝統的な祭り等の習俗が一体となって個性ある景観を形成している。	I	3	久住高原の松並木	くじゅうこうげんのまつなみき	大分県 直入郡久住町
		I	3	久住山・久住高原、久住の野焼き	くじゅうさん・くじゅうこうげん、くじゅうののやき	大分県 直入郡久住町
		II	2	久住山・大船山・黒岳の山々	くじゅうさん・たいせんざん・くろだけのやまやま	大分県 直入郡久住町
		II	4	久住祭りの山車	くじゅうまつりのだし	大分県 直入郡久住町
	霧島連山 <small>（きりしまれんざん）</small> 様々な神話の舞台となった霧島連山を背景に、棚田や集落が点在する景観が展開している。	I	1	持松の棚田	もちまつのたなだ	鹿児島県 始良郡牧園町
		II	2	霧島連山	きりしまれんざん	鹿児島県 始良郡霧島町